
Official Guide Book
2019
TOKYO
WHISKY & SPIRITS
COMPETITION
Glenmorangie Signet
Hibiki 21 Years Old
Talisker 25 Years Old
Yamazaki 12 Years Old
Kavalan Solist Oloroso Sherry
Don Julio Reposado
Kilchoman Machir Bay
Roku
Yuzugin
Lafontan 1979
Appleton Estate 21 Years Old
Glenfarclas Single Cask 1989 "Black George Label"
Komagatake 1990 27 Years Old Single Cask No.1040
Glen Grant The Major's Reserve
Ichiro's Malt & Grain Japanese Blended Whisky Limited Edition 2019
Don Julio 1942
Diplomatico Reserva Exclusiva
Akayane Gin Heart Fuyu
Dictador 20 Years Old
Dictador XO Perpetual
Egan's 10 Year Old
Fuji-Gotemba Distiller's Select Single Malt 2018
Ichiro's Malt & Grain Kiyosato Field Ballet 29th Anniversary
Glenfiddich 21 Years Old
Caol Ila 2005 11 YO G&M Exclusive Whisky Kentei
Yamazaki 18 Years Old
Loch Lomond 12 Years Old
The Essence of Suntory Whisky Yamazaki Distillery Peated Malt
Royal Brackla 12 Years Old
Glenmorangie 18 Years Old
Kavalan Solist Sherry Oak
Kavalan Solist Fino Sherry
Kavalan Solist Port
Kavalan Solist Vinho Barrique
Ron Zacapa 23
Ron Zacapa Centenario Sistema Solera 20
Ron Zacapa Centenario Sistema Solera Gran Reserva Especial
Ron Zacapa Centenario Sistema Solera Gran Reserva Especial Edición Limitada
Ron Zacapa Centenario Sistema Solera Gran Reserva Especial Edición Limitada Edición Negra
Ron Zacapa Centenario Sistema Solera Gran Reserva Especial Edición Limitada Edición Negra Edición Negra
Ron Zacapa Centenario Sistema Solera Gran Reserva Especial Edición Limitada Edición Negra Edición Negra Edición Negra
Ron Zacapa Centenario Sistema Solera Gran Reserva Especial Edición Limitada Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra
Ron Zacapa Centenario Sistema Solera Gran Reserva Especial Edición Limitada Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra
Ron Zacapa Centenario Sistema Solera Gran Reserva Especial Edición Limitada Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra
Ron Zacapa Centenario Sistema Solera Gran Reserva Especial Edición Limitada Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra
Ron Zacapa Centenario Sistema Solera Gran Reserva Especial Edición Limitada Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra
Ron Zacapa Centenario Sistema Solera Gran Reserva Especial Edición Limitada Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra
Ron Zacapa Centenario Sistema Solera Gran Reserva Especial Edición Limitada Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra
Ron Zacapa Centenario Sistema Solera Gran Reserva Especial Edición Limitada Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra
Ron Zacapa Centenario Sistema Solera Gran Reserva Especial Edición Limitada Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra
Ron Zacapa Centenario Sistema Solera Gran Reserva Especial Edición Limitada Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra
Ron Zacapa Centenario Sistema Solera Gran Reserva Especial Edición Limitada Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra
Ron Zacapa Centenario Sistema Solera Gran Reserva Especial Edición Limitada Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra
Ron Zacapa Centenario Sistema Solera Gran Reserva Especial Edición Limitada Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra Edición Negra
Ron Zacapa Centenario Sistema Solera Gran Reserva Especial Edición Limitada Edición Negra



Glenfiddich

はじめて世界に挑戦したシングルモルト

WORLD'S MOST AWARDED
SINGLE MALT SCOTCH WHISKY

STOP! 20歳未満飲酒

ストップ！20歳未満飲酒・飲酒運転。お酒はなによりも適量です。妊娠中や授乳期の飲酒はやめましょう。

サントリースピリッツ株式会社

主催者挨拶



昨年３月に準備が始まった「東京ウイスキー＆スピリッツコンペティション」も、この授賞式、授賞パーティーをもって一段落を迎えます。この１年間、ずっと考えていたのが、コンペのあり方、その意義というものでした。私達が一番にこだわったのはコンペそのものの透明性、そして審査の公平性ということでした。そのため実行委員会を設け、運営母体であるウイスキー文化研究所のスタッフと共に、毎週のようにミーティングを重ねてきました。さらに日本全国から審査員候補を選び、参加を呼びかけました。業界団体や業種を超え、今回全国から178名のジャッジが集まってくれたのも、日本初開催のコンペへの大きな期待があったからだと思います。

これだけ多くのジャッジをお呼びしたのは、同じ空間でブラインド審査という経験を積んでもらいたかったというのも理由です。ウイスキー、スピリッツは今世界的に大人気ですが、これをさらに次の世代、特に若い世代に繋げていくには、ウイスキーやスピリッツに携わる私達一人ひとりが、ウイスキーやスピリッツの伝道師、深い酒の知識を伝えられるアンバサダー、キュレーターにならないといけないと思っています。正しくその酒を評価するためには、官能だけではなく、その造りや文化も含めた深い知識が必要です。このコンペを通して、正しい知識と経験を積むことができれば、造り手も販売担当も、そして飲み手も成長していけるものと信じています。

すでに第２回目（2020年３月）に向けての準備が始まっています。引き続き、ご協力を賜ることができれば幸いです。

2019年（令和元年）６月８日
TWSC実行委員長／ウイスキー文化研究所代表　土屋 守

Contents

02 第1回TWSCの審査結果から見えてきたもの
実行委員長インタビュー　土屋 守

08 **審査概要** 審査のフライトやジャッジの組み合わせはどう決められたのか

10 **審査会リポート**

15 **最高金賞リスト**

20 **金賞リスト**

27 **銀賞リスト**

43 **銅賞リスト**

53 **特別賞**
TWSC2019 オブ ザ イヤー
ベストディスティラリー オブ ザ イヤー
カテゴリーウィナー

62 **ウイスキー＆スピリッツの現在**
サントリースピリッツ（株）　鳥井憲護氏
（株）ベンチャーウイスキー　肥土伊知郎氏
（株）信濃屋食品　北梶 剛氏
（株）SCREW 代表取締役社長　海老沢忍氏
MHD モエ ヘネシー ディアジオ（株）　平井茂樹氏　ロバート・ストックウェル氏

70 **審査員紹介**
総勢178名のプロフィール

76 **TWSC実行委員会座談会**

82 **実行委員プロフィール**

84 **Best of the Bestがついに決定!!**

Official Guide Book
2019
TOKYO
WHISKY & SPIRITS
COMPETITION

■編集・発行人
土屋 守

■編集
土屋茉以子
飯田龍平
植竹明彦
千種恵子
長坂優美花
渡辺義治
五十嵐順子
大久保亮
藤嶋亜弥
小島優佳
（以上ウイスキー文化研究所）

■デザイン
福野純平（I'll Products）

■広告営業
砂山芽久
檀野拓馬
加藤寛康
（以上ウイスキー文化研究所）

■写真
藤田明弓
関口洋美
伊藤綾香
（ボトル撮影、ウイスキー文化研究所）
土屋 守
渋谷 寛

■発行
株式会社ウイスキー文化研究所／
TWSC実行委員会

■印刷
日経印刷株式会社

東京
ウイスキー&
スピリッツ
コンペティション
総括インタビュー



TWSC実行委員長　土屋 守

Mamoru

第1回TWSCの審査結果から見えてきたもの

**世界中のウイスキーと
スピリッツ527本を審査したTWSC。
178人もの酒のプロたちが審査員として参加し、
厳正なるブラインド審査で採点を行った。
その結果から見えてきたのは、
新しい酒造技術の確かな実力と、
伝統的な地域を越えた酒文化の広がり。
そして、大きな変革期を迎えた
ウイスキー&スピリッツの世界だった。
実行委員長・土屋守が審査結果を総括する。**

文＝能勢 剛

予想外だった“ノンエイジ”の台頭

――ブラインド審査の醍醐味は、世間の相場観に左右されずに、リアルな酒の実力が明らかになることだ。今回のTWSCの審査結果からは、そうした例がいくつも読み取れるという。

審査をブラインドで行ったことの最大の成果は、先入観なしで酒の評価ができたこと。事前には予想もしていなかったような結果が出てきました。その典型が、スコッチウイスキー部門の金賞、および特別賞のベストコストパフォーマンス賞（スコッチ部門）を獲得した「グレングラント ザ メジャーリザーブ」です。

販売価格が2000円台、ノンエイジのモルトウイスキーなので、かなり若い原酒で造られているはずなのですが、それが他の熟成年数の長い、高価格のウイスキーと同等以上の評価を獲得した。グレングラントシリーズの中でも、いちばん安価な製品なのに、得点で上位製品を抜き、

私たちは、大きな変革期の入り口に立っている

Tsuchiya

最も上に来ました。

グレングラントは1840年の創業。スペイサイドの古い蒸留所です。ノンピートの大麦麦芽、ストゥーパ型の大型ポットスチル、軽い酒質が得られる精留器といった組み合わせで、ライトでフルーティな風味が特徴。しかも、その中のノンエイジですから、トップクラスの評価を得るようなウイスキーではないと、誰もが思っていました。

私自身はこの審査には参加していませんでしたので、最初に結果を見たときには、何かの間違いじゃないかと……。審査会後に自分でテイスティングしてみると、確かに美味しい。１～２年前に飲んだメジャーリザーブよりずっと美味しくなっていたんですね。それを、このテイスティングを担当した審査員の全員が見抜いた。ブラインド評価でなければ、以前のイメージに引きずられて、この結果にはならなかったと思います。

――かつて、スコッチの蒸留所が初めてノンエイジを出した際には、愛好家から非難の声が上がったという。熟成年数が表示できないランク下の酒とのイメージがあったからだ。しかし、現在のノンエイジには、伝統に縛られない造りを可能にするという側面がある。

原酒が不足して来ると、熟成年数の若いものから先になくなっていきます。例えば、サントリーの白州も山崎も、終売になったのは、まず10年。続いて12年、18年という順です。1990年代後半から2000年代中頃は、ウイスキーが非常に低迷していた時代でしたので、仕込み量が極端に少なかったんですね。原酒不足対策で、さまざまな蒸留所が、若い原酒を使ったノンエイジを出すようになりました。しかし、原酒不足が解消しつつある現在、ノンエイジの意味合いは、かなり変わってきています。

若い原酒に込められた新しい技術

――製品ラインナップのいちばん下が、最も美味しい。この逆転現象は、決して偶然の産物ではない。生産工程の見直しや新技術の導入が招いた必然だったと、土屋はいう。

グレングラントは、2006年からイタリアのカンパリ社が所有していて、もともとイタリアのシングルモルト市場では７割近くのシェアを持っています。かつては、マッカランやグレンフィディック、グレンリベットと並ぶようなスペイサイドの老舗蒸留所だったのですが、カンパリ傘下に入るまでは経営母体が二転三転。10年以上も不遇の時代が続いていました。そんなカンパリ社が、立て直しの責任者として白羽の矢を立てたのが、グレングラント一筋、50年近いキャリアを誇るデニス・マルコム氏だったのです。

そのマルコム氏が、生産工程のあらゆる面を見直していく中で、大きな成果を上げたのが、樽の質にこだわるウッドマネジメントの導入でした。そもそも、ウイスキーの風味の７～８割は、樽と熟成で決まると言われるほど、樽の役割は重要です。しかし、樽の重要性が認識されはじめたのは、せいぜいこの20年くらいのこと。それ


グレングラントのデニス・マルコム氏。

仏舎利塔のような形をしたグレングラントのポットスチル。８基すべてに精留器が付いている。


以前は、樽は単なる容器で、手に入れやすいものを使うという考え方が主流でした。たまたまいい樽にあたると、結果として美味しいウイスキーに、そうでない樽を使うと不味くなる、ということが当たり前だったんです。

それが、20年ほど前から、どの蒸留所も樽の重要性を徐々に認識しはじめる。いま各蒸留所とも、樽に莫大な投資をしています。なかには、熟成庫にある１万樽以上のストックを、10年がかりですべて質のいい樽に入れ替えたという蒸留所もあるほどです。

なので、若い原酒ほどウッドマネジメントの恩恵に浴している。ザ・メジャーリザーブをテイスティングした時に、まずそのことが頭に浮かびました。

そういった目で、今回、審査した全部のウイスキーを見返してみると、確かにノンエイジのほうに評価の高いものが目立ちます。今回のTWSCで見えてきた、現時点ならではの必然的なウイスキー評価ですね。

樽の最適化を探り続けたこの20年

――バーボン樽かシェリー樽か。ウイスキーを語る際に欠かせない要素だが、実はどちらの樽も不用品の再利用から始まった。その構図からの脱却が始まったのは、わずか20年ほど前のことだ。

現在、スコッチウイスキーが使っている樽の90%は、アメリカンホワイトオークのバーボン樽です。バーボンが使うのは新樽のみ。内側を強く焦がした樽を使います。新樽しか使えないので、４～６年の熟成が終わると、ケンタッキー州だけで年間150万樽くらいの空き樽が出てきます。これに目を付けたのがスコッチの蒸留所で、1970～80年代から、安く手に入るバーボン樽を盛んに使うようになりました。

それまでスコッチが主に使っていたのは、ヨーロピアンオークのシェリー樽。イギリスはシェリーの大消費地ですから、スペインから樽詰めで輸入していた。その空き樽にウイスキーを詰めて熟成させたんです。使われていたのは、あくまでもシェリー輸送用の樽で、シェリーを熟成させた樽ではありません。ソレラシステムで熟成させるシェリーでは、積み上げた樽を100年近く使い続けることが特徴で、滅多に空き樽は出てきません。しかも材質はヨーロピアンオークではなく、ほぼ100%アメリカンホワイトオーク。

しかし、その輸送用の樽も、1986年にスペインがECに加盟したことで樽での輸出が禁止され、手に入らなくなる。シェリーのブランドを守るために、輸出はボトリングした製品に限定されたからです。バーボン樽が使われるようになったのには、そんな背景がありました。

ところが、このバーボン樽の質が、当初はスコッチにとってあまりよくなかった。多くはミシシッピ河流域で伐採した樹を、せいぜい２～３ヵ月の人工乾燥をさせただけで樽にしている。スコッチのように長期熟成で繊細な酒質のウイスキーを造るには、どうしても生木臭が出るし、雑味も出てくる。そこで試行錯誤しながら、スコッチに最適な樽の開発が始まりました。

ウッドマネジメントが審査結果に反映

――ウイスキーを最も美味しくできるのは、どんな木材を、どんな状態で使った樽なのか。そこを追い求めることから、ウッドマネジメントの研究は始まった。

樽のパイオニアと言えば、もちろんグレンモーレンジ

ィの統括製造責任者を務めるビル・ラムズデン博士。グレンモーレンジィではオーク材をそれぞれ６ヵ月、12ヵ月、18ヵ月、24ヵ月の天日乾燥にかけてテスト。24ヵ月の天日乾燥にかけると、木材の青臭さが抜けてベストな状態になることを突き止めます。さらに、その樽でバーボン（実際にはテネシーのジャックダニエル）の熟成を４～５年。空き樽にウイスキーのニューポットを詰めて熟成10年。最適な樽を探すのにトータルで20年近くかかったわけです。現在では、グレンモーレンジィがミズーリ州で24ヵ月天日乾燥の樽を調達し、それをバーボンの蒸留所にレンタル。バーボン熟成後に空き樽を回収するという仕組みが定着しています。他の蒸留所も、それに倣うところが増えてきました。

ヨーロピアンオークのシェリー樽についても、同様の取り組みが始まっています。オークの産地である北スペインのガリシアで12ヵ月以上の天日乾燥。その木材を南スペインのヘレスに運んでさらに12ヵ月の天日乾燥。出来上がった樽には、シェリー業者に頼んで２～３年、オロロソシェリーなどを詰めてもらいます。この工程は樽の“シーズニング”と呼ばれ、終わった空き樽がスコッチの蒸留所などに引き渡されます。この仕組みが始まってまだ10年ほど。恩恵を受けたウイスキーが製品化されるのは、もう少し先のことです。

つまり、いまや熟成用の樽は「ウイスキーの命」と言ってもいい存在なのですが、そういったことが分かり、取り組みが始まったのは、わずかこの10年くらいのこと。今回のTWSCの結果には、ウッドマネジメントの効果が顕著に表れていると思います。

無名クラフト蒸留所の素晴らしい実力

――今回の出品酒には、酒のプロでさえほとんど聞いたことがない銘柄が含まれている。ラベルを見せる品評会であれば、実績のない銘柄の不利は否定できない。しかし、ブラインド審査では……



ケンタッキー州にあるブラウンフォーマン社のクーパレッジ。

ブラインドテイスティングの面白さのひとつは、思いもしなかった無名の酒が、高い評価を受けるという意外性にあります。銀賞および特別賞のベストアメリカンウイスキー賞を受賞した「アラ ワイ キアウェ」は、ハワイのホノルルにある小さなクラフト蒸留所。私を含めて、実行委員会の全員が知らない銘柄でした。ハワイで造られてはいますが、連邦アルコール法のバーボンのレギュレーションに則った、れっきとしたバーボンウイスキーです。

美味しさの秘密は、バーボンで一般的な蒸留酒用の酵母ではなく、２種類のワイン酵母を使っていること。これによって、独特のフルーティなアロマを出しています。しかも、口当たりの滑らかさを出すために、バーボンでは通常行わないチャコール・メローイング(木炭による濾過)の工程を、あえて加えている。木炭の原料は、ハワイでは有名なキアウェという木です。このおかげで、ゴツゴツとした一般的なバーボンの印象とは異なる、フルーティで滑らか、洗練された味わいのバーボンになっています。とはいえ、ブラインドでなかったら、ハワイ産のバーボンという先入観だけで、ここまでの評価にはならなかったかも知れません。担当した審査員の全員が高得点を付けたのは、ブラインド評価ならではです。

ジン部門で最高金賞を獲得した「スティン」も、オーストリアで2017年に創設されたばかりの無名ブランド。オーストリアの新興ジンという先入観がなかったことで、高い評価を引き出せたのだと思います。

最高金賞を獲得した対照的な日本の2本

――TWSCの大きな見どころのひとつであり、出品者の関心でもあったのは、日本初の大規模コンペで、日本人審査員がジャパニーズウイスキーをどう評価するのか、という点だった。

最高金賞を獲得したウイスキー９本の中に、５本のジャパニーズウイスキーが入ったことはインパクトがありました。特に、本坊酒造の駒ヶ岳が２本入ったことには驚かされました。この２本、同じ銘柄ながら好対照なウイスキーなのです。

「駒ヶ岳1990 27年 シングルカスクNo.1040」は、1990年にマルス信州蒸溜所で蒸留されたもの。この蒸留所は、1985年に長野県の木曽駒ヶ岳山麓に開設されたのですが、もともとは1960年に出来た山梨県石和町の蒸留所が移転したものです。石和工場のプランニングをしたのが、ニッカウヰスキーの創業者、竹鶴政孝の学校の先輩で、摂津酒造の上司でもある岩井喜一郎。娘婿の本坊蔵吉らに

頼まれ、手元に所持していた“竹鶴ノート”を参考に蒸留所を建設しました。設備は、後の信州蒸溜所へと引き継がれます。

信州蒸溜所は、80年代終わりから90年代にかけての級別廃止やウイスキー不況に抗えず、92年に生産を休止するのですが、その直前の90年に蒸留されたものが今回の１本です。当時はウッドマネジメントはあまり知られていなく、アメリカンホワイトオークの樽に詰められたまま27年間、忘れられたように眠っていました。駒ヶ岳山麓の冷涼な気候が長期熟成に向いていたことから、極めてレベルが高い酒質に到達したんですね。

もう1本の「駒ヶ岳2012 ６年 シングルカスクNo.1493」は、2011年に信州蒸溜所が操業を再開した翌年に仕込んだもの。東日本大震災の影響で、生産立ち上げがゆっくりになった分、製造工程や原料の見直しに時間をかけることができたのだと思います。使用した麦芽は、ピートの強さによって４タイプ設定したうち、50ppmの最もヘビーなもの。ウッドマネジメントの知識も入ってきていますから、アメリカンホワイトオークのバーボン樽、それもフレーバーが出やすいファーストフィルを使用しています。その結果、わずか６年間の熟成で、27年物と同じ点数を獲得しました。まさに、今回のTWSCで見えてきたウッドマネジメント時代の始まりを、この２本が象徴しています。

賞を総なめした“暑い国”のウイスキー

――もうひとつ、TWSCの見どころは、世界的に高い評価を得つつある新興地域、特に暑い地域のウイスキーがどう評価されるのかだった。

新興地域の結果で象徴的なのが台湾のウイスキー、カバランです。最高金賞の「カバラン ソリスト オロロソシェリー」をはじめ、出品されたラインナップのほぼ全てが、金、銀、銅賞のいずれかを獲得しました。同じく台湾のオマーは、「オマー ８年 バーボンカスク カスクストレングス」など銀賞が３本、インドのポール・ジョンは、「ポール・ジョン エディテッド」など２本が銀賞を獲得。もはや、ウイスキーは冷涼な地域だけの酒ではないということを証明しています。

逆に言えば、ウッドマネジメントなどの製造技術がしっかりしていれば、どんな気候であっても、それに応じた造りができるということです。スコットランドのような冷涼な気候は、ウイスキーの長期熟成に向いていますが、熟成のピークに持っていくのに時間がかかります。それに対して、台湾やインドのような暑い国では、ごく


スペインのヘレスにあるシェリーのボデガ。これがソレラシステムの樽だ。

短い時間でピークに持っていくことができる。もちろん、それだけコントロールは難しいのですが、世界的なウイスキー造りの技術進歩があって、短期間で造るだけの技術力は十分にある。“狙って造れる”時代になってきたんだと思います。

スコットランドでは、逆に熟成庫にヒーター設備を備える蒸留所が出てきていますが、これには台湾やインドの影響があるのでしょう。台湾やインドにはあって、スコットランドに欠けているものは熟成庫の温度だけですから（笑）。

いずれにせよ、生産地や熟成年数だけでは、ウイスキーの優劣を判断できない時代がすでに始まっています。

出品者、評価者、消費者の向上の場に

――今後、TWSCは毎年開催される予定だが、この日本で開催される大規模コンペの存在が世界に認められ、審査結果に敬意が払われるようになるには、なによりも継続の力が大切だと土屋はいう。

TWSCは、審査員が日本人であることが特徴のひとつです。世界のウイスキーやスピリッツに対する日本人の間口の広さ、知識の豊富さ、スキルの高さ、そして味覚の繊細さを期待してのことでした。第１回目の審査を終えてみて、その期待は間違っていなかったと確信しています。これだけ客観的で公平なジャッジは、世界のどこに出しても通用するものだと思います。

さらに、ここから目指していくのは、経験値の積み重ねです。毎年、ブラインド評価を経験していくことで、審査員の評価スキルが磨かれていく。同時に出品者の技術や消費者の酒を見る目も向上していく――そんな互いに高め合えるような場にしていきたいですね。



ワンウェイ容器の処理について

飲食店様で使用されたワンウェイびんやペットボトル、缶などの空容器（リターナブル容器以外の空容器）は、廃棄物処理法により飲食店様ご自身で処理していただかなくてはなりません。事業廃棄物として自治体の定めたルールに基づき適切に処理をお願いします。

STOP! 20歳未満飲酒

スピリッツ ストップ！20歳未満飲酒・飲酒運転。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。ほどよく、楽しく、いいお酒。のんだあとはリサイクル。

お酒

すべては、お客さまの「うまい！」のために。 販売者：アサヒビール株式会社

審査概要

審査のフライトやジャッジの組み合わせはどう決められたのか

昨年（2018）3月にスタートしたTWSC。日本で、これだけの規模でウイスキー＆スピリッツのコンペティションをやるのは初めてだった。まったくの手探り状態でのスタートだったが、もっとも力を入れたのが審査員の人選と、フライトの構成、そしてジャッジの組み合わせ、さらに最後はどのジャッジテーブルでどんなウイスキー、スピリッツをテイスティングしてもらうかだった。エントリーボトルが確定した1月下旬から本番まで、難解なパズルを解くように、その作業が続けられた。

文＝土屋 守

1 ボトルエントリーからカテゴリー分け

コンペの概要説明のための記者会見が行われたのは2018年８月。エントリーが始まったのは、その１ヵ月後の10月からだった。当初想定していたカテゴリーは80超。しかしカテゴリーを増やしたこともあり、最終的には126カテゴリーに。そのエントリーボトル527本のカテゴリー分けが決まったのは、年明けの2019年１月下旬のことだった。その間、エントリーされたボトルはその都度撮影され、分類、仕分けがされていく。

エントリーとカテゴリー分けが確定したところで、次にやったのは各ボトルのフライト分け。当初１フライトは最大８本のボトルで構成する予定だったが、審査員の数に対してボトルが思ったほど集まらなかったのと、テイスティング時間の問題もあり、マックス７本とした。何度も何度も手順をシミュレーションし、連日のようにウイ文研でミーティングが続けられたが、１フライト最大７本、１セッション（審議）３フライトまでと決められた。これは会場の都合で３日間開催が叶わず、変則的な２日で３セッションを行う必要が生じたためでもある。２日目は午前と午後で２セッションを行わないといけない。当初考えていた各セッションで４つのフライトを行うことは、この時点で断念した。

つまり、１ジャッジテーブルで３フライト（３時間）、最大21本のボトルをブラインドで審査してもらおうということが、決定された。

2 フライト分けからジャッジの組み合わせ

フライト分けで肝心なことは、同カテゴリーのものはなるべく同フライト内にまとめること。もちろんスコッチのシングルモルトのようにエントリー数の多いものは５〜６フライトに分かれる。その際テイスティングの順番にも気を使った。セオリーとして年数の若いものから古いもの、度数の低いものから高いもの、ノンピートからヘビリーピート、そしてバーボン樽からシェリー樽である。フライトのアイテムは最大７本から少ないもので４本というものもあった。それらを難解なパズルを解くように、最終的に88フライトに分けることができた。

フライトが確定するまでに要した時間は１週間。それからジャッジの組み合わせに取りかかる。今回のジャッジは全部で180名（当日欠席２名で178名）。それぞれ希望する日時があるので、まずは希望に沿って大まかに分け、そこから各テーブルの配置を考えてゆく。これも難解なパズルのようで、１テーブル６名、各セッションごとのテーブル配置が決まったのは、本番２週間前だった。もちろん、その段階で各テーブルのリーダー、チェアマンを内定した。

3 ジャッジと審査するフライトを組み合わせる

88のフライトとジャッジの組み合わせ、各セッションごとのテーブル配置が決まったところで、今度はどのジャッジテーブルで、どんなカテゴリーのフライトを審査してもらうのか、アイテムとジャッジのマッチングの作業が始まった。コンペが成功するかどうかは、このマッチングにかかっている。それまで以上に難解なパズルで、このパズルが解けたのは、本番１週間前。ギリギリの状態だった。

それと並行して進められていたのが、各ジャッジテーブル（３セッションで通し番号が付けられている）と、それに対応する裏方テーブルの人選、そのリーダー選びである。最大でテーブル数は13。３セッションで計32テーブルだったが、各裏方テーブルにはウイ文研スタッフ１名と、サポートスタッフ２名を配した。この裏方テーブルはジャッジテーブルの番号と対応している。つまり裏方テーブルの１は、ジャッジテーブルの１に対応していて、そのテーブルにのみ３フライト分のグラスを出すというシステムである。

すでに会場にボトルが搬入された段階でウイ文研スタッフもサポートスタッフも、ボトルが何か分からない状態になっている。527本のボトルはすべて事前に黒のラップで巻かれ、ラベルもキャップも分からない状態になっている。頼りは首に巻かれた、識別番号が記されたタッグのみである。ブラインドを徹底するためには、そこまで完璧にしないとダメだと思ったからである。すべては審査に公平性を期すためだ。



4 採点方法とその集計

採点はブラインドで、１アロマ、２フレーバー、３バランス等でそれぞれ30点、40点、30点の100点満点で付けてもらった。フライトごとに各ジャッジには提出用のジャッジペーパーと、控え用の２枚が配られた。正確性を期すためにジャッジペーパーには、各ジャッジの名前がプリントされている。もちろんセッション番号、フライトNo.、そしてアイテムの順番も記されている。分からないのはそのボトルの中味だけだ。ジャッジペーパーはフライトごとに用意されているから、ジャッジ×３枚、計540枚の異なるペーパーを用意したことになる。

最後まで実行委員会やウイ文研のミーティングで議論になったのが、88フライトのカテゴリーを明かすかどうかだった。詳細なカテゴリーはあくまでも秘密だが、それがウイスキーなのか、そうでないのか。ウイスキーだとしたら、スコッチなのか、それともジャパニーズ、アイリッシュ、アメリカンなのか…。せめて大まかな種類くらいは明かしたほうがよいという意見が多数だった。そこで、そのフライトの大まかな種類を表すキャッチコピーを新たに考えた。つまりスコッチならスコッチ、アメリカンならアメリカン、という具合に。もちろん、具体的にそれがバーボンなのかテネシーなのか、あるいはシングルモルトならそれがカスクなのか、そうでないのか、年数、オフィシャル、ボトラーズなども、すべて明らかにせずに、ブラインドのままとした。

集計は当初、６人のジャッジの最低点と最高点を、それぞれ２番目のものに揃え、その上で合計して平均点を出すという方法をアナウンスしていたが、実際には最低点のみを２番目に低い人の点数に揃えるだけに留めた。上の点数にそれほど差がなかったのに対し、下の点数では20～30点の大きな開きが見られたからだ。

はたして、それが機能したのかそうでなかったのか。結果は15ページ以下の受賞アイテム271本のリストを見て判断していただくしかない。













Session 1

TWSC 3.11-12
審査会リポート

東京ウイスキー &スピリッツコンペティションの審査会が、
2019年3月11日（月）、12日（火）の2日間に渡り、東京EBiS303イベントホールにて行われた。
熱気に溢れた2日間、3セッションに渡る審査の模様をリポートする。











２日間、３セッションに参加した審査員の数は延べ190名（当日欠席２名）。北は北海道、南は沖縄まで、日本全国から名バーテンダーやスピリッツの輸入・販売・製造関係者、業界誌記者、お酒の資格保持者など、お酒に関するスペシャリストたちが会場に集結した。

審査初日の朝８時。会場に裏方スタッフが集合し、事前準備をスタートした。会場レイアウトの設営はもちろん、審査するボトルの確認、グラス、サービスワゴンなど備品のスタンバイ、受付、物販ブースの設営などを行う。それ以前にも裏方スタッフは、出品されたボトルの管理システムの構築や、エントリーされた527本全てのボトルのナンバリング、写真撮影、スムーズな配膳のためのシミュレーションなど、この日の事前準備のために半年という期間をかけていた。

午前11時に各審査テーブルのチェアマンが会場に到着。実行委員長の土屋と審査の流れや注意事項について確認を行う。正午には、「この歴史的なコンペに立ち会いたい」という意欲を持って集まったサポートスタッフが続々と到着し、TWSCオリジナルTシャツと黒のベレー帽のユニフォームでスタンバイした。

Session 2

















審査員一人ひとりが熱意をもって酒と向き合う

12時15分から審査員の受付が開始された。日本初のコンペということで、期待に満ちた表情で続々と審査員が到着する。そしていよいよ12時40分にセッション１のオリエンテーションがスタートした。初日のオリエンテーションはウイスキーとテキーラで、テキーラのオリエンテーションで登壇した林生馬氏の呼びかけで審査員全員で乾杯。日本初の洋酒のコンペティション開催に向けて会場は一体感に包まれていた。

そして13時30分から、76名の審査員によるセッション１の審議１がスタートした。審査員たちは、液体を光に透かして確認する人、グラスを両手で覆う人、目を閉じて嗅覚、味覚を研ぎ澄ませる人…など各々のスタイルでテイスティングしていく。審査中はグラスが当たる音が会場に響くほどの静寂に包まれ、皆、真剣に一つひとつのお酒に向き合い、審査に臨んでいた。40分間の審議を終え、チェアマンがテーブル全員のジャッジペーパーを回収、集計係へと渡された。集計係はその採点用紙に書かれた点数を直ちに入力。集計作業を進めていく。










Session 3

10分の休憩を挟み、審議２へ。続いて審議３が行われ、16時20分に初日のすべての審議が終了した。全回答用紙が回収されたことを確認後、審査員には、それぞれのテーブルでテイスティングしたアイテムの銘柄表が配布された。その銘柄が明かされるやいなや、会場にはどよめきが起こっていた。

２日目のセッション２は10時30分から審議がスタート。参加した審査員は60名。この日も名だたるバーテンダーたちをはじめ、造り手、メディア関係者など、全国各地から錚々たる面々が一堂に会することになった。オリエンテーションでは、ウイスキーとジンのテイスティングが行われた。最後のセッション３は午後３時30分から。参加した審査員は52名。オリエンテーションはウイスキーとラムで、ラムのオリエンテーションは日本ラム協会の海老沢忍氏が担当した。

審議を重ねるにつれ、会場の空気も和やかになっていく。国内の主要な酒類関係者が一堂に集まっていることもあり、審査を終えた審査員同士、また審議と審議の合間の休憩時には業界やジャンルの垣根を超えて、活発な交流が生まれていた。このような光景も今回のコンペティションならで













はだったと言えるだろう。

午後６時にすべてのセッションが終了し、２日間に渡る日本初の洋酒コンペティションは成功裏に幕を閉じた。

裏方スタッフの活躍と藤原新也氏の書「命」

今回のコンペの成功には、裏方スタッフの活躍も欠かせないものだった。スムーズで間違いのない配膳を始め、審査時のテイスティングアイテムの状態に差が出ないよう、ボトルの開封時間を審査員にサーブする何分前と決め、一律で統一。注いだ後はグラス１つ１つにプラスチックの蓋をかぶせるなどの細やかな配慮もなされていた。さらにテイスティングの順番を間違えないよう、１つ１つのグラスには色分けされた小さなシールが貼られるという念の入れようだった。その徹底したホスピタリティには、審査員からも賞賛の声が上がるほどだった。

また会場には、写真家の藤原新也さんによる書、「命」が飾られた。これは今回のコンペのために特別に書かれたもので、「命」とはもちろんスピリッツの語源「命の水」のこと。裏方スタッフが着用していたTWSCオリジナルTシャツや、審査員へのお土産のミニボトルにもこの「命」の文字がデザインされ、日本初のウイスキーとスピリッツのコンペティションを特別なものにしていた。



Tokyo Whisky & Spirits Competition
March 2019

最高金賞

Superior Gold Winner

当初、実行委員会として決めていたのは金賞と銀賞と銅賞の３つである。ジャッジはブラインドで100点満点で採点するが、目安として掲げていたのは70点以上が銅、80点以上が銀、90点以上が金である。賞として一番多かったのが80点以上の銀賞。ついで銅賞、金賞の順になっている。

90点以上の金賞の中で、特に得点の高かったものは後日実行委員会のほうで再度テイスティングを行い、最高金賞として表彰することにした。これは、予定にはなかった賞だが、第１回目ということもあり、特別に優れたものには、さらにその上の賞をあげたということで、その話題性や造りも含めて総合的に選ばせてもらった。

それを見るとウイスキーが13本中、９本ともっとも多い。しかもそのうちの５本がジャパニーズと圧倒的である。それも駒ヶ岳の２本がカスクストレングスで、山崎12年と響21年がサントリーのシングルモルトとブレンデッド、そしてイチローズが羽生原酒と川崎グレーンをブレンドした、PBのブレンデッドである。その内容も多彩で、現在のジャパニーズウイスキーの現状を象徴しているかのようなラインナップである。他カバランが１種、コニャックが１種、そしてラム、テキーラ、ジンとなっている。特に100を超えるジンの中で１番に輝いたのはオーストリアのクラフトジン、スティンだった。ブラインドでなければ、これほど上位に来ただろうか…。今回のコンペの真骨頂であると思っている。

（文責：土屋 守）



スコッチウイスキー／シングルモルト

グレンファークラス シングルカスク 1989 “ブラック・ジョージ・ラベル”

Glenfarclas Single Cask 1989 "Black George Label"

700ml　55.4%
ミリオン商事
スコットランド

『ウイスキーガロア』のテイスターで、ウイスキー文化研究所認定マスター・オブ・ウイスキーの静谷和典氏が選んだシングルカスクのグレンファークラス。オフィシャルだが、ラベルはオリジナルで、ブラック・ジョージのジョージはグレンファークラスの現社長であるジョージ・グラント氏から。1989年ヴィンテージで、ファーストフィルのオロロソシェリーホグスヘッド樽からボトリングされている。日本限定で213本のみのリリース。もちろんノンチルのカスクストレングスだ。濃厚なシェリー風味がある。



スコッチウイスキー／シングルモルト

グレンモーレンジィ シグネット

Glenmorangie Signet

700ml　46%
MHD モエ ヘネシー ディアジオ
スコットランド

527品中、94点以上だったのは数種類しかなかったが、そのうちの1本がこのシグネット。麦芽の1部にローストしたチョコレートモルトを使った意欲的な商品で、数々のコンペで賞を受賞している。しかも使用する大麦は自社畑産。樽も通常のファーストフィル、セカンドフィルのバーボン樽だけでなく、ミズーリ産オークの新樽、シェリー樽なども使い、ノンチルの46%で瓶詰めするという、数々のこだわりを持っている。ベルベットのように滑らかで、複雑なアロマ・フレーバーがあることが特に評価されたのだろう。



スコッチウイスキー／シングルモルト

タリスカー 25年

Talisker 25 YO

700ml　45.8%
MHD モエ ヘネシー ディアジオ
スコットランド

スカイ島にあるタリスカー蒸留所が年1回リリースしているのがこの25年で、熟成にはアメリカンホワイトオークのリフィル樽を使用している。かつては「スペシャルリリース」の1本として瓶詰めごとに度数が違ったが、現在は定番商品として45.8%という、タリスカー伝統の度数にこだわっている。長熟のタリスカーにはスモーキーなものは多くはないが、これは充分スモーキーで、その柔らかな燻香とスパイシーさ、甘みが絶妙にマッチしている点が、ジャッジの好評価に繋がったものと思われる。



ジャパニーズウイスキー／シングルモルト

駒ヶ岳 2012 6年 シングルカスク No.1493

Komagatake 2012 6 YO Single Cask No.1493

700ml　60%
本坊酒造
日本

本坊酒造のマルス信州蒸溜所が現在の地にオープンしたのは1985年。もともと1960年、山梨県石和に創設された蒸留所の設備を移設したもの。中央アルプス木曽駒ヶ岳の麓、標高798mの高地にあり、冷涼な空気と、花崗岩層に磨かれた良水で造られている。1992年から2011年までの19年間の休止を経て、同年２月に再操業。これはその１年後の12年３月に蒸留されたもので、バーボンバレル樽で熟成。フェノール値50ppmというヘビリーピーテッド麦芽が使われている。シングルカスクのカスクストレングス。

※●●のついているものは特別賞も受賞しているもの。リストはP.54,61。
※ボトルのスペックは、容量　アルコール度数　出品企業　生産国名の順に掲載。
※カテゴリーごとにアルファベット順で掲載。



ジャパニーズウイスキー／シングルモルト

駒ヶ岳 1990 27年 シングルカスク No.1040

Komagatake 1990 27 YO
Single Cask No.1040

700ml　58%
本坊酒造
日本

これは1992年に休止される２年前の1990年８月にマルス信州蒸溜所で蒸留されたもので、シングルカスクのカスクストレングス。アメリカンホワイトオーク樽で熟成。187本の限定だ。現在マルス信州蒸溜所で使用する麦芽のフェノール値はノンピート、3.5、20、50ppmの４種類だが、当時のスペックについてはよく分かっていない。スモーキーさはなく、2012年の６年ものと好対照だが、どちらもマルス信州蒸溜所の酒質の良さ、熟成環境の素晴らしさをうかがい知ることができる。



ジャパニーズウイスキー／シングルモルト

山崎 12年

Yamazaki 12 YO

700ml　43%
サントリースピリッツ
日本

今回山崎は12年、18年が賞を受賞したが、得点が高かったのは18年ではあまりなく12年のほうだった。海外のコンペでこのような結果が出たことはあまりなく、欧米ジャーナリストからは驚きをもって受け止められた。やはりシェリー風味が強すぎる18年に比べて、ブレンドの妙が光る12年は、そのブレンドの巧みさが、ブラインドだからこそ日本のジャッジに高く評価されたものと思われる。あらゆる点でバランスが良く、いつ飲んでも飲み飽きない秀逸なジャパニーズシングルモルトである。



ジャパニーズウイスキー／ブレンデッド

響 21年

Hibiki 21 YO

750ml　43%
サントリースピリッツ
日本

ジャパニーズブレンデッドの最高傑作といわれるのがサントリーの響。寿屋（現サントリー）創業90周年の1989年に誕生した。シリーズにはノンエイジのジャパニーズハーモニー、ブレンダーズチョイス、30年があるが、この21年が誕生したのは1994年のこと。24面カットのボトルは日本の24節気を表し、響というブランド名には「人と自然と響き合う」という、サントリーの企業理念が込められている。どれも多彩なモルト原酒とグレーン原酒がブレンドされているが、そのブレンドの妙が、世界のウイスキー通を唸らせる。



ジャパニーズウイスキー／ブレンデッド

イチローズモルト&グレーン 清里フィールドバレエ 29回記念ボトル

Ichiro's Malt & Grain
Kiyosato Field Ballet 29th Anniversary

700ml　48%
萌木の村
日本

山梨県北杜市清里の「萌木の村」で毎年開催されるフィールドバレエ。世界的にも珍しい野外クラシックバレエの祭典で、その祭典のために特別に造られていた記念ボトル。29回目を迎えた2018年夏のこの記念ボトルを手掛けたのがベンチャーウイスキーの肥土伊知郎氏。29年熟成の羽生原酒と、それを超える長期熟成の川崎グレーン原酒などをブレンドしたもので、どちらも今となっては幻の原酒ばかり。幽玄な星明りのもと舞われる、夜のバレエに相応しい深遠な風味を醸し出している。



ワールドウイスキー

カバラン ソリスト オロロソシェリー

Kavalan Solist Oloroso Sherry

700ml　59.4%
Kavalan Distillery
台湾

2008年12月の初出荷以来、10年足らずで世界的な酒類コンペで数々の賞に輝いた台湾のカバラン蒸留所。ウイスキーは冷涼な気候でしか造れないという世界の常識を見事に覆してみせた。そのカバランを代表するシリーズがソリストと名付けられたシングルカスクのカスクストレングス。このオロロソシェリーもその１つで、毎回樽ナンバーとシリアルナンバーが１本１本のラベルに表記される。エンジェルズシェア10%超、亜熱帯の気候のもとでトロピカルフルーツ香をまとった逸品だ。



コニャック

ティフォン ヴュー スペリオール

Tiffon Vieux Superieur

700ml　40%
NOZOMI
フランス

コニャック地方のグランドシャンパーニュとファンボワに40ヘクタールの自社畑を持つティフォン社。家族経営のメゾンとしてはコニャック最大級のメーカーで、このヴュー スペリオールは平均30年超の熟成だが、70年から100年物の古酒もブレンドした至福の１本で、知る人ぞ知る通好みのコニャック。ポットスチルは古式のアランビックで計10基。ブドウの栽培から発酵・蒸留・樽熟・ブレンドのすべてを手がける老舗中の老舗で、マスター・ブレンダーのリカルド・ブラスタッド氏がブレンドを行っている。



ラム

アプルトン エステート 21年

Appleton Estate 21 YO

750ml　43%
アサヒビール
ジャマイカ

1749年に創業し、ジャマイカ最古のラムメーカーと言われるアプルトン社。サトウキビ栽培から瓶詰めまでを自社で行う数少ないラムメーカーの１つだ。酵母は創業当時からの独自の天然酵母を使用し、蒸留は単式蒸留器と連続式蒸留機を使っている。バーボン樽で最低21年以上熟成させた原酒の中から、さらに厳選を重ねた最上級の熟成原酒をブレンド。芳醇で複雑な香りとスムースな口当たりの後に、優雅な余韻が残る。ラムにおける香りの重要性を再認識できる逸品。



ジン／ヨーロッパ

スティン

Stin

500ml　47%
日本グランド・シャンパーニュ
オーストリア

2017年に誕生したオーストリアのクラフトジンで、スティンはスティリア地方とジンとを組み合わせた言葉。ベーススピリッツはトウモロコシ原料のニュートラルスピリッツで、これにジュニパーベリーや南スティリア産のリンゴ、東スティリア産のエルダーフラワーなど28種類のボタニカルを数日間漬け込んでいる。蒸留器は容量50リットルの超小型の銅製スチルで、時間をかけゆっくりと蒸留することで、最大限のアロマを引き出している。ストレートかロックで飲んでほしいというのが、造り手の願いだ。



スカイ島のポートリー。



スコットランドで一番背が高いグレンモーレンジィのポットスチル。



山崎蒸溜所の熟成庫。



テキーラ

ドン・フリオ レポサド

Don Julio Reposado

750ml　38%
キリンビール
メキシコ

1990年代に登場するやいなや「プレミアム・テキーラの代名詞」とまで言われ、近年のテキーラブームを起こす大きなきっかけとなった。創業者フリオ・ゴンザレスがそれまでの常識を覆し、原料のアガベのピニャ（球茎部）の皮を非常に深く剥くことでテキーラの辛味を削ぎ落とし、さらにコゴージョ（アガベの芯）も除くことで苦味をなくし、極めてスムーズな味わいを作り上げた。バーボン樽熟成も、熟成庫内をミストで加湿することでスムーズさを追求した、テキーラ界の金字塔とも言える一本。



Tokyo Whisky & Spirits Competition
March 2019

金　賞

Gold Winner

527本の今回の出品中、金賞を受賞したのは計30本だった。最高金賞の13本を入れても、全体の１割にもならない。それだけ高き壁だったということかもしれない。

金賞30本の内訳は、ウイスキーが19本、アルマニャックが１本、ラムが５本、ジンが４本、テキーラが１本となっている。ウイスキーのうちスコッチは９で、ジャパニーズが５、アイリッシュが１、台湾のカバランが４となっている。ジンも４本中３本がジャパニーズだ。もちろん、それだけ多く出品されたということもあるが、いずれにしろジャパニーズのクラフトやカバランのウイスキーが、いかに健闘しているかだ。

特にカバランは最高金賞のソリスト オロロソシェリーカスクに続いてシェリーオーク、ソリスト フィノシェリー、ソリスト ポート、そしてソリスト ヴィーニョバリックの４品が金賞、それも上位の点数で賞を受賞している。

もはや、“暑い国で良いウイスキーは造れない”という、業界の常識を見事に覆してくれている。今後も、暑い国（アジアやアフリカ、インド）のウイスキーが続々と登場してくるだろう。要注目である。

（文責：土屋 守）

スコッチウイスキー／シングルモルト

1 カリラ 2005 11年 G&M エクスクルーシブ ウイスキー検定合格者限定ボトル

Caol Ila 2005 11 YO G&M Exclusive Whisky Kentei Bottle

700ml　54.9%　ウイスキー文化研究所　スコットランド

ゴードン&マクファイル社のストックから、ウイスキー検定合格者用に選ばれたリフィルのバーボンバレルの１樽。パンチ力がありスモーキーでピーティ。カリラらしさが前面に出た刺激的なフレーバーが特徴。

スコッチウイスキー／シングルモルト

2 グレングラント ザ メジャーリザーブ

Glen Grant The Major's Reserve

700ml　40%　アサヒビール　スコットランド

スペイサイド、ローゼス地区のグレングラント蒸留所のノンエイジの定番商品で、ザ メジャーとは創業者の息子で２代目のジェームズ・グラントのこと。仏舎利塔のようなスチルと精留器による雑味の少ないクリアな味わい。

スコッチウイスキー／シングルモルト

3 グレンアラヒー 2012 6年 A.D.ラトレー ウイスキーフェスティバル2018 in 東京 記念ボトル

Glenallachie 2012 6 YO A.D. Rattray Whisky Festival 2018 in Tokyo

700ml　66.1%　ウイスキー文化研究所　スコットランド

2018年のウイスキーフェスティバル東京用にボトリングされたもので、若いながらシェリー樽由来のフレーバーが濃厚な１本。グレンアラヒー蒸留所は2017年に新体制で再スタートしており、愛好家から注目を集めている。

スコッチウイスキー／シングルモルト

4 グレンファークラス 21年

Glenfarclas 21 YO

700ml　43%　ミリオン商事　スコットランド

スペイサイド最大級のポットスチルが自慢のグレンファークラス蒸留所は、初留、再留ともに直火焚きを採用。ヨーロピアンオークのオロロソシェリー樽のみを使用した21年熟成の逸品で、ファンが多い。

スコッチウイスキー／シングルモルト

5 グレンフィディック 21年

Glenfiddich 21 YO

700ml　40%　サントリースピリッツ　スコットランド

シングルモルトの販売数、世界一を誇るグレンフィディック。これは21年以上熟成させたヨーロピアンオークのシェリー樽原酒とアメリカンオーク樽原酒をブレンド。その後４ヵ月間カリビアンラム樽で後熟している。

スコッチウイスキー／シングルモルト

6 グレンモーレンジィ 18年

Glenmorangie 18 YO

700ml　43%　MHD モエ ヘネシー ディアジオ　スコットランド

樽のパイオニア、グレンモーレンジィの長熟のオフィシャル。アメリカンホワイトオークのバーボン樽とスパニッシュオークのオロロソ樽が、エキゾティックな果実や花の芳醇な香りと、濃厚な味わいをつくりだしている。





※●●のついているものは特別賞も受賞しているもの。リストはP.54,61。
※ボトルのスペックは、容量　アルコール度数　出品企業　生産国名の順に掲載。
※カテゴリーごとにアルファベット順で掲載。



スコッチウイスキー／シングルモルト

キルホーマン マキヤーベイ 7

Kilchoman Machir Bay

700ml　46%　ウィスク・イー　スコットランド

2005年にアイラ島に誕生したキルホーマン蒸留所の定番商品。ヘビリーピートの大麦麦芽を使用し、３～５年熟成した原酒をブレンドしている。アイラらしい力強いピートスモークと、柔らかで芳醇な果実の香りが特徴。

スコッチウイスキー／シングルモルト

ロッホローモンド 12年 8

Loch Lomond 12 YO

700ml　46%　都光　スコットランド

スコットランド最大の湖、ローモンド湖の畔にあるロッホローモンド蒸留所。ローモンドスチルの他、単式・連続式蒸留機を持ち、12年はノンピートとミディアムピートの２つのモルト原酒を、３種の樽で熟成している。

スコッチウイスキー／シングルモルト

ロイヤル･ブラックラ 12年 9

Royal Brackla 12 YO

700ml　40%　バカルディジャパン　スコットランド

ロイヤル・ブラックラは、スコッチで初めてロイヤルワラントを与えられた蒸留所で、稼働中の蒸留所でワラントを持つのは２ヵ所のみ。これはオフィシャルの定番商品で、ファーストフィルのシェリー樽で後熟させている。



秩父蒸溜所と肥土伊知郎氏。

グレンフィディック蒸留所。



キリンの富士御殿場蒸溜所。



ジャパニーズウイスキー／シングルモルト

10 富士御殿場 ディスティラーズセレクト シングルモルト 2018

Fuji-Gotemba Distiller's Select Single Malt 2018

500ml　50%　キリンビール　日本

キリン富士御殿場蒸溜所でのみ販売されている数量限定のシングルカスクのモルトウイスキー。バーボンバレルで熟成した樽出しの原酒。クリーン&エステリーな香り立ちと繊細な味わいに、蒸留所の特長が表れている。

ジャパニーズウイスキー／シングルモルト

11 駒ヶ岳 津貫エイジング 2018

Komagatake Tsunuki Aging 2018

700ml　57%　本坊酒造　日本

2015年にマルス信州蒸溜所で蒸留したモルト原酒を、マルス津貫蒸溜所の石蔵で熟成したシングルモルトウイスキー。1462本限定。バーボンバレルで熟成されたモルト原酒を主体に複数の原酒をヴァッティングしている。

ジャパニーズウイスキー／シングルモルト

12 エッセンス・オブ・サントリーウイスキー 山崎蒸溜所 ピーテッドモルト

The Essence of Suntory Whisky
Yamazaki Distillery Peated Malt

500ml　49%　サントリースピリッツ　日本

サントリーウイスキーの原酒の造り分けを知ることができる“THE ESSENCE”シリーズ第１弾。ピーテッド麦芽を使用した12年熟成の山崎で、ベリーのような甘味と酸味に、柔らかなスモーキー香が調和している。

ジャパニーズウイスキー／シングルモルト

13 山崎 18年

Yamazaki 18 YO

700ml　43%　サントリースピリッツ　日本

シェリー樽で熟成させた原酒を中心にブレンドした18年。フルボディで、シェリー樽由来の甘いドライフルーツやチョコレートの香りが楽しめる。山崎12年の最高金賞に続き、18年も高い評価となった。

ジャパニーズウイスキー／ブレンデッド

14 イチローズモルト & グレーン ジャパニーズブレンデッドウイスキー リミテッドエディション 2019

Ichiro's Malt & Grain Japanese Blended Whisky
Limited Edition 2019

700ml　48%　ベンチャーウイスキー 秩父蒸溜所　日本

2018年度版に続く第2弾（2019）。秩父と羽生の長熟モルト原酒、川崎のグレーン原酒をブレンドしたもので、平均熟成年数は20年超だという。ノンチル、ノンカラーリング、48%での瓶詰め。

10



11



12



13



14



15 Best Irish Single Malt



16



17



18



19



アイリッシュウイスキー

イーガンズ 10年 15

Egan's 10 YO

700ml　47%　アイデイ商事　アイルランド

2014年に発売された、アメリカンオーク樽のアイリッシュシングルモルト。160年以上の歴史を誇るアイルランドの総合商社、P&H Egan社が製造、販売。10年の他３種類のウイスキーがあり、今回は10年が最も高く評価された。

ワールドウイスキー

カバラン シェリーオーク 16

Kavalan Sherry Oak

700ml　46%　Kavalan Distillery　台湾

台湾の宜蘭県に2005年に誕生したカバラン蒸留所。初出荷以来多くの商品を発売し、今や定番商品は20種以上。シェリーオークはオロロソシェリー樽で熟成させた原酒を46%に加水し、飲みやすく仕上げた１本。

ワールドウイスキー

カバラン ソリスト フィノシェリー 17

Kavalan Solist Fino Sherry

700ml　57.8%　Kavalan Distillery　台湾

厳選した最高級のフィノシェリー樽を使用。シェリーの甘み、カバラン特有のトロピカルフルーツの風味が融合した、複雑で重厚な味わいが特徴。2010年の発売以来、数々のコンペで非常に高い評価を受けている。

ワールドウイスキー

カバラン ソリスト ポート 18

Kavalan Solist Port

700ml　57.8%　Kavalan Distillery　台湾

甘く重厚な味わいのポルトガル産酒精強化ワイン、ポートの貯蔵樽で熟成。甘みに加え、幾層にも広がる香りを持ち、中でもトロピカルフルーツや淡い木の香り、微かにスモーキーさのある香りが特徴だ。

ワールドウイスキー

カバラン ソリスト ヴィーニョバリック 19

Kavalan Solist Vinho Barrique

700ml　59.4%　Kavalan Distillery　台湾

世界最高級のワイン樽を厳選し、カバラン蒸留所独自の熱処理技術でチャーした樽で熟成。温度と時間を正確にコントロールし、樽内部の繊細な香味成分を生んでいる。赤ワインを思わせる、まろやかで芳醇な味わいが特徴。



カバラン蒸留所とマスター・ブレンダーのイアン・チャン氏。

アルマニャック

ラフォンタン 1979 20
Lafontan 1979

700ml※　40%　ロイヤルリカー　フランス

最高級アルマニャックを産出するバ・ザルマニャック地域のノガロで、大切に保管している原酒をブレンドせずに瓶詰めしたヴィンテージアルマニャック。樹齢100年以上のオークのアロマや、盛り上がりのある味わいが特徴。

ラム

バカルディ エイト 21
Bacardí 8

750ml　40%　バカルディジャパン　プエルトリコ

創設者ドン・ファクンド・バカルディのレシピを再現したプエルトリコ産ダークラム。アメリカンオーク樽で８年以上熟成した２種類の原酒をブレンドし、スムースさとふくよかさのグッドバランスを生み出している。

ラム

ディクタドール 20年 22
Dictador 20 YO

700ml　40%　都光　コロンビア

100年以上の歴史があるコロンビア最古の蒸留所の１つ。一族が経営する農場で栽培されたサトウキビの高品質のサトウキビシロップから造られている。フラッグシップの20年は再利用のオーク樽を使いソレラシステムで熟成。

ラム

ディクタドール XO パーペチャル 23
Dictador XO Perpetual

700ml　40%　都光　コロンビア

アンティークの銅製アランビック蒸留器で蒸留し、ソレラシステムで熟成。これにシェリー樽原酒、ポート樽原酒を加えボトリング。香ばしい香りと、メープルシロップや洋梨を思わせる甘口の味わいが優雅さを感じさせる。

ラム

ディプロマティコ レセルバ・エクスクルーシバ 24
Diplomatico Reserva Exclusiva

700ml　40%　ウィスク・イー　ベネズエラ

原産地呼称「ロン・デ・ベネズエラ」を持ち、世界でも最も高品質なラムの１つ。原料は糖蜜とサトウキビシロップ。自社開発の酵母を使用。オレンジピール、メープルシロップなどが広がる芳醇で複雑な味わいのダークラム。

ラム

ロン サカパ 23 25
Ron Zacapa 23

750ml　40%　MHD モエ ヘネシー ディアジオ　グアテマラ

原料のサトウキビはフロリダで栽培された独自の品種を使用。ホワイトオーク樽、オロロソ樽、ペドロヒメネス樽を使いソレラシステムで熟成。最高23年物の原酒をブレンド。豊かでまろやかな味わい。

※ラフォンタン 1979のボトル写真は
日本国内流通している200mlのものです。









ジン／ジャパニーズ

アカヤネ クラフトジン 仁の心 冬 26

Akayane Gin Heart Fuyu

720ml　46%　佐多宗二商店　日本

1908年の創業以来、焼酎を造り続ける佐多宗二商店。彼らが日本の四季をテーマに造るクラフトジンが「仁の心」シリーズだ。こちらの「冬」は鹿児島産の柑橘類を豊富に使用し、南国シトラスの爽やかな香りが楽しめる。

ジン／ジャパニーズ

ROKU（六） 27

Roku

700ml　47%　サントリースピリッツ　日本

日本の四季が育んだ６種の和素材を使用。桜花と桜葉は春、煎茶と玉露は夏、山椒は秋、柚子は冬を表現。ボタニカルごとの特長に合わせて別々に蒸留し、重層的でスムースな味わいを生み出している。

ジン／ジャパニーズ

油津吟 28

Yuzugin

750ml　47%　京屋酒造　日本

宮崎県油津（あぶらつ）で造られるジン。京屋酒造自慢の本格芋焼酎「甕雫（かめしずく）」と「空と風と大地と」をベーススピリッツの一部に使い、地元特産のヘベス、日向夏など９種類のボタニカルを漬け込む。

ジン／イングランド（ウェールズ含む）

レイクス ジン エクスプローラー 29

Lakes Gin Explorer

700ml　47.1%　雄山　イングランド

2014年、イギリス北西部の湖水地方に誕生したレイクス蒸留所。湖水地方産を含む13種類のボタニカルを使用し、一晩浸漬して銅製のポットスチルで蒸留。蒸留時間を長くすることで、より強い香りを引き出している。

テキーラ

ドン・フリオ 1942 30

Don Julio 1942

750ml　38%　キリンビール　メキシコ

最高金賞を受賞したドン・フリオ レポサドのプレミアムバージョンであるが、相違点は２つ。まず単式蒸留器が数百リットルの小型のもので、スモールバッチならではのきめ細かさを追求。バーボン樽熟成も24～30ヵ月と長めになっている。



Tokyo Whisky & Spirits Competition
March 2019

銀賞

Silver Winner

今回受賞した271本の中で、もっとも数が多かったのが銀賞だ。その総数は130本で、つまり半数近くが銀賞だったことになる。その内訳はウイスキーが83本、ブランデー類が９本、ラム11本、テキーラ７本、ジン19本、その他となっている。

ウイスキーの中で、もっとも多かったのがスコッチで40本、次いでワールドウイスキー17本、ジャパニーズ10、アイリッシュ７、アメリカン９となっている。もちろん、これはスコッチの出品数が123本と断トツに多かったことも影響していて、ほぼ４本に１本がスコッチだったせいもあるだろう。そんな中でやはり大健闘しているのがワールドウイスキー。54本の出品中、ちょうど半数の27本が最高金、金、銀、銅賞のいずれかを受賞する結果となった。

このワールドの中には台湾、インド、ウェールズといった純粋な“ワールドウイスキー”も含まれているが、もう１つ今回のコンペで特筆すべきは、「イチローズ モルト＆グレーン」や笹の川の「山桜」などが、従来のジャパニーズウイスキーというカテゴリーではなく、ワールドのカテゴリーで出品したことだ。ジャパニーズウイスキーの定義については、もともとウイスキー文化研究所が提起したことでもあり（2016年）、事前に問い合わせをいただいた段階で、実行委員会としても、その見解を伝えていた。

海外のコンペでジャパニーズでないものが、相変わらずジャパニーズとして賞をもらっている現状とは、一線を画せたものと思っている。　（文責：土屋 守）



スコッチウイスキー／シングルモルト

アバフェルディ 12年

Aberfeldy 12 YO

700ml　40%
バカルディジャパン
スコットランド



スコッチウイスキー／シングルモルト

アラン 10年

Arran 10 YO

700ml　46%
ウィスク・イー
スコットランド



スコッチウイスキー／シングルモルト

ベンロマック シングルカスク 2008 ウイスキーフェスティバル2016 in 東京記念ボトル

Benromach Single Cask 2008 Whisky Festival 2016 in Tokyo

700ml　59.9%
ウイスキー文化研究所
スコットランド



スコッチウイスキー／シングルモルト

ブレアアソール 2009 8年 A.D.ラトレー ウイスキーガロア 創刊1周年記念ボトル

Blair Athol 2009 8 YO A.D. Rattray Whisky Galore 1st Year Anniversary

700ml　59.6%
ウイスキー文化研究所
スコットランド



スコッチウイスキー／シングルモルト

ボウモア 15年

Bowmore 15 YO

700ml　43%
サントリースピリッツ
スコットランド



スコッチウイスキー／シングルモルト

ブルックラディ ザ・クラシック・ラディ

Bruichladdich The Classic Laddie

700ml　50%
レミー コアントロー ジャパン
スコットランド



スコッチウイスキー／シングルモルト

カリラ 12年

Caol Ila 12 YO

700ml　43%
MHD モエ ヘネシー ディアジオ
スコットランド



スコッチウイスキー／シングルモルト

クラガンモア 12年

Cragganmore 12 YO

700ml　40%
MHD モエ ヘネシー ディアジオ
スコットランド



スコッチウイスキー／シングルモルト

グレングラント 10年

Glen Grant 10 YO

700ml　40%
アサヒビール
スコットランド



スコッチウイスキー／シングルモルト

グレングラント 12年

Glen Grant 12 YO

700ml　43%
アサヒビール
スコットランド

※●●のついているものは特別賞も受賞しているもの。リストはP.54,61。
※ボトルのスペックは、容量　アルコール度数　出品企業　生産国名の順に掲載。
※カテゴリーごとにアルファベット順で掲載。



スコッチウイスキー／シングルモルト

グレンスコシア カンベルタウンハーバー

Glen Scotia Campbeltown Harbour

700ml　40%
都光
スコットランド



スコッチウイスキー／シングルモルト

グレンアラヒー 12年

Glenallachie 12 YO

700ml　46%
ウィスク・イー
スコットランド



スコッチウイスキー／シングルモルト

グレンファークラス 105 カスクストレングス

Glenfarclas 105 Cask Strength

700ml　60%
ミリオン商事
スコットランド



スコッチウイスキー／シングルモルト

グレンフィディック 18年 スモールバッチリザーブ

Glenfiddich 18 YO Small Batch Reserve

700ml　40%
サントリースピリッツ
スコットランド



スコッチウイスキー／シングルモルト

グレンモーレンジィ オリジナル 10年

Glenmorangie The Original 10 YO

700ml　40%
MHD モエ ヘネシー ディアジオ
スコットランド



スコッチウイスキー／シングルモルト

グレンモーレンジィ ラサンタ 12年

Glenmorangie Lasanta 12 YO

700ml　43%
MHD モエ ヘネシー ディアジオ
スコットランド



スコッチウイスキー／シングルモルト

グレンモーレンジィ ネクター・ドール 12年

Glenmorangie Nectar d'Or 12 YO

700ml　46%
MHD モエ ヘネシー ディアジオ
スコットランド



スコッチウイスキー／シングルモルト

ラガヴーリン 16年

Lagavulin 16 YO

700ml　43%
MHD モエ ヘネシー ディアジオ
スコットランド



スコッチウイスキー／シングルモルト

オーバン 14年

Oban 14 YO

700ml　43%
MHD モエ ヘネシー ディアジオ
スコットランド



スコッチウイスキー／シングルモルト

オクトモア 09.1 スコティッシュ・バーレイ

Octomore 09.1 Scottish Barley

700ml　59.1%
レミー コアントロー ジャパン
スコットランド



スコッチウイスキー／シングルモルト

オールドプルトニー ハダート

Old Pulteney Huddart

700ml　46%
三陽物産
スコットランド



スコッチウイスキー／シングルモルト

ポートシャーロット 10年

Port Charlotte 10 YO

700ml　50%
レミー コアントロー ジャパン
スコットランド



スコッチウイスキー／シングルモルト

プルトニー 2007 A.D.,ラトレー ウイスキーフェスティバル2017 in 東京10年周年記念ボトル

Pulteney 2007 A.D. Rattray Whisky Festival 10th Anniversary

700ml　56.4%
ウイスキー文化研究所
スコットランド



スコッチウイスキー／シングルモルト

ロイヤルロッホナガー 12年

Royal Lochnagar 12 YO

700ml　40%
キリンビール
スコットランド



スコッチウイスキー／シングルモルト

タリスカー 18年

Talisker 18 YO

700ml　45.8%
MHD モエ ヘネシー ディアジオ
スコットランド



スコッチウイスキー／シングルモルト

ザ・デヴェロン 12年

The Deveron 12 YO

700ml　40%
バカルディジャパン
スコットランド



スコッチウイスキー／シングルモルト

トマーティン カスクストレングス

Tomatin Cask Strength

700ml　57.5%
国分グループ本社
スコットランド



スコッチウイスキー／シングルモルト

トマーティン レガシー

Tomatin Legacy

700ml　43%
国分グループ本社
スコットランド



スコッチウイスキー／シングルモルト

トマーティン 12年

Tomatin 12 YO

700ml　43%
国分グループ本社
スコットランド



スコッチウイスキー／シングルモルト

ウルフバーン ラングスキップ

Wolfburn Langskip

700ml　58%
スコッチモルト販売
スコットランド



スコッチウイスキー／ブレンデッドモルト

ザ ファウンダーズ リザーブ 10年

The Founders Reserve 10 YO

700ml　54.8%
リカーズハセガワ本店
スコットランド



スコッチウイスキー／ブレンデッド

バランタイン マスターズ

Ballantine's Master's

700ml　40%
サントリースピリッツ
スコットランド



スコッチウイスキー／ブレンデッド

バランタイン 30年

Ballantine's 30 YO

700ml　40%
サントリースピリッツ
スコットランド



スコッチウイスキー／ブレンデッド

デュワーズ 18年

Dewar's 18 YO

750ml　40%
John Dewar & Sons
スコットランド



スコッチウイスキー／ブレンデッド

アイラ・ミスト 8年 アモンティリャード・ナポレオン・カスク・フィニッシュ

Islay Mist 8 YO Amontillado Napoleon Cask Finish

700ml　43%
ユニオンリカーズ
スコットランド



スコッチウイスキー／ブレンデッド

ジョン・ウォーカー& サンズ キングジョージ5世

John Walker & Sons King George V

750ml　43%
MHD モエ ヘネシー ディアジオ
スコットランド



スコッチウイスキー／ブレンデッド

ジョニーウォーカー ブラックラベル 12年

Johnnie Walker Black Label 12 YO

700ml　40%
キリンビール
スコットランド



スコッチウイスキー／ブレンデッド

ジョニーウォーカー 18年

Johnnie Walker 18 YO

700ml　40%
キリンビール
スコットランド



スコッチウイスキー／ブレンデッド

ザ・トゥイーデイル 28年 ザ・エヴォリューション

The Tweeddale 28 YO The Evolution

700ml　52%
大和貿易
スコットランド



スコッチウイスキー／ブレンデッド

ホワイトホース 12年

White Horse 12 YO

700ml　40%
キリンビール
スコットランド



ジャパニーズウイスキー／シングルモルト

あかし 10年 オールドシェリーバット

Akashi 10 YO Old Sherry Butt

500ml　60%
江井ヶ嶋酒造
日本



ジャパニーズウイスキー／シングルモルト

白州 18年

Hakushu 18 YO

700ml　43%
サントリースピリッツ
日本



ジャパニーズウイスキー／シングルモルト

イチローズモルト 秩父 ザ・ピーテッド 2018

Ichiro's Malt Chichibu The Peated 2018

700ml　55.5%
ベンチャーウイスキー 秩父蒸溜所
日本



ジャパニーズウイスキー／シングルモルト

駒ヶ岳 ダブルセラーズ 2019

Komagatake Double Cellars 2019

700ml　47%
本坊酒造
日本



ジャパニーズウイスキー／シングルモルト

駒ヶ岳 津貫エイジング シングルカスク 寶常セレクション 2018

Komagatake Tsunuki Aging Single Cask Hojo Selection 2018

500ml　44%
本坊酒造
日本



ジャパニーズウイスキー／シングルモルト

宮城峡

Miyagikyo

700ml　45%
アサヒビール
日本



ジャパニーズウイスキー／シングルモルト

ポールラッシュ 生誕120周年 記念ボトル

Paul Rusch 120th Anniversary of Birth

700ml　58%
萌木の村
日本



ジャパニーズウイスキー／シングルモルト

余市

Yoichi

700ml　45%
アサヒビール
日本



ジャパニーズウイスキー／ブレンデッド

富士山麓 シグニチャーブレンド

Fuji-Sanroku Signature Blend

700ml　50%
キリンビール
日本



ジャパニーズウイスキー／ブレンデッド

響 ジャパニーズ ハーモニー

Hibiki Japanese Harmony

700ml　43%
サントリースピリッツ
日本



アイリッシュウイスキー

ブッシュミルズ 16年

Bushmills 16 YO

700ml　40%
アサヒビール
アイルランド



アイリッシュウイスキー

ブッシュミルズ 21年

Bushmills 21 YO

700ml　40%
アサヒビール
アイルランド



アイリッシュウイスキー

イーガンズ レガシーリザーブ 15年

Egan's Legacy Reserve 15 YO

700ml　46%
アイデイ商事
アイルランド



アイリッシュウイスキー

ファーキュレン 14年

Fercullen 14 YO Single Malt

700ml　46%
Powerscourt Distillery
アイルランド



アイリッシュウイスキー

グレンダロッホ 7年 ポーターバレル フィニッシュ

Glendalough 7 YO
Porter Barrel Finish

700ml　46%
大和貿易
アイルランド



アイリッシュウイスキー

ピアース クーパーズセレクト

Pearse Cooper's Select

700ml　42%
Alltech Japan合同会社
アイルランド



アイリッシュウイスキー

ホイッスラー オロロソシェリー カスクフィニッシュ

The Whistler
Oloroso Sherry Cask Finish

700ml　43%
Boann Distillery
アイルランド



北アイルランドのブッシュミルズ蒸留所。



ダブリンの教会を改造したピアースライオンズ蒸留所。



アメリカンウイスキー

アラ ワイ キアヴェ

Ala Wai Kiawe

750ml　61%
Ala Wai Whisky
アメリカ



アメリカンウイスキー

ブレット バーボン

Bulleit Bourbon

700ml　45%
MHD モエ ヘネシー ディアジオ
アメリカ



アメリカンウイスキー

フォアローゼズ プラチナ

Four Roses Platinum

750ml　43%
キリンビール
アメリカ



アメリカンウイスキー

フォアローゼズ シングルバレル

Four Roses Single Barrel

750ml　50%
キリンビール
アメリカ



アメリカンウイスキー

ケンタッキー・タバーン

Kentucky Tavern

750ml　40%
国分グループ本社
アメリカ



アメリカンウイスキー

コーヴァル バーボン

Koval Bourbon

750ml　47%
スコッチモルト販売
アメリカ



アメリカンウイスキー

オールドエズラ 7年 バレルストレングス

Old Ezra 7 YO Barrel Strength

750ml　58.5%
富士貿易
アメリカ



アメリカンウイスキー

リッテンハウス ライ ボトルドインボンド

Rittenhouse Rye Bottled In Bond

750ml　50%
バカルディジャパン
アメリカ



アメリカンウイスキー

ワイルドターキー レアブリード

Wild Turkey Rare Breed

700ml　58.4%
明治屋
アメリカ



ワールドウイスキー

963 アンバー ダブルマチュード

963 Amber Double Matured

500ml　46%
福島県南酒販
日本



ワールドウイスキー

963 ブラック ダブルマチュード

963 Black Double Matured

500ml　46%
福島県南酒販
日本



ワールドウイスキー

イチローズモルト & グレーン ワールドブレンデッド ウイスキー

Ichiro's Malt & Grain World Blended Whisky

700ml　46%
ベンチャーウイスキー 秩父蒸溜所
日本



ワールドウイスキー

カバラン コンサートマスター

Kavalan Concertmaster

700ml　40%
Kavalan Distillery
台湾



ワールドウイスキー

カバラン ディスティラリーリザーブ ピーティカスク

Kavalan Distillery Reserve Peaty Cask

300ml　51.6%
Kavalan Distillery
台湾



ワールドウイスキー

カバラン ディスティラリーリザーブ ラムカスク

Kavalan Distillery Reserve Rum Cask

300ml　58.6%
Kavalan Distillery
台湾



ワールドウイスキー

カバラン ポーディアム

Kavalan Podium

700ml　46%
Kavalan Distillery
台湾



ワールドウイスキー

オマー バーボンカスク カスクストレングス

Omar Bourbon Cask Cask Strength

700ml　56.1%
Taiwan Tobacco & Liquor Corporation
台湾



ワールドウイスキー

オマー 8年 バーボンカスク カスクストレングス

Omar 8 YO Bourbon Cask Cask Strength

700ml　54.7%
Taiwan Tobacco & Liquor Corporation
台湾



ワールドウイスキー

オマー プラムバレル カスクストレングス

Omar Plum Liqueur Barrel Cask Strength

700ml　54%
Taiwan Tobacco & Liquor Corporation
台湾

Best Indian Single Malt Whisky



ワールドウイスキー

ポール・ジョン クラシック

Paul John Classic

700ml　55.2%
国分グループ本社
インド



ワールドウイスキー

ポール・ジョン エディテッド

Paul John Edited

700ml　46%
国分グループ本社
インド



ワールドウイスキー

ペンダーリン シェリーウッド

Penderyn Sherrywood

700ml　46%
アクサス
ウェールズ



ワールドウイスキー

山桜 18年 ピュアモルト

Yamazakura 18 YO Pure Malt

700ml　47%
笹の川酒造
日本



ワールドウイスキー

山桜 6年 カベルネ・ソーヴィニヨン ワイン樽フィニッシュ

Yamazakura 6 YO Cabernet Sauvignon Wine Cask Finish

700ml　46%
笹の川酒造
日本



ゴアにあるポール・ジョン蒸留所。



シャラント川の畔にあるヘネシー社。

Category Winner 2019



ワールドウイスキー

山桜 6年 シャルドネワイン樽 フィニッシュ

Yamazakura 6 YO Chardonnay Wine Cask Finish

700ml　46%
笹の川酒造
日本



ワールドウイスキー

山桜 6年 ピノ・ノワールワイン樽 フィニッシュ

Yamazakura 6 YO Pinot Noir Wine Cask Finish

700ml　46%
笹の川酒造
日本



コニャック

ヘネシー X.O

Hennessy X.O

700ml　40%
MHD モエ ヘネシー ディアジオ
フランス



コニャック

ジャン フィユー クリストフ フィユー CF 50

Jean Fillioux Christophe Fillioux CF 50

500ml　43%
NOZOMI
フランス



コニャック

ピエール リュカ VSOP エクスペリエンス

Pierre Lecat VSOP Experience

700ml　40%
リカーズハセガワ本店
フランス



アルマニャック

シャトー ガロー フォルブランシュ 2001

Chateau Garreau Folle Blanche 2001

700ml　46%
NOZOMI
フランス



アルマニャック

ダルティガロング 1989

Dartigalongue 1989

700ml　40%
NOZOMI
フランス



アルマニャック

ドメーヌ ド プトー フォルブランシュ 1994

Domaine de Pouteou Folle Blanche 1994

700ml　46%
NOZOMI
フランス



アルマニャック

ラフォンタン 1989

Lafontan 1989

700ml※　40%
ロイヤルリカー
フランス



ブランデー

エミリオ・ルスタウ ブランデー・デ・ヘレス ソレラ・グラン・レセルバ

Emilio Lustau Brandy de Jerez Solera Gran Reserva

700ml　40%
ミリオン商事
スペイン



ブランデー

サッポロブランデー 甲州 20年熟成

Sapporo Brandy Koshu 20 YO

700ml　56%
サッポロビール
日本

※ラフォンタン 1989のボトル写真は日本国内で流通している200mlのものです。



ラム

バルバンクール リゼルヴァ・デュ・ドメーヌ 15年

Barbancourt Reserve du Domaine 15 YO

750ml　43%
スマイル
ハイチ



ラム

コンパニーデザンドラム カリブラム

Compagnie des Indes Caraibes

700ml　40%
ePower
トリニダード、ガイアナ、バルバドス



ラム

コンパニーデザンドラム ウエストインディーズ 8年

Compagnie des Indes West Indies 8 YO

700ml　40%
ePower
バルバドス、ドミニカ、パナマ、ガイアナ



ラム

ディクタドール XO インソレント

Dictador XO Insolent

700ml　40%
都光
コロンビア



ラム

ディプロマティコ プラナス

Diplomatico Planas

700ml　47%
ウィスク・イー
ベネズエラ



ラム

イエラム・サンタマリア 蒸留所限定品1

Ie Rum Santa Maria Distillery Limited 1

500ml　63%
伊江島物産センター
日本



ラム

イエラム・サンタマリア プレミアム T25 ふるさと納税限定

Ie Rum Santa Maria Premium T25 "Furusato Nozei" Return Gift

500ml　60.6%
伊江島物産センター
日本



ラム

ラオディ ブラウン

Laodi Brown

700ml　42%
ラオディ（Lao Agro Organic Industries Limited）
ラオス



ラム

レイジー・ドードー

Lazy Dodo

700ml　40%
田地商店
モーリシャス



ラム

パッサーズ ブリティッシュ ネイビーラム

Pusser's British Navy Rum

700ml　40%
ePower
ガイアナ



広島の桜尾蒸留所のスチル。ドイツのホルスタイン社製。



ラム

ラムネイション ジャマイカ 7年 カスクストレングス

Rum Nation Jamaica 7 YO Cask Strength

700ml　61.2%
ePower
ジャマイカ



ジン／ジャパニーズ

アカヤネ クラフトジン ジュニパーベリー

Akayane Craft Gin Juniper Berry

720ml　47%
佐多宗二商店
日本



ジン／ジャパニーズ

クラフトジン 岡山

Craft Gin Okayama

500ml　50%
宮下酒造
日本



ジン／ジャパニーズ

HINATA

Hinata

750ml　47%
京屋酒造
日本



ジン／ジャパニーズ

KUMAMOTO jin jin GIN（くまもとジンジンジン）

Kumamoto Jin Jin Gin

700ml　47%
高田酒造場
日本



ジン／ジャパニーズ

まさひろオキナワ ジン レシピ01

Masahiro Okinawa Gin Recipe 01

700ml　47%
まさひろ酒造
日本



ジン／ジャパニーズ

ニッカ カフェジン

Nikka Coffey Gin

700ml　47%
アサヒビール
日本



ジン／ジャパニーズ

サクラオジン ハマゴウ

Sakurao Gin Hamagou

700ml　47%
中国醸造
日本





自動販売機の原型といわれるオールドトムの看板（左）。右はシップスミスのポットスチル。ドイツのカール社製。



ジン／イングランド（ウェールズ含む）

シップスミス VJOP

Sipsmith VJOP

700ml　57.7%
サントリースピリッツ
イングランド



ジン／イングランド（ウェールズ含む）

タンカレー ナンバーテン

Tanqueray No.Ten

750ml　47.3%
キリンビール
イングランド



ジン／ヨーロッパ

キュロ ナプエ フィンランドジン

Kyro Napue Finland Gin

500ml　46.3%
リカーズハセガワ本店
フィンランド



ジン／ヨーロッパ

No.3 ロンドンドライジン

No.3 London Dry Gin

700ml　46%
ジャパンインサイト
オランダ



ジン／ヨーロッパ

No.3 ロンドンドライジン キングスマン エディション

No.3 London Dry Gin Kingsman Edition

700ml　49%
ジャパンインサイト
オランダ



ジン／オセアニア

アデレードヒル 78°ドライジン

Adelaide Hills 78° Dry Gin

700ml　42%
千雅
オーストラリア



ジン／オセアニア

ジニヴァシティ ボタニカル ジン

Giniversity Botanical Gin

500ml　42%
千雅
オーストラリア



ジン／オセアニア

ペイシェントウルフ サマータイム ジン

Patient Wolf Summer Thyme Gin

700ml　41.5%
千雅
オーストラリア



ジン／北中南米

コーヴァル バレルドジン

Koval Barreled Gin

500ml　47%
スコッチモルト販売
アメリカ



ジン／北中南米

コーヴァル ドライジン

Koval Dry Gin

500ml　47%
スコッチモルト販売
アメリカ



ジン／アフリカ

KWV クラックスランド ドライジン

KWV Cruxland Dry Gin

700ml　43%
国分グループ本社
南アフリカ



ジン／その他

ヘルノ オールドトムジン

Hernö Old Tom Gin

500ml　43%
都光
スウェーデン



「No.3」の販売元であるロンドンのBBR社。セント・ジェームズ街３番地に所在する。



テキーラ

アラクラン ブランコ

Alacrán Blanco

750ml　40%
De Agave
メキシコ



テキーラ

カーサ・デ・ルナ エクストラ アネホ

Casa de Luna Extra Anejo

750ml　40%
SHoT3
メキシコ



テキーラ

カサ・マエストリ テキーラ フラスクボトル

Casa Maestri Tequila Flask Bottle

200ml　40%
スリーアローズ
メキシコ



テキーラ

カスカウィン エクストラアネホ

Cascahuin Extra Anejo

750ml　43%
フィデア
メキシコ



テキーラ

ドン・フリオ ブランコ

Don Julio Blanco

750ml　38%
キリンビール
メキシコ



テキーラ

ドン・フリオ アネホ

Don Julio Anejo

750ml　38%
キリンビール
メキシコ



テキーラ

パトロン レポサド

Patrón Reposado

750ml　40%
バカルディジャパン
メキシコ



その他のスピリッツ

辰巳蒸留所 グリーンアブサン

Tatsumi Distillery Green Absinthe

500ml　58%
辰巳蒸留所
日本



Tokyo Whisky & Spirits Competition
March 2019

銅賞

Bronze Winner

銅賞の受賞本数は98本と、銀賞の130本に比べて少ない数字となった。これはジャッジの点数が平均して80点台だったことを意味し、70点以上で受賞できる銅賞が相対的に少なくなったものと思われる。全出品アイテム527本のラインナップを見ても、当初実行委員会が予想していたのと、そう違いはなかった気がする。

銅賞98アイテムの中で、もっとも多かったのはやはりウイスキーで、その数は50本。うちスコッチが34本で、次いでジャパニーズとアメリカンが4、そしてワールドが5本となっている。ワールドについては銀賞のところでも述べたが、今回ワールドのカテゴリー中に、従来ジャパニーズとして認識されていたアイテムが少なからず存在する。

つまり日本でブレンド、瓶詰め、そしてブランディングが行われていたとしても、スコッチなどの日本産以外のウイスキー（一般にはバルクで入ってくる原酒）がブレンドされていれば、原則としてワールドウイスキーのカテゴリーで出品してほしいと伝えていたからだ。そこが日本で初開催されるコンペの、実行委員会としての見解でもある。

つまり、この受賞リストを見て、そのことの意味を感じ取ってほしいというのが、実行委員会の願いでもある。ジャパニーズワインと同じように、いつかジャパニーズウイスキーの定義が明確になってほしいと願っている。

（文責：土屋 守）



スコッチウイスキー／シングルモルト 1
アードベッグ 10年
Ardbeg 10 YO
700ml　46%　MHD モエ ヘネシー ディアジオ　スコットランド

スコッチウイスキー／シングルモルト 2
アードベッグ コリーヴレッカン
Ardbeg Corryvreckan
700ml　57.1%　MHD モエ ヘネシー ディアジオ　スコットランド

スコッチウイスキー／シングルモルト 3
アードモア レガシー
Ardmore Legacy
700ml　40%　サントリースピリッツ　スコットランド

スコッチウイスキー／シングルモルト 4
カーデュ 12年
Cardhu 12 YO
700ml　40%　日本酒類販売　スコットランド

スコッチウイスキー／シングルモルト 5
クライヌリッシュ 14年
Clynelish 14 YO
700ml　46%　MHD モエ ヘネシー ディアジオ　スコットランド

スコッチウイスキー／シングルモルト 6
ダルウィニー 15年
Dalwhinnie 15 YO
700ml　43%　MHD モエ ヘネシー ディアジオ　スコットランド

スコッチウイスキー／シングルモルト 7
グレンエルギン 12年
Glen Elgin 12 YO
700ml　43%　MHD モエ ヘネシー ディアジオ　スコットランド

スコッチウイスキー／シングルモルト 8
グレングラント 18年
Glen Grant 18 YO
700ml　43%　アサヒビール　スコットランド

スコッチウイスキー／シングルモルト 9
グレンフィディック 12年
Glenfiddich 12 YO
700ml　40%　サントリースピリッツ　スコットランド

スコッチウイスキー／シングルモルト 10
グレンフィディック 15年 ソレラリザーブ
Glenfiddich 15 YO Solera Reserve
700ml　40%　サントリースピリッツ　スコットランド

スコッチウイスキー／シングルモルト 11
グレンモーレンジィ キンタ・ルバン 12年
Glenmorangie Quinta Ruban 12 YO
700ml　46%　MHD モエ ヘネシー ディアジオ　スコットランド

スコッチウイスキー／シングルモルト 12
ラガヴーリン 8年
Lagavulin 8 YO
700ml　48%　MHD モエ ヘネシー ディアジオ　スコットランド

※●●のついているものは特別賞も受賞しているもの。リストはP.54,61。
※ボトルのスペックは、容量　アルコール度数　出品企業　生産国名の順に掲載。
※カテゴリーごとにアルファベット順で掲載。

スコッチウイスキー／シングルモルト

13

オールドプルトニー 12年

Old Pulteney 12 YO

700ml　40%　三陽物産　スコットランド

スコッチウイスキー／シングルモルト

14

ポートシャーロット アイラ・バーレイ 2011

Port Charlotte Islay Barley 2011

700ml　50%　レミー コアントロー ジャパン　スコットランド

スコッチウイスキー／シングルモルト

15

タリスカー 10年

Talisker 10 YO

700ml　45.8%　MHD モエ ヘネシー ディアジオ　スコットランド

スコッチウイスキー／シングルモルト

16

ザ・シングルトン ダフタウン 12年

The Singleton Dufftown 12 YO

700ml　40%　キリンビール　スコットランド

スコッチウイスキー／シングルモルト

17

トマーティン ク・ボカン

Tomatin Cù Bòcan

700ml　46%　国分グループ本社　スコットランド

スコッチウイスキー／シングルモルト

18

ウィルソン&モーガン ハウスモルト ボーンオンアイラ

Wilson & Morgan House Malt Born On Islay

700ml　43%　ePower　スコットランド

スコッチウイスキー／シングルモルト

19

ウルフバーン オーロラ

Wolfburn Aurora

700ml　46%　スコッチモルト販売　スコットランド

スコッチウイスキー／ブレンデッドモルト

20

インペリアルトリビュート

Imperial Tribute

700ml　46%　リカーズハセガワ本店　スコットランド

スコッチウイスキー／ブレンデッドモルト

21

ジョニーウォーカー グリーンラベル 15年

Johnnie Walker Green Label 15 YO

700ml　43%　キリンビール　スコットランド

スコッチウイスキー／ブレンデッドモルト

22

モンキーショルダー

Monkey Shoulder

700ml　40%　三陽物産　スコットランド

スコッチウイスキー／ブレンデッドモルト

23

セルキー バッチ2

Selkie Batch 2

500ml　50%　大和貿易　スコットランド

スコッチウイスキー／ブレンデッドモルト

24

ウィルソン&モーガン シェリーカスクモルト ハイランドハート

Wilson & Morgan Sherry Cask Malt Highland Heart

700ml　43%　ePower　スコットランド





スコッチウイスキー／シングルグレーン

25

ロッホローモンド シングルグレーン

Loch Lomond Single Grain

700ml　46%　都光　スコットランド

スコッチウイスキー／ブレンデッド

26

バランタイン 12年

Ballantine's 12 YO

700ml　40%　サントリースピリッツ　スコットランド

スコッチウイスキー／ブレンデッド

27

バランタイン 17年

Ballantine's 17 YO

700ml　40%　サントリースピリッツ　スコットランド

スコッチウイスキー／ブレンデッド

28

バランタイン 17年 トリビュートリリース リミテッドエディション

Ballantine's 17 YO Tribute Release Limited Edition

700ml　48%　サントリースピリッツ　スコットランド

スコッチウイスキー／ブレンデッド

29

バランタイン 21年

Ballantine's 21 YO

700ml　40%　サントリースピリッツ　スコットランド

スコッチウイスキー／ブレンデッド

30

ディンプル 12年

Dimple 12 YO

700ml　40%　日本酒類販売　スコットランド

スコッチウイスキー／ブレンデッド

31

アイラ・ミスト 8年 マンサニージャ・ラ・ヒターナ カスクフィニッシュ

Islay Mist 8 YO Manzanilla La Gitana Cask Finish

700ml　43%　ユニオンリカーズ　スコットランド

スコッチウイスキー／ブレンデッド

32

ジョニーウォーカー ブルーラベル

Johnnie Walker Blue Label

750ml　40%　MHD モエ ヘネシー ディアジオ　スコットランド

スコッチウイスキー／ブレンデッド

33

ジョニーウォーカー ゴールドラベル リザーブ

Johnnie Walker Gold Label Reserve

700ml　40%　キリンビール　スコットランド

スコッチウイスキー／ブレンデッド

34

ティーチャーズ ハイランドクリーム

Teacher's Highland Cream

700ml　40%　サントリースピリッツ　スコットランド

ジャパニーズウイスキー／シングルモルト

35

白州
Hakushu

700ml　43%　サントリースピリッツ　日本

ジャパニーズウイスキー／シングルモルト

36

岡山
Okayama

700ml　43%　宮下酒造　日本

ジャパニーズウイスキー／シングルモルト

37

山崎
Yamazaki

700ml　43%　サントリースピリッツ　日本

ジャパニーズウイスキー／シングルグレーン

38

富士御殿場 ディスティラーズセレクト シングルグレーン
Fuji-Gotemba Distiller's Select Single Grain

500ml　64%　キリンビール　日本

アイリッシュウイスキー

39

ファーキュレン 10年 シングルグレーン
Fercullen 10 YO Single Grain

700ml　40%　Powerscourt Distillery　アイルランド

アイリッシュウイスキー

40

ホイッスラー 7年
The Whistler 7 YO

700ml　46%　Boann Distillery　アイルランド

アイリッシュウイスキー

41

ホイッスラー 10年
The Whistler 10 YO

700ml　46%　Boann Distillery　アイルランド

アメリカンウイスキー

42

I.W.ハーパー 12年
I.W.Harper 12 YO

750ml　43%　キリンビール　アメリカ

アメリカンウイスキー

43

コーヴァル フォーグレーン
Koval Four Grain

750ml　47%　スコッチモルト販売　アメリカ

アメリカンウイスキー

44

メーカーズマーク
Maker's Mark

700ml　45%　サントリースピリッツ　アメリカ

アメリカンウイスキー

45

タウン・ブランチ バーボン
Town Branch Bourbon

700ml　40%　Alltech Japan合同会社　アメリカ



























ワールドウイスキー
963 レッド ダブルマチュード 46
963 Red Double Matured
500ml 46% 福島県南酒販 日本

ワールドウイスキー
カバラン クラシック 47
Kavalan Classic
700ml 40% Kavalan Distillery 台湾

ワールドウイスキー
カバラン ソリスト バーボン 48
Kavalan Solist Ex-Bourbon
700ml 59.4% Kavalan Distillery 台湾

ワールドウイスキー
オマー オレンジブランデーバレル カスクストレングス 49
Omar Orange Brandy Barrel Cask Strength
700ml 55% Taiwan Tobacco & Liquor Corporation 台湾

ワールドウイスキー
ポール・ジョン ピーテッド 50
Paul John Peated
700ml 55.5% 国分グループ本社 インド

コニャック
バッシュ ガブリエルセン ファンボワ 1992 51
Bache Gabrielsen Fins Bois 1992
700ml 45.7% NOZOMI フランス

コニャック
カミュ VSOP エレガンス 52
Camus VSOP Elegance
700ml 40% アサヒビール フランス

カルヴァドス
ロジェ・グルー 12年 53
Roger Groult Age 12 Ans
700ml 41% スマイル フランス

ブランデー
ボッテガ アレキサンダー グラッパ 54
Bottega Alexander Grappa
350ml 38% 日本酒類販売 イタリア

ブランデー
エミリオ・ルスタウ ブランデー・デ・ヘレス ソレラ・グラン・レセルバ・ファイネスト・セレクション 55
Emilio Lustau Brandy de Jerez Solera Gran Reserva Finest Selection
700ml 40% ミリオン商事 スペイン

ブランデー
グラッパ バリーリ・ディ・サッシカイア 56
Grappa Barili di Sassicaia
500ml 40% スマイル イタリア

ブランデー
グラッパ モンテ オエステ 57
Grappa Monte Oeste
720ml 40% 西山酒造場 日本

ブランデー

58 いいづなアップルブランデー 2018 ブランシュ

Iizuna Apple Brandy 2018 Blanche

250ml　40%　サンクゼール　日本

ラム

59 アプルトン エステート レアブレンド 12年

Appleton Estate Rare Blend 12 YO

750ml　43%　アサヒビール　ジャマイカ

ラム

60 バカルディ スペリオール

Bacardí Superior

750ml　40%　バカルディジャパン　プエルトリコ

ラム

61 ヘリオス ティーダ 5年

Helios Teeda 5 YO

700ml　40%　ヘリオス酒造　日本

ラム

62 イエラム・サンタマリア ゴールド

Ie Rum Santa Maria Gold

720ml　37%　伊江島物産センター　日本

ラム

63 イエラム・サンタマリア プレミアム T17

Ie Rum Santa Maria Premium T17

500ml　56.2%　伊江島物産センター　日本

ラム

64 マウントゲイ ブラックバレル

Mount Gay Black Barrel

700ml　43%　レミー コアントロー ジャパン　バルバドス

ラム

65 ヌサカーニャ トロピカルアイランドラム

Nusa Caña Tropical Island Rum

700ml　37.5%　アイデイ商事　インドネシア

ラム

66 パッサーズラム ガンパウダープルーフ

Pusser's Rum Gunpowder Proof

700ml　54.5%　ePower　ガイアナ、トリニダード、バルバドス

ラム

67 ヴィラリカ シングルバレル 23年

Villa Rica 23 YO Single Barrel

750ml　40%　スリーアローズ　メキシコ









ジン／ジャパニーズ 68
アカヤネ クラフト ジン 緑茶
Akayane Craft Gin Green Tea
720ml 47% 佐多宗二商店 日本

ジン／ジャパニーズ 69
AWA GIN CLEAR BOTTLE（アワ ジン クリアーボトル）
Awa Gin Clear Bottle
700ml 45% 日新酒類 日本

ジン／ジャパニーズ 70
jin jin GIN（ジンジンジン）
Jin Jin Gin
700ml 47% 高田酒造場 日本

ジン／ジャパニーズ 71
香の森
Kanomori
700ml 47% 養命酒製造 日本

ジン／ジャパニーズ 72
香の雫
Kanoshizuku
300ml 37% 養命酒製造 日本

ジン／ジャパニーズ 73
季の美 京都ドライジン
Ki No Bi Kyoto Dry Gin
700ml 45% ウィスク・イー 日本

ジン／ジャパニーズ 74
季の美 勢
Ki No Bi Sei
700ml 54% ウィスク・イー 日本

ジン／ジャパニーズ 75
コマサジン -桜島小みかん-
Komasa Gin -Sakurajima Komikan-
500ml 45% 小正醸造 日本

ジン／ジャパニーズ 76
ORI-GiN 1848 -トロピカル&リッチ-
Ori-Gin 1848 -Tropical & Rich-
500ml 48% 瑞穂酒造 日本

ジン／ジャパニーズ 77
サクラオジン オリジナル
Sakurao Gin Original
700ml 47% 中国醸造 日本

ジン／ジャパニーズ 78
和ジン
Wa Gin
700ml 45% 明利酒類 日本

ジン／スコットランド

79

カーキューヴァ・アークエンジェル・ストームストレングス・オークニージン

Kirkjuvagr Arkh-Angell Storm Strength Orkney Gin

700ml　57%　アクサス　スコットランド

ジン／イングランド（ウェールズ含む）

80

サイレントプール・ジン

Silentpool Gin

700ml　43%　ウィスク・イー　イングランド

ジン／イングランド（ウェールズ含む）

81

スター・オブ・ボンベイ

Star of Bombay

750ml　47.5%　バカルディジャパン　イングランド

ジン／イングランド（ウェールズ含む）

82

タンカレー ロンドンドライジン

Tanqueray London Dry Gin

750ml　47.3%　キリンビール　イングランド

ジン／ヨーロッパ

83

フェルディナンズ ザール ドライジン

Ferdinand's Saar Dry Gin

500ml　44%　田地商店　ドイツ

ジン／オセアニア

84

アップルウッド ジン

Applewood Gin

500ml　43%　千雅　オーストラリア

ジン／オセアニア

85

ペイシェントウルフ プレミアム ドライ ジン

Patient Wolf Premium Dry Gin

700ml　41.5%　千雅　オーストラリア

ジン／北中南米

86

ディクタドール エイジドジン トレジャー

Dictador Aged Gin Treasure

700ml　43%　都光　コロンビア

テキーラ

87

アラクラン エクストラアネホ

Alacrán Extra Añejo

750ml　40%　De Agave　メキシコ

テキーラ

88

クエルボ トラディショナル レポサド

Cuervo Tradicional Reposado

700ml　38%　アサヒビール　メキシコ

テキーラ

89

ドン・フラノ ストロング・シルバー

Don Fulano Strong Silver

750ml　50%　日本グランド・シャンパーニュ　メキシコ

テキーラ

90

ドン・フリオ レアル

Don Julio Real

750ml　38%　キリンビール　メキシコ





テキーラ
91 フォルタレサ アネホ
Fortaleza Anejo
750ml　40%　ウィスク・イー　メキシコ

テキーラ
92 カルマ レポサド
Karma Reposado
750ml　40%　フィデア　メキシコ

テキーラ
93 パトロン シルバー
Patrón Silver
750ml　40%　バカルディジャパン　メキシコ

テキーラ
94 サウザ ブルー
Sauza Blue
750ml　40%　サントリースピリッツ　メキシコ

ウオッカ
95 シロック
Cîroc
700ml　40%　キリンビール　フランス

その他のスピリッツ
96 パスティス
Pastis Av Skånska Spritfabriken
700ml　45%　Sweden Wine & Spirits AB　スウェーデン

その他のスピリッツ
97 山崎蒸溜所貯蔵 焙煎樽熟成梅酒
Suntory Casked Umeshu
750ml　17%　サントリースピリッツ　日本

その他のスピリッツ
98 ツムギ ブンタン
Tumugi Buntan
750ml　43%　三和酒類　日本





テキーラの原料となるアガベの畑（左）。右はテキーラで使われる単式蒸留器。ネックの形が特徴的だ。

Tokyo Whisky & Spirits Competition
March 2019

特別賞

Special Award

TWSC2019オブ・ザ・イヤー
ディスティラリー・オブ・ザ・イヤー
カテゴリーウィナー

最高金賞、金賞、銀賞、銅賞とは別に、TWSCでは特別賞を設けることにした。

いわばその年のベストを表彰しようというもので、各カテゴリーの中で特に優れたもの（最高得点、高得点）を「TWSC2019オブ・ザ・イヤー」として認定したものだ。カテゴリー最高点の中で同点のものは、２品同時に「○○オブ・ザ・イヤー」としたものもある。

さらに実行委員会として当初より選定したいという声が高かった「ベストコストパフォーマンス賞」というものも決定した。「美味しいものは高い」という常識の中で、消費者目線に立って、安価でも美味しいものには賞をあげたいという想いがあったからだ。また、銅賞には一歩届かなかったけれど、将来が期待されるということで、ジャパニーズクラフトのニューポット、ニューボーンの中から一番点数の高かったものを、特別に「ベストニューカマー・オブ・ザ・イヤー（新人賞）」として表彰することも決定した。

さらに昨年11月から、ジャッジ180名に特別アンケートをお願いしていた「ディスティラリー・オブ・ザ・イヤー」についても、５蒸留所を特別賞として表彰することにした。今年は第１回目ということもあり、ウイスキーの蒸留所のみを「ベストディスティラリー」として認定したが、55ページ以下にそのアンケート結果（スコッチのみ）と選定の理由についても挙げている。

もうひとつ、126カテゴリー中、そのカテゴリーの最高得点（上記以外）で銀賞受賞以上のもの、さらに実行委員会が賞を与えるのが妥当と認めるものについては、別途「カテゴリーウィナー」として特別賞に加えることにした。

（文責：土屋 守）

TWSC 2019 of the year

TWSC2019オブ・ザ・イヤー

**各カテゴリーの中で特に優れたものを「TWSC2019オブ・ザ・イヤー」として認定。
またカテゴリー以外の部門として「ベストコストパフォーマンス賞」
「ベストニューカマー・オブ・ザ・イヤー（新人賞）」も同時に決定した。**

受賞部門	商品名	出品企業	生産国
ベストスコッチシングルモルト（オフィシャル部門） Best Scotch Single Malt (Official)	タリスカー 25年 Talisker 25 YO	MHD モエ ヘネシー ディアジオ	スコットランド
ベストスコッチシングルモルト（ノンエイジ部門） Best Scotch Single Malt (No Age Statement)	グレンモーレンジィ シグネット Glenmorangie Signet	MHD モエ ヘネシー ディアジオ	スコットランド
ベストスコッチシングルモルト（シングルカスク部門） Best Scotch Single Malt (Single Cask)	グレンファークラス シングルカスク 1989 “ブラック・ジョージ・ラベル” Glenfarclas Single Cask 1989 "Black George Label"	ミリオン商事	スコットランド
ベストスコッチシングルモルト（ボトラーズ部門） Best Scotch Single Malt (Independent Bottlers)	グレンアラヒー 2012 6年 A.D.ラトレー ウイスキーフェスティバル2018 in 東京記念ボトル Glenallachie 2012 6 YO A.D. Rattray Whisky Festival 2018 in Tokyo	ウイスキー文化研究所	スコットランド
ベストスコッチブレンデッド（26年以上部門） Best Scotch Blended (26 & over)	バランタイン 30年 Ballantine's 30 YO	サントリースピリッツ	スコットランド
ベストスコッチブレンデッド（12年以下部門） Best Scotch Blended (12 & under)	ホワイトホース 12年 White Horse 12 YO	キリンビール	スコットランド
ベストジャパニーズシングルモルト Best Japanese Single Malt	山崎 12年 Yamazaki 12 YO	サントリースピリッツ	日本
ベストジャパニーズシングルモルト（シングルカスク部門） Best Japanese Single Malt (Single Cask)	駒ヶ岳 2012 6年 シングルカスク No.1493 Komagatake 2012 6 YO Single Cask No. 1493	本坊酒造	日本
ベストジャパニーズブレンデッド Best Japanese Blended	響 21年 Hibiki 21 YO	サントリースピリッツ	日本
ベストジャパニーズブレンデッド（プライベートボトル部門） Best Japanese Blended (Private Bottle)	イチローズモルト＆グレーン 清里フィールドバレエ29回記念ボトル Ichiro's Malt & Grain Kiyosato Field Ballet 29th Anniversary	萌木の村	日本
ベストニューカマー Best Newcomer	嘉之助 ニューボーン 2018 ホワイトオークカスク8ヵ月 ノンピート Kanosuke New Born 2018 Mellowed For 8 Mos. In White Oak Casks	小正醸造	日本
ベストアイリッシュシングルモルト Best Irish Single Malt	イーガンズ 10年 Egan's 10 YO	アイデイ商事	アイルランド
ベストアメリカンウイスキー Best American Whiskey	アラ ワイ キアヴェ Ala Wai Kiawe	Ala Wai Whisky	アメリカ
ベストケンタッキーバーボン（12年以下部門） Best Kentucky Bourbon (12 & under)	オールドエズラ 7年 バレルストレングス Old Ezra 7 YO Barrel Strength	富士貿易	アメリカ
ベストケンタッキーバーボン（ノンエイジ部門） Best Kentucky Bourbon (No Age Statement)	フォアローゼズ プラチナ Four Roses Platinum	キリンビール	アメリカ
ベストワールドウイスキー／ベストタイワニーズシングルモルト Best World Whisky / Best Taiwanese Single Malt	カバラン ソリスト オロロソシェリー Kavalan Solist Oloroso Sherry	Kavalan Distillery	台湾
ベストインディアンシングルモルトウイスキー Best Indian Single Malt Whisky	ポール・ジョン エディテッド Paul John Edited	国分グループ本社	インド
ベストクラフトジン Best Craft Gin	スティン Stin	日本グランド・シャンパーニュ	オーストリア
ベストジャパニーズクラフトジン Best Japanese Craft Gin	アカヤネ クラフトジン 仁の心 冬 Akayane Gin Heart Fuyu	佐多宗二商店	日本
ベストジャパニーズクラフトジン Best Japanese Craft Gin	油津吟 Yuzugin	京屋酒造	日本
ベストイングリッシュクラフトジン Best English Craft Gin	レイクス ジン エクスプローラー Lakes Gin Explorer	雄山	イングランド
ベストスコティッシュジン Best Scottish Gin	カーキューヴァ・アークエンジェル・ストームストレングス・ジン Kirkjuvagr Arkh-Angell Storm Strength Orkney Gin	アクサス	スコットランド
ベストアメリカンクラフトジン Best American Craft Gin	コーヴァル バレルドジン Koval Barreled Gin	スコッチモルト販売	アメリカ
ベストコニャック Best Cognac	ティフォン ヴュー スペリオール Tiffon Vieux Superieur	NOZOMI	フランス
ベストテキーラ Best Tequila	ドン・フリオ レポサド Don Julio Reposado	キリンビール	メキシコ
ベストラム Best Rum	アプルトン エステート 21年 Appleton Estate 21 YO	アサヒビール	ジャマイカ
ベストジャパニーズラム Best Japanese Rum	イエラム・サンタマリア 蒸留所限定品1 Ie Rum Santa Maria Distillery Limited 1	伊江島物産センター	日本
ベストコストパフォーマンス（スコッチ部門） Best Cost Performance (Scotch)	グレングラント ザ メジャーリザーブ Glen Grant The Major's Reserve	アサヒビール	スコットランド
ベストコストパフォーマンス（ラム部門） Best Cost Performance (Rum)	バカルディ エイト Bacardí 8	バカルディジャパン	プエルトリコ



Best Newcomer

ベストニューカマー

嘉之助 ニューボーン 2018
ホワイトオークカスク8ヵ月 ノンピート

Kanosuke New Born 2018 Mellowed For 8 Mos. In White Oak Casks

200ml　58%　小正醸造　日本

Distillery of the year 2019

ディスティラリー・オブ・ザ・イヤー2019

審査員アンケートについて

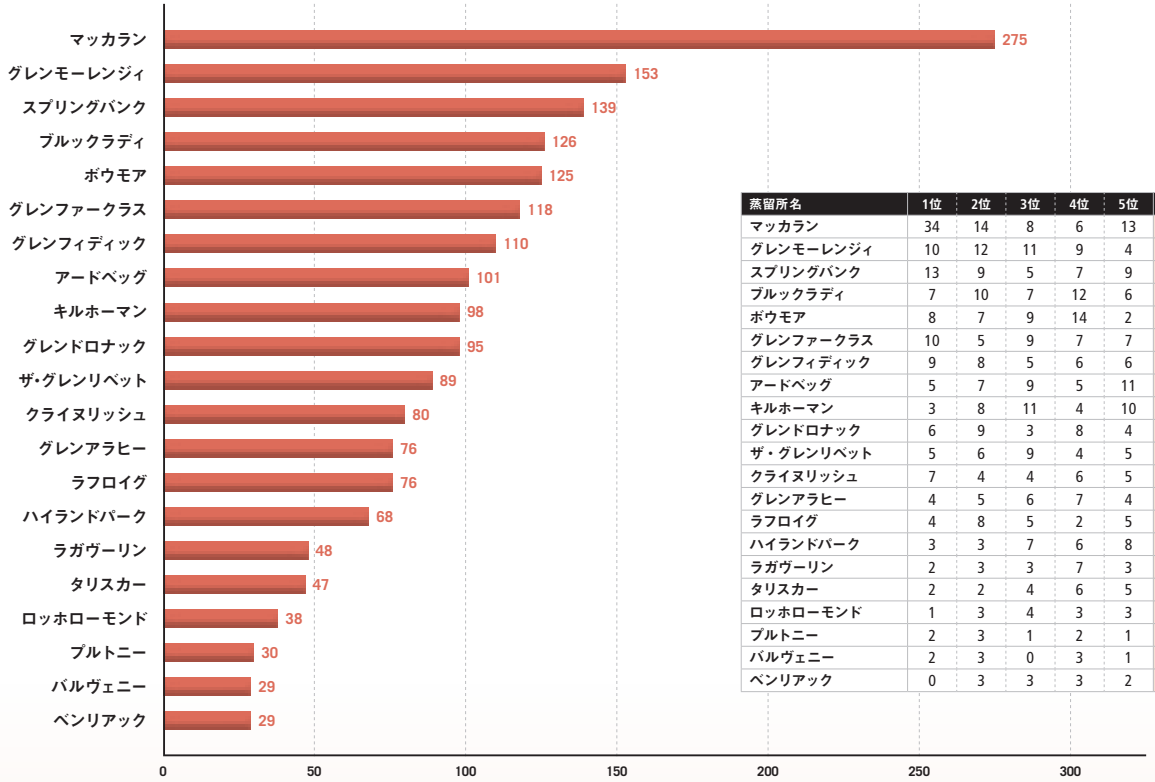
ディスティラリー・オブ・ザ・イヤー2019を決定するにあたり、「ベストスコッチ・ディスティラリー・オブ・ザ・イヤー」、「ベストスコッチ・クラフトディスティラリー・オブ・ザ・イヤー」の2つについては、審査員180名に事前投票をお願いし、その結果をもとに賞を決定した。

「ベストスコッチ・ディスティラリー・オブ・ザ・イヤー」は、スコットランドの既存のウイスキー蒸留所の中から、造り、話題性、革新性などの観点から、候補となる30の蒸留所を実行委員会がリストアップ。その中から、審査員に1～5位までを選んで投票してもらった。その結果を1位：5ポイント、2位：4ポイント…、5位：1ポイントとして点数を集計した。

「ベストスコッチ・クラフトディスティラリー・オブ・ザ・イヤー」もスコットランドのクラフト蒸留所の中から、造り、チャレンジ精神、造り手のこだわりなどの観点から候補となる20の蒸留所をリストアップ。その中から1位～3位までを審査員に投票してもらい、1位：3ポイント、2位：2ポイント…として点数を集計した。

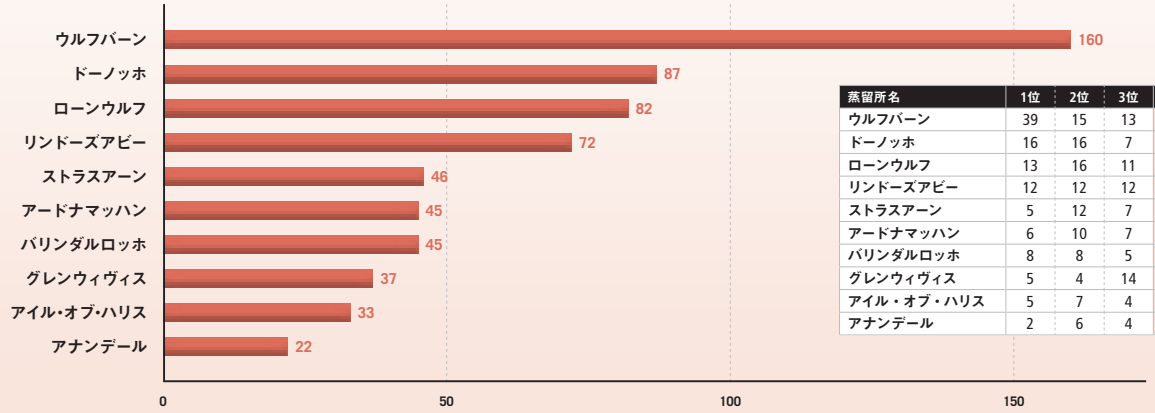
以下のグラフがその2つの投票の集計結果である。

ベストスコッチ・ディスティラリー・オブ・ザ・イヤー投票結果



蒸留所名	1位	2位	3位	4位	5位	合計
マッカラン	34	14	8	6	13	275
グレンモーレンジィ	10	12	11	9	4	153
スプリングバンク	13	9	5	7	9	139
ブルックラディ	7	10	7	12	6	126
ボウモア	8	7	9	14	2	125
グレンファークラス	10	5	9	7	7	118
グレンフィディック	9	8	5	6	6	110
アードベッグ	5	7	9	5	11	101
キルホーマン	3	8	11	4	10	98
グレンドロナック	6	9	3	8	4	95
ザ・グレンリベット	5	6	9	4	5	89
クライヌリッシュ	7	4	4	6	5	80
グレンアラヒー	4	5	6	7	4	76
ラフロイグ	4	8	5	2	5	76
ハイランドパーク	3	3	7	6	8	68
ラガヴーリン	2	3	3	7	3	48
タリスカー	2	2	4	6	5	47
ロッホローモンド	1	3	4	3	3	38
プルトニー	2	3	1	2	1	30
バルヴェニー	2	3	0	3	1	29
ベンリアック	0	3	3	3	2	29

ベストスコッチ・クラフトディスティラリー・オブ・ザ・イヤー投票結果



蒸留所名	1位	2位	3位	合計
ウルフバーン	39	15	13	160
ドーノッホ	16	16	7	87
ローンウルフ	13	16	11	82
リンドーズアビー	12	12	12	72
ストラスアーン	5	12	7	46
アードナマッハン	6	10	7	45
バリンダルロッホ	8	8	5	45
グレンウィヴィス	5	4	14	37
アイル・オブ・ハリス	5	7	4	33
アナンデール	2	6	4	22

Best Scotch Distillery of the year

ベスト・スコッチ・ディスティラリー・オブ・ザ・イヤー



マッカラン蒸留所

環境にも配慮した斬新なデザインが高評価





ベスト・スコッチ・ディスティラリーは事前にジャッジ180名にアンケートをお願いした。30の蒸留所を実行委員会の方でリストアップし、その選定理由とともにジャッジのもとに送付。その結果275点で断トツの１位となったのが、スペイサイドのマッカラン蒸留所だった。

もちろん、ジャッジにもその理由を書いてもらったが、一番多かったのが、昨年５月にマッカランの新しい蒸留所がオープンしたこと。総事業費200億円という超巨大プロジェクトで、ポットスチル36基を擁する巨大な蒸留所が、スペイ川を見おろす高台にその姿を現した。そのデザインの斬新さも注目の的だが、環境にも配慮した蒸留所で、半地下式の建物の屋根には芝が植えられるなど、周囲の風景とも見事にマッチしている。そんな点も、審査員に高く評価された理由かと思われる。

Best Scotch Craft Distillery of the year

ベスト・スコッチ・クラフトディスティラリー・オブ・ザ・イヤー

ウルフバーン蒸留所

日本限定品を出すなど、積極的にファンを拡大



スコッチのクラフト蒸留所も事前に20の蒸留所を実行委員会のほうでピックアップし、ジャッジに送付した。こちらは１位から３位まで投票してもらったが、その結果、１位となったのが、2013年に北ハイランドのサーソーの街に誕生したウルフバーンだった。

ウルフバーンの創業者は地元ケイスネス州出身のアンドリュー・トンプソン氏。元英国海軍出身という異色の経歴の持ち主で、ヘッドディスティラーに元グレンファークラスの所長を招聘するなど、造りそのものは小さくてもいたって本格的だ。

日本への関心、リスペクトも相当なもので、当初から日本マーケットを重視。日本のファン向けの限定ボトルを出すなど、積極的に訴求してきたことも、評価のポイントとなった。創業者みずからウイスキーフェスティバル in 東京など、年に１～２回日本を訪れ、日本のファンと交流を図っているのも理由のひとつかと思われる。





Best Japanese Craft Distillery of the year

ベスト・ジャパニーズ・クラフトディスティラリー・オブ・ザ・イヤー





嘉之助蒸溜所

焼酎王国に誕生した
世界が注目する蒸留所

日本のクラフト蒸留所は2008年２月に生産開始となった秩父蒸溜所が、その先駆けとなったが、2016年頃から相次いで小規模蒸留所が日本全国に誕生している。そんな中、2018年春に鹿児島県日置の吹上浜にオープンしたのが小正醸造の嘉之助蒸溜所だ。吹上浜は全長50km近くにも及ぶ“日本３大美浜”の１つで、そのロケーションの美しさは息を飲むよう。

スチルも多くのクラフト蒸留所が初留、再留２基という最小単位でスタートしているのに対し、嘉之助はサイズと形が異なる３基のスチルを導入し、２回蒸留にも３回蒸留にも、さらにスチルの組み合わせを変えることで、複数のタイプのウイスキーを造ることができるところも、高く評価された。しかも、それらのスチルはすべて三宅製作所製。冷却装置も多くが採用している近代的なシェル＆チューブではなく、３基とも屋内ワームタブ式というのも特筆に値する。南国鹿児島の「焼酎王国」に誕生した、世界でも例を見ないユニークな蒸留所が、今内外の注目を集めている。



Best Irish Craft Distillery of the year

ベスト・アイリッシュ・クラフトディスティラリー・オブ・ザ・イヤー



スレーン蒸留所

野外ロックの殿堂に誕生した古城の蒸留所





アイリッシュから選ばれたのは、ダブリンから車で1時間半ほど北上したボイン渓谷沿いにあるスレーン城のスレーン蒸留所。スレーン城は1981年に始まった野外ロックフェスティバルで有名な城で、U2やクイーン、ローリングストーンズ、ボブ・ディラン、マドンナなど錚々たるミュージシャンが、ここで一夜限りのライブを行っている。

その城のステーブル（馬小屋）を改造して2017年にオープンしたのがスレーン蒸留所で、ポットスチル３基でシングルモルトとポットスチルウイスキーを造り、さらにコフィ―スチルでグレーンウイスキーも造るという、アイリッシュ独特のスタイルを完成させている。蒸留所の共同パートナーはアメリカのブラウンフォーマン社で、同社の技術が随所に生かされていることもポイントになった。特に同社が造るスレーン用の樽は特筆に値する。日本には未入荷だが、アメリカ市場ではすでに人気を博している蒸留所だ。

Best World Craft Distillery of the year

ベスト・ワールド・クラフトディスティラリー・オブ・ザ・イヤー







ポール・ジョン蒸留所

インド屈指の海岸リゾート地、ゴアに誕生した純インド産ウイスキー

ワールド・クラフトディスティラリーには、インドのゴアに2008年にオープンしたポール・ジョン蒸留所が選ばれた。同社の本拠地はインド南部カルナータカ州のバンガロールにあるが、シングルモルトに特化した蒸留所を、かつてのポルトガルの植民地で、インド屈指の海岸リゾート地として有名なゴアに建設。インド産の六条大麦を使い、インド製のポットスチル４基で本格的なモルトウイスキーを造っている。

ノンピートとピーテッドの２種類の麦芽を使っているが、スコットランド産のピートをわざわざインドに輸入し、それを焚いて麦芽をつくるという、こだわりようだ。それもアイラ産と本土産（東ハイランド）の２種類のピートを使い分けるという、ユニークな製法が実行委員会の注目を集めた。日本にもすでに５種類が正規輸入されていて、入手可能なことも、評価された理由かと思われる。

Category Winner 2019

カテゴリーウィナー2019

**全126カテゴリーの中で、そのカテゴリーの最高得点かつ銀賞受賞以上のもの、
さらに実行委員会が賞を与えるのが妥当と認めるものについて
「カテゴリーウィナー」として認定した。**

受賞部門	商品名	出品企業	生産国
スコッチシングルモルト／12年以下 Scotch Single Malt / 12 Years & Under	ロッホローモンド 12年 Loch Lomond 12 YO	都光	スコットランド
スコッチシングルモルト／13～18年クラス Scotch Single Malt / between 13 & 18 Years	グレンモーレンジィ 18年 Glenmorangie 18 YO	MHD モエ ヘネシー ディアジオ	スコットランド
スコッチブレンデッド／ノンエイジ Scotch Blended Whisky / No Age Statement	ジョン・ウォーカー&サンズ キングジョージ5世 John Walker & Sons King George V	MHD モエ ヘネシー ディアジオ	スコットランド
スコッチブレンデッド／13～18年クラス Scotch Blended Whisky / between 13 & 18 Years	ジョニーウォーカー 18年 Johnnie Walker 18 YO	キリンビール	スコットランド
ジャパニーズシングルモルト／ノンエイジ Japanese Single Malt / No Age Statement	富士御殿場 ディスティラーズセレクト シングルモルト 2018 Fuji-Gotemba Distiller's Select Single Malt 2018	キリンビール	日本
アイリッシュシングルモルト／16年以上 Irish Single Malt / 16 Years & Over	ブッシュミルズ 21年 Bushmills 21 YO	アサヒビール	アイルランド
アメリカンライウイスキー／ノンエイジ American Rye Whiskey / No Age Statement	リッテンハウス ライ ボトルドインボンド Rittenhouse Rye Bottled In Bond	バカルディジャパン	アメリカ
ワールドブレンデッド／ノンエイジ World Blended Whisky / No Age Statement	イチローズモルト & グレーン ワールドブレンデッドウイスキー Ichiro's Malt & Grain World Blended Whisky	ベンチャーウイスキー 秩父蒸溜所	日本
ワールドブレンデッド／12年以下 World Blended Whisky / 12 Years & Under	山桜 6年 ピノ・ノワールワイン樽フィニッシュ Yamazakura 6 YO Pinot Noir Wine Cask Finish	笹の川酒造	日本
コニャック／VSOP Cognac / VSOP	ピエール リュカ VSOP エクスペリエンス Pierre Lecat VSOP Experience	リカーズハセガワ本店	フランス
コニャック／XO Cognac / XO	ヘネシー X.O Hennessy X.O	MHD モエ ヘネシー ディアジオ	フランス
アルマニャック／30年以上 Armagnac / 30 Years & Over	ラフォンタン 1979 Lafontan 1979	ロイヤルリカー	フランス
ダークラム／スタンダード Dark Rum / Standard	ディプロマティコ レセルバ・エクスクルーシバ Diplomatico Reserva Exclusiva	ウィスク・イー	ベネズエラ
ダークラム／アグリコール 3-8年クラス Dark Rum / Agricole, between 3 & 8 Years	ラオディ ブラウン Laodi Brown	ラオディ (Lao Agro Organic Industries Limited)	ラオス
ダークラム／ソレラシステム Dark Rum / Solera	ロン サカパ 23 Ron Zacapa 23	MHD モエ ヘネシー ディアジオ	グアテマラ
オセアニアンジン Oceanian Gin	アデレードヒル 78° ドライ ジン Adelaide Hills 78° Dry Gin	千雅	オーストラリア
アフリカンジン African Gin	KWV クラックスランド ドライジン KWV Cruxland Dry Gin	国分グループ本社	南アフリカ
テキーラ／100%アガベ レポサド Tequila / Reposado 100% Agave	パトロン レポサド Patron Reposado	バカルディジャパン	メキシコ
その他のスピリッツ Other Spirits	辰巳蒸留所 グリーンアブサン Tatsumi Distillery Green Absinthe	辰巳蒸留所	日本



ロッホローモンド蒸留所の特殊なポットスチル。



ベンチャーウイスキーの秩父蒸溜所。

WHISKY & SPIRITS の現在(いま)!

文＝能勢 剛

実行委員、審査員、出品者‥‥TWSCに集うお酒のプロたちが、世界で、日本で起きている「激変」について語ったweb連載「WHISKY & SPIRITSの現在(いま)!」。TWSC開催前の2019年2月から10回に渡り、オフィシャルホームページで掲載された。今回はそのインタビューの中から5本を再編集し、再録するとともに、審査を終えてのコメントを寄せてもらった。

サントリースピリッツ株式会社
ウイスキー事業部長 兼 ブレンダー副室長

鳥井憲護 氏

Torii Kengo

TWSC 出品者



ウイスキーづくりは息の長い仕事 どんなコンペの結果も通過点です

■「日本のウイスキー原料はコメですか？」

――サントリーは海外のコンペティションで、これまでに60を軽く超える賞を受賞している。そのほとんどは、「響」「山崎」「白州」で獲得したものだ。

海外のコンペに参加するようになったのは2002年からです。最初は、業界関係者が審査する「インターナショナル・スピリッツ・チャレンジ（ISC）」に出品して、2003年に「山崎12年」で金賞をいただきました。次いで、ウイスキー専門誌が主催し、ウイスキー愛好家の関心が高い「ワールド・ウイスキー・アワード（WWA）」にも出品。最初は、私たちのウイスキーを知っていただきたい、という思いだけで出していました。

当時は、まだ日本のウイスキーが知られていなくて、海外のウイスキーイベントに行くと、「日本のウイスキーの原料はコメですか？」なんて真顔で訊かれたりもしました。「日本でもウイスキーをつくれるの？」「日本に麦あるの？」くらいの感じでしたね。それが賞を獲り、徐々に知名度が上がってくると、もの珍しさも手伝って、日本にもウイスキーがあって、意外といいウイスキーらしいよ、という話が広がっていくようになる。そこで、初めて海外の消費者に知られるようになりました。 いまは、バーや飲食店などで普通に取り扱ってもらってます。興味が高じて、ビックリするようなプレミアム価格で売られているようなこともありますが。

――知名度が上がってきたこともあり、すでに海外にも輸出しているが、市場での存在感という点では、まだこれからだという。

現在では、やはりヨーロッパ、アメリカでの販売がメインです。ヨーロッパでは、東欧での販売量が多く、あとはイギリス、フランス、ドイツといった国々で強いです。でも、やはり先進国が中心。インドや中国といった新興国は、これからですね。とはいえ、先進国であっても、知名度はまだまだ。熱心なウイスキー愛好家なら、ある程度は日本のウイスキーを知っていて、中には非常に高く評価してくださる方もいらっしゃいます。でも、ウイスキー人口からすれば、ごく一部です。

例えば、アメリカでウイスキーを飲む一般の人のうち、日本のウイスキーを知っているのは、感覚的に10%とか20%くらいじゃないでしょうか。できれば、これを50%以上にまで持っていきたいなと思っています。現在は供給量に余裕がなく、海外でも製品のやり繰りには苦労していますが、単に棚に並べてくれる店を増やすのではな

く、日本のウイスキーを知っていて、友達に紹介してくれるバーや、お客さまに推奨してくれる専門店といった、インフルエンサーとして情報を拡散してくれる店から増やしていこうとしています。

■「限定品」は、基本コンペには出しません

――毎年、海外コンペへの出品を続けているサントリーだが、出品する酒は、どのように決めているのだろうか。

コンペに出品する酒を社内で選ぶ基準は、手に入りやすさですね。限定品などを出品して実力を試したい、と思うこともありますが、受賞した酒が買えないとなると、お客さまのストレスになりますから、基本的には普通に買えるものだけに限っています。それでも、受賞すると品薄になって、簡単には買えないこともありますが。

私たちは、いま、100万丁以上の樽を熟成させていて、全部テイスティングをしています。もし、すごく出来のいい樽が見つかったとしても、それだけを限定品としてボトリングし、「奇跡の一発」に、ということにはあまりならないんです。そういった樽は、むしろ新製品を開発する材料として考えていきます。

――海外コンペと日本のコンペ。出品者にとっては、それぞれに意味がある。特に今回のTWSCは、審査員が日本人である点が最も大きな特徴だ。

日本人の味覚は本当に繊細で、独特の味覚があると思っています。特に、今回は数多くの日本人審査員が参加してくださいますので、非常に意味があることだと考えています。日本人が、世界中のウイスキーとスピリッツを、日本人的な感覚で評価するのは、初めてのことですので、海外のコンペと、どう違いが出るのか、あるいは同じ結論になるのか、そこに興味があります。海外コンペの審査員と日本の審査員、評価の軸が違っているかもしれませんし、あるいは、世界のどこであっても、誰が飲んでも、美味しいものは美味しい、という結論が出るのかもしれません。

例えば、スコットランドの消費者とアメリカの消費者とでは、けっこう違うなあと感じることもあります。スコッチウイスキーはスモーキーさが特徴ですが、そのスモーキーさに対する繊細な感覚も、地域によって違ってきます。

■ 大事なのは、「今日の酒」よりも「明日の酒」

――日本初のコンペに参加するからには、もちろん、日本人審査員の高い評価は得たい。しかし、TWSCに最も期待するのは、これからのウイスキーづくりに生かせる情報だと、鳥井氏はいう。



世界中のウイスキー愛好家から注目を
浴びるサントリーのウイスキー製品。

嗜好品ですので、絶対の評価はないと思っています。ですから、高い点数を取れるに越したことはないのですが、それよりも審査員の皆さんが、どう感じ、何を評価したのか、その中身を知りたいですね。それが、今後のモノ作りにとって、いちばん役に立つと思っています。

これまで、海外コンペで受賞した時もそうでしたけれど、受賞すれば、もちろんそれは嬉しいことではあります。しかし、今日のウイスキーよりは、明日のウイスキーが美味しくなっている。３年後、５年後、10年後はもっと美味しくなっている。 そうやって、長い時間軸でモノ作りをしていくのが私たちの仕事ですから、コンペでの受賞は到達点ではなく、あくまで、ひとつの通過点だと考えています。

【ＴＷＳＣの審査を終えて】

東京ウイスキー＆スピリッツコンペティションは、日本で初めて開催されるウイスキーとスピリッツの品評会。サントリーのウイスキーが繊細な味覚を持つ日本人審査員の方々の評価を受けるのも初めてであり、期待と同時に、プレッシャーも感じながら発表を待ちました。

結果、最高金賞を受賞した「山崎12年」と「響21年」をはじめ、多くの製品を選んでいただき、大変光栄に感じています。また、他社様の製品も非常に興味があり、ぜひこの機会に試してみたいと思います。そして改めて自分たちのウイスキーを見つめなおす機会になればと思います。

今後とも日本をはじめ世界のお客様のご期待に添うべく、今回頂戴した評価を真摯に受け止め、より長期的な視点で、これまで以上に丁寧なモノづくりと、さらなる品質の向上に努めてまいります。



TWSC 出品者

株式会社ベンチャーウイスキー
代表取締役社長

肥土伊知郎氏

Akuto Ichiro

コンペティションに参加するのは美味しさは何かを知りたいから!

■ 知らないうちに獲れた最初の賞

――これまで海外のコンペで数々の賞を獲得してきたベンチャーウイスキー。しかし、最初の受賞は、自ら応募したものではないという。

2006年の「ウイスキーマガジン」で、[プレミアム・ジャパニーズ・ウイスキー]特集があって、知らないうちに取り上げられていました。たぶん、日本のウイスキーは数が少なかったので、うちも入れてもらえたのだと思います。その中で、「イチローズモルト」が最高得点を取ったんです。それが、賞を獲得した最初ですね。

2007年には、「ワールド・ウイスキー・アワード(WWA)」に出品して、[12年以下のジャパニーズ・シングルモルト]部門で賞をいただきました。それ以降、WWAについては、ほぼ毎年、出品しています。「ウイスキーマガジン」主催ということで身近ですし、エントリーしやすいということもあります。ほかのコンペで賞をいただいたこともありますけど、こちらから参加申し込みしたものはほとんどないですね。

――2008年から秩父蒸溜所が稼働し、3年後の2011年からは、シングルモルトの「秩父」シリーズがラインナップに加わる。

これまでの賞で最も大きかったのは、2017年に、同じくWWAの[シングルカスク・シングルモルト]部門で、「イチローズモルト秩父ウイスキー祭」が獲った世界最高賞、2018年に[ブレンデッドウイスキー・リミテッドリリース]部門で、「イチローズ モルト&グレーン ジャパニーズブレンデッドウイスキー リミテッドエディション」が、やはり世界最高賞を獲りました。2年続けて世界最高賞をいただけたのは、非常に大きかったですね。

■ 秩父で造り、半分は海外へ

――生産量が多くないとはいえ、海外のメジャーなコンペで賞を獲ることは、海外へと販路が広がっていくことでもある。

もともと、海外での販売には力を入れています。ヨーロッパ、台湾、アメリカに、かなり熱心に売ってくださる販売ルートがありますので、それらを中心に出荷しています。シングルモルトですと、だいたい半分は海外で販売しています。

しかし、最近のウイスキーブームで、全体の需要と供給のバランスが崩れてしまう恐れがあります。現在、建設中の第二蒸溜所が稼働を始めれば、先々は、国内、海外ともに供給量を増やして行けると思います。

――ところで、コンペに出品するウイスキーは、どのように造られているのだろうか。日本酒の世界では、鑑評会向けに特別な仕様で醸造するのが、半ば常識になっているが、製品化までのサイクルが長いウイスキーでは、かなり事情が違うという。

基本は、すでにある製品を出品しています。ただ、シングルカスクの場合であれば、色々な樽がありますから、これなら出品しても恥ずかしくないだろうという樽を選んで製品化することもあります。もちろん、コンペのためだけというわけではなくて、この樽を製品化したいという思いが、先にあってのことですけど。

2017年の最高賞を獲ったシングルカスクは、製品化したときに、賞が獲れるかどうかは別にして、かなり美味しいものができたな、という手応えがありました。正直なところ、コンペに参加し始めた最初の頃は、どんな酒が賞を獲れるのか、よく分かりませんでしたね。最近では、賞を獲るためには、専門家のブラインドテイスティ

ングで、評価ポイントに高い点数が付くだけでなく、ウイスキーとしての美味しさが備わっていることが必要なんだと思っています。

■ 秩父は熟成が早く進む土地なんです

――秩父蒸溜所が目指すのは、スコッチの原点に忠実なウイスキー造りだ。そのため、製麦、糖化、発酵、蒸留、樽熟成、ブレンディング、ボトリングという、ウイスキー造りの全工程を自前で持ち、昔ながらの手作業を多く取り入れている。ミズナラで作られた珍しい発酵槽は、この蒸溜所の象徴でもある。ただし、工程はスコッチの製法に忠実であっても、味や香りの方向性は独自のものを目指しているという。

ウイスキー造りをフローチャートに描いたら、どこの蒸留所も同じ造り方をしているようにしか見えません。しかし実際には、造っている土地が違うし、気候が違うし、なによりも人が違います。同じように造ってはいても、そこには自ずと個性が出てきます。スコッチと同じ造り方をしていても、異なる個性になるのは当たり前なんです。特にウイスキーの場合は、熟成環境が非常に大きな影響を与えるんですね。秩父はスコットランドに比べて、寒暖差が大きい土地です。冬は毎朝、零下になる厳しさですし、蒸溜所の周辺ではマイナス10℃くらいになることもあります。夏にはかなり気温が上がります。近くに、最高気温で有名な熊谷市があるくらいですから。

寒暖差が大きいと、熟成が早く進みます。３年とか５年とか、スコッチの基準でいえばかなり若い原酒であっても、相当に深みのある味わいが出てきます。これまでの経験からすると、短期熟成に向いた樽をきちんと選べば、ひとケタ年数の熟成でも、かなりいいものが出来てくると思っています。

逆に、長期熟成の場合であれば、現在のところ、10年熟成で、まだまだこれからという原酒がありますから、15年くらいから変わってくるのかな。やってみなければ分かりませんけど。第二蒸溜所が稼働すれば、生産量に余力が出ますので、熟成期間のバリエーションも増やしていけます。20年ものとか、30年ものとか、やってみたいですね。

ポットスチルはスコットランドのフォーサイス社製。



■ 日本人の“美味しさの基準”を知りたい

――海外のコンペティション経験が豊かな肥土社長だが、審査員が日本人であるTWSCでは、評価されるポイントが、海外と同じなのか、違うのか。違うとしたら、どんな酒を日本人は美味しいと思うのか、非常に興味があるという。

TWSCに参加する以上は、いい評価をいただきたいなとは思っています。今回はウイスキーだけではなく、さまざまなスピリッツのカテゴリーがあります。それぞれのスピリッツが、単純な好みではなく、どんなポイントで評価されるのか、カテゴリーごとの違いに興味があります。

やはりウイスキー部門では、ウイスキーとしてのよさ、ウイスキーとはこうあるべき、といった評価対象となるポイントが見えてくることを期待しています。そして、そのポイントから私たちのウイスキーがどんな評価を受けるのか、楽しみです。TWSCで、日本人が、日本の風土で造り上げられたウイスキーやスピリッツを、日本人の審査員がどう判断するのか。ものに対する考え方、味に対する考え方には、日本人ならではのものがあると思いますので、そこがどう表れてくるのかが、TWSCの意義だと思います。

まあ、私たちはまな板の上のコイですから、どう料理されるのか、待ってるだけなんですけどね（笑）。

【ＴＷＳＣの審査を終えて】

TWSCが終了し、それぞれ受賞酒が出揃いました。自分たちのウイスキーが評価をされ、賞を獲得できたことはシンプルに嬉しく思います。そして興味があるのは、飲酒経験の違いで、どんな評価がでるのかということです。カテゴリーごとに高品質の概念が異なる場合もあり、単に好みの味だから高評価になったのではないはずです。

それぞれのお酒の文化は原料、製法、歴史やテロワールなど、様々な要素が絡み合い発展してきました。それを知っている人は、お酒の楽しみの幅が広がるだけでなく、味の評価も変わります。

例えば、ウイスキーであれば、最初はスモーキーなタイプが苦手でも、やがて、その癖になる味わいに美味しさを見出す人も少なくありません。どんなジャッジがどんなものを選ぶのか？　今後の展開を楽しみにしています。

株式会社信濃屋食品　スピリッツバイヤー

北梶　剛 氏

Kitakaji Tsuyoshi

TWSC 審査員

知りたいのは独特な「日本人の嗜好」他のスピリッツにも目を向ける機会に



――北梶氏の仕事であるスコットランドでの原酒探しは、なかなかハードだ。

スコットランドには、年に２、３回出張します。蒸留所にもよりますが、少ないと10種類くらい、多いと50～60種類、平均で20～30種類の樽をサンプリングしていきます。そうすると、１日に回れる蒸留所は３ヵ所が限度ですね。不便な場所にある蒸留所で１日１ヵ所ということもありますし、移動でつぶれる日もあります。

だいたい１回の出張で２週間かけて、数十ヵ所の蒸留所やボトラーズを訪問します。テイスティングをして、行けるとなれば、その場で価格を詰めて、ラベルの打ち合わせまでしてくることもあります。

――バイヤーとして、テイスティングは日常業務。だが、テイスティングには独自のスタイルを守っている。１本の酒を、飲む場面を変えながら、何回も確認していくのだという。

基本的にテイスティングは、オフィスで午前中に行います。午前中のほうが鼻が利きますし、五感が研ぎ澄まされている。一日のうちで最も官能評価に向いた時間帯だと思います。テイスティングコメントも、午前中に書いています。

それから夜、サンプリングした酒を親しいバーに持ち込んで、バーのお客さまの立場で試飲してみます。私たちのプライベートボトリングは、バーで飲まれることが多いので、お客さまがバーで飲んだときにどんな味わいなのか、実際に確認してみます。そうすると、朝に行ったテイスティングとは、ずいぶん印象が変わることがあるんですね。朝と夜の結果を見比べながら、慎重に判断するようにしています。

――TWSCで最も注目するのは、やはり審査員が日本人であること。プライベートボトリングには、日本人の嗜好を知り尽くしていることが求められるからだ。

今回のTWSCでは、審査員がすべて日本人ですので、日本人の舌に合ったものが選ばれると思います。日本人が飲みたい酒が評価されることで、消費者にとって、かなり参考になる結果が出るんじゃないでしょうか。海外のコンペで高い評価を得たものが、必ずしも日本人の好みに合うとは限りませんから。私の個人的なイメージですが、日本人の味覚は繊細、緻密です。最近、アジアでウイスキーが流行ってきて、力強くてリッチなシェリーカスクが人気になったりもしていますけど、日本人はむしろ、香り、味わい、フィニッシュのすべてでイメージが変わったり、新たな展開があるような、繊細で緻密なウイスキーが好まれるように感じます。

――さらに、ウイスキーに偏りがちな日本のスピリッツ市場が、TWSCを機に、他のスピリッツに目が向くことも期待したいという。

今回のTWSCが、ウイスキーだけではなく、ブランデーやラム、テキーラ、ジンなど幅広いスピリッツを対象としたことに、大きな意味があると思います。やはり世の中にはウイスキー人口のほうが多くて、なかなか他のスピリッツは飲んでもらえない。審査員にとっても、結果を見た一般消費者にとっても、ウイスキー以外のスピリッツを再認識するいいきっかけになるんじゃないでしょうか。

【ＴＷＳＣの審査を終えて】

審査では普段のバイヤーとしての視点とは少し異なり、消費者が商品を選ぶ中で、その商品がTWSCにおいて「メダル獲得に相応しいか否か」の基準を意識して審査しました。受賞結果が１テーブルの採点結果で決まってしまうので、同じテーブルになったメンバーとも「責任重大だね」と話しあっていました。

今後は、採点内容に大幅なブレをなくすため、審査員６人で意見交換したうえで点数を決めたほうが、より納得のいく内容になるのではないかと思います。

㈱SCREW 代表取締役社長／日本ラム協会 会長
吉祥寺SCREW DRIVER・渋谷ARIAPITA RUM&PUNCHオーナーバーテンダー

海老沢忍氏

Ebisawa Shinobu

TWSC 実行委員

カリブ海のほかにもクラフト蒸留所が続々 間口の広さでラムは“最強の蒸留酒”

――表舞台で主役を張ってきたウイスキーとは対照的に、日陰の脇役として発達してきたのがラムだと、海老沢氏はいう。

第二次大戦中に、イギリスからアメリカ向けのウイスキーの輸出がストップしてしまう。そこで、アメリカに近いカリブの島々から、大量にラムが入っていく。ラムはウイスキーの代用品として売れたんですね。もともとラムは、奴隷に与えるアルコールでした。サトウキビのプランテーションで働く奴隷の気付け薬です。カリブの島々で生産する砂糖がヨーロッパに輸出され、莫大な富を生み出した三角貿易の時代に、サトウキビの副産物から生まれたラムが、盛んに造られるようになりました。

――しかし、現代のラムは、すっかり脇役のイメージを払拭。女性たちの支持を集めたこともあり、表舞台に躍り出た。

いま日本で手に入るラムは400種類くらいあります。ここ２～３年は、ボトラーズのラムが増えてきました。それもウイスキーのボトラーズが手掛ける例が非常に多い。１樽だけ200本くらいをボトル詰めにして、売切れたらそれで終わり。そんな製品が次々に出てきます。

――そして今、ウイスキーと同じように、クラフト蒸留所が、世界の各地に出現してきているという。

ラムは、カリブ海が聖地だったんですが、インド洋に新しい蒸留所がどんどんできています。例えば、アフリカ大陸の東側にあるレユニオン島。バニラの産地として有名なフランス領の島ですが、すぐ近くのモーリシャスとともに、新しい蒸留所が増えています。



同じ流れは、東南アジアにもあります。インド、タイ、フィリピンといった国々は、もともとサトウキビの副産物としてラム造りをしてきました。最近は、副産物ではないプレミアム志向の蒸留所が出てきています。

――ラムは、バリエーションが多いだけに、人の好みや飲み方も幅広い。どの人にとっても必ず美味しいラムがあるという。

ラムのバリエーションの多さは、ほかの蒸留酒にはない特徴です。ホワイトラムは、ウォッカやジンとオーバーラップしますし、ダークラムは、ウイスキーやブランデーと同じようなカテゴリーで見られます。

最近では、熟成ラムに注目が集まっていて、シングルモルトウイスキーのファンが、ダークラムを楽しむのが、ごく当たり前になってきています。

――TWSCは、より広くラムを知ってもらい、より深くラムを理解してもらうチャンスだと、海老沢氏は考えている。

個人的には、ラムのサトウキビらしい「まるさ」が好きで、やさしい甘み、豊かな香り、そしてバランスのよい力強さがあるのが、いいラムだと思っています。評価では、そこがどう表れてくるのか楽しみです。マニア受けするリミテッドなラムだけではなく、スタンダードなラムもきちんと評価される品評会にしたいですね。

【TWSCの審査を終えて】

TWSCに参加したことで、ラム以外のお酒がこんなにも個性豊かで、面白いことになっているのだと知りました。実際、審査会後に、強烈にスモーキーなウイスキーや、香り豊かでフルーティーなジンなど、ラムの世界だけでは表現しきれないようなボトルを何本も店に取り揃えました。また、スピリッツ全体におけるラムのポジションや、他のお酒との共通点を感じるきっかけになったことは、非常に貴重な経験でした。

今回、入賞したラムは、味わいが明確なボトルが多かったように思います。多くの審査員の方々がホワイトラムに大変理解があり、全体的に評価が高くなったことも今後のホワイトラムの可能性を見出す良いきっかけになるのではないかと楽しみです。

今年に関しては、アグリコールラムの出品が少なかったのですが、今後、出品された際には、どう評価されるのかと、今から大変期待しております。

MHD モエ ヘネシー ディアジオ株式会社

平井茂樹氏
Hirai Shigeki

×

MHD モエ ヘネシー ディアジオ株式会社
ウイスキーエキスパート

ロバート・ストックウェル氏
Robert Stockwell

TWSC 審査員



「膨大な酒の記憶」に位置付ける。私の評価方法は、それに尽きます

――現在、平井氏は営業マネージャーとして、東京を拠点に飲食店の開拓やケアを担当。ロバート氏はシングルモルトのアンバサダーとして、一般消費者やプロにセミナーを行っている。

ロバート：私は、ずっと酒にかかわる仕事をしてきました。ビールの醸造所に勤務したことがありますし、スペイサイド、ハイランド、アイランズ、アイラで１カ所ずつ、合計４カ所の蒸留所で働きました。ブレンディングラボで、ブレンダーをしたこともあります。
平井：私は、バーを中心に回ることが多いんですが、この仕事を始めてもう27年になります。シングルモルトは、日本では90年代半ばからブームが始まったんですが、それを創り上げてきた一人だと自負しています。

――二人とも、テイスティングの機会は多い。しかし、そのスタイルは対照的。「右脳派と左脳派なんです」と笑う。

平井：まずファーストインプレッションですね。香りを確かめ、口に含んだ瞬間の直感を大事にします。その後で、なぜそう感じたのか、なにがこの旨さを作っているのか、香りや味を細かく分析しながら、評価を肉付けしていきます。これまで飲んできた膨大な酒の記憶がありますから、過去の記憶と比較しながら、その酒のポジショニングを探っていくんです。
ロバート：私はロジカルに進めるタイプ。まず、グラスを振るビーディングでアルコール度数の見当をつけます。それから色を見ますね。どんな樽で、どのくらい熟成したのか、と。さらに香りを嗅いでいきます。どんな要素があるのか、リンゴの香りなら、青リンゴなのか、デリシャスなのか。柑橘類の香りだったら、グレープフルーツなのか、オレンジなのか、といった感じです。

――今回のTWSCでは、大規模なブラインドテイスティングならではの、見えてくるものが期待できると、平井氏はいう。

平井：世間の評価とは違う、本当の実力が見えてくると面白いですね。いま、オールドボトルが人気になって、当時は２万円だったものが、プレミアムが付いて６万円になっていたりします。でも、中身は２万円の酒です。あるいは、ウイスキーブームが盛り上がる中で、人気があって高い価格で売られているけど、中身が見合っていない酒があるかもしれません。先入観が入る余地のないTWSCのブラインドテイスティングは、行き過ぎた評価が是正されるいい機会じゃないでしょうか。

――いっぽう大規模な「ウイスキー＆スピリッツ品評会」が、日本で開かれることに意味があると、ロバート氏はいう。

ロバート：ウイスキーの世界で、完全に日本がメジャーになってきたということだと思います。ジャパニーズウイスキーを造るだけではなく、ウイスキーマーケットとして、日本は世界のトップレベルになった。TWSCの開催は、それを世界に伝える大きなメッセージになるんじゃないでしょうか。

【ＴＷＳＣの審査を終えて】

平井：TWSCという新しい試みに参加し、とても勉強になりました。MHDの商品もよい評価をいただき、嬉しかったです。結果を見るとプレミアムなお酒が高い評価を受けていて、日本人の味覚の確かさを感じます。個人的な反省点としては、点数を厳しく付けてしまったかもしれないこと。またオリエンテーションでの評価基準と個人が思う基準にバラつきがあることや、項目ごとに点数付けしたけれども、総合点が思ったようにならない難しさも感じました。とはいえ、とても楽しい経験でした。今後もコンペが続いていき、いいものが正当に評価され、審査員も出品者も運営も、みんながwin-winになっていけたらと思います。
ロバート：日本で初めてのウイスキーとスピリッツのコンペに、審査員として参加できて光栄でした。事前の準備から当日の段取りまで完璧でスムーズに進みました。初年度から世界基準のコンペを実現できたと思います。



飲酒は20歳になってから。飲酒運転は法律で禁止されています。
妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を及ぼす可能性があります。

リードオフジャパン株式会社
http://www.leadoff-japan.co.jp

TWSC 2019 Judges
審 査 員 紹 介

北は北海道から南は沖縄まで、日本全国のバーテンダーや業界関係者など
お酒のプロフェッショナル178名が、2日間3セッションに分かれて審査を行った。

（各セッションごとにアイウエオ順で掲載。複数セッションに参加した場合、早いセッションで紹介しています）

3.11 Session.1



Aoki Katsunori
青木 勝則
ウイスキーレクチャラー※1／
ブログ『ウイスキーの刻』 執筆者／
シェリー・アンバサダー／
テキーラ・マエストロ



Akehi Yoshiko
明比 淑子
（株）アケヒ 代表取締役／
シェリー委員会　日本代表



Amano Yuuki
天野 結城
ウイスキーレクチャラー



Ishii Hidenori
石井 英則
元BAR樽の水 バーテンダー



Ishihara Yuzo
石原 裕三
サントリー酒類（株）勤務／
マスター・オブ・ウイスキー※2／
ソムリエ／唎酒師



Ito Akira
伊藤 啓
（株）リカーマウンテン
チーフバイヤー／
ウイスキーエキスパート※3



Ebisawa Shinobu
海老沢 忍
（株）SCREW 代表取締役社長／
日本ラム協会 会長／
TWSC実行委員／
SCREW DRIVER オーナーバーテンダー



Okawa Takamasa
大川 貴正
国立Bar HEATH
オーナーバーテンダー



Otsuka Jin
大塚 ジン
麻布十番エルフジヤマ　バーテンダー／
日本テキーラ協会認定
テキーラ・マエストロ／
日本メスカル協会認定メスカレロ



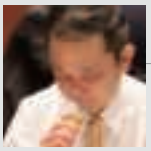
Oohira Iwawo
大平 巌
BAR i.o オーナーバーテンダー／
ウイスキーエキスパート／
テキーラ・マエストロ／
ラム・コンシェルジュ



Katano Yasuo
片野 靖雄
カサブランカ片野酒類販売
オーナーバーテンダー



Kaneko Taro
金子 太郎
ウイスキーレクチャラー



Kamata Naoki
鎌田 直樹
BAR Slainte mhor
オーナーバーテンダー／
ウイスキー文化研究所横浜支部
代表世話人



Kitakaji Tsuyoshi
北梶 剛
（株）信濃屋食品
ウィスキー&スピリッツバイヤー、
ブランドマネージャー、
プライベートボトリング開発責任者



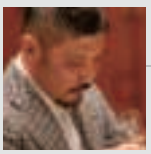
Kitamura Satoshi
北村 聡
BAR 洋酒博物館
オーナーバーテンダー／
PBOエグゼクティブスペシャリスト



Kubota Isamu
久保田 勇
萌木の村バーバーチ バーテンダー／
ウイスキーレクチャラー／
ラム・コンシェルジュ



Kurashima Hideaki
倉島 英昭
WHISKY SHOP LIQUORS
HASEGAWA本店店長／
マスター・オブ・ウイスキー



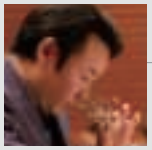
Kuramochi Shigeyuki
倉持 重幸
Whisky Bar Shanty Shack
オーナーバーテンダー／
ウイスキーレクチャラー



Gou Hiroyuki
呉 寛之
Bourbon Bar ANKI
チーフバーテンダー／
日本バーボンウイスキー普及協会
愛知支部 支部長



Kobayashi Tatsuya
小林 立也
日本スコットランド交流協会員／
ウイスキーレクチャラー



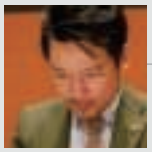
Kobayashi Hiroshi
小林 弘
Bar Little Link
オーナーバーテンダー／
ウイスキーレクチャラー



Kobayashi Masahide
小林 正英
Bar CAOL ILA
オーナーバーテンダー



Komoriya Hiroshi
小森谷 弘
（一社）日本ホテルバーメンズ協会 会長／
ホテルニューオータニ エグゼクティブチーフバーテンダー／
東京都優秀技能者「東京マイスター」／
シェリーマンサニーリャ現地呼称統制委員会「シェリーの騎士」



Shizuya Kazunori
静谷 和典
BAR LIVET オーナーバーテンダー／
BAR 新宿ウキスキーサロン
オーナーバーテンダー／
マスター・オブ・ウイスキー



Shibuya Hiroshi
渋谷 寛
弁護士・司法書士／
NPO 日本スコットランド協会 監事／
TWSC実行委員／
ウイスキー文化研究所 代表世話人



Shimada Koichi
島田 孝一
BAR LADDIE オーナーバーテンダー／
Bruichladdich蒸留所
元warehouse man ／
ウイスキーレクチャラー



Shimatani Yukio
嶋谷 幸雄
サントリー白州 初代工場長、
山崎蒸溜所 元工場長／
サングレイン株式会社 元社長／
洋酒技術研究会 前会長



Shoji Hiroshi
庄司 浩
HBA 専務理事 兼 事務局長

※1　ウイスキーレクチャラーは（株）ウイスキー文化研究所がWP資格保有者の中から認定するウイスキー講師です。
※2　ウイスキー文化研究所が認定するコニサー資格の最上位資格。現在までに9名しか認定されていない。
※3　ウイスキーエキスパート（WE）は（株）ウイスキー文化研究所が主宰するウイスキーコニサー資格の第一段階にあたる資格、
ウイスキープロフェッショナル（WP）は、エキスパート資格保有者を対象にした、より深い知識を求められる第二段階の資格です。



Shirai Shinichi
白井 慎一
MILWAUKEE'S CLUB
オーナーバーテンダー／
日本バーボンウイスキー普及協会
埼玉支部長



Shinbashi Kiyoshi
新橋 清
Sanlucar Bar
オーナーバーテンダー／
PBO 理事 財務局長



Suzuki Katsuo
鈴木 勝雄
MALT HOUSE ISLAY
オーナーバーテンダー／
ウイスキーエキスパート



Suzuki Shoji
鈴木 勝二
Scotch Bar John O'Groats
オーナーバーテンダー／
マスター・オブ・ウイスキー



Suzuki Tadashi
鈴木 正
Bar LINN HOUSE
オーナーバーテンダー



Seki Satoko
関 聡子
盛岡スコッチハウス
オーナーバーテンダー／
NBA 東北統括本部盛岡支部相談役



Senoo Noriaki
妹尾 典明
ウイスキーレクチャラー／
日本ソムリエ協会認定 ソムリエ



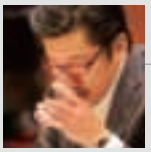
Soga Kazuo
曽我 和夫
BAR 婆娑羅 オーナーバーテンダー



Takada Toshihiko
高田 俊彦
BAR THINK 1988 沖縄・宮古島店
オーナーバーテンダー／
NBA 沖縄・宮古島地区長



Takano Ryo
高野 亮
BAR GemStone ／
PBO 運営委員 事務局次長



Takahashi Katsuyuki
高橋 克幸
もるとや オーナーバーテンダー



Takemura Toshihide
竹村 寿英
漁師／ウイスキーレクチャラー



Taniguchi Kenji
谷口 健二
本坊酒造（株） 専務取締役



Tabuchi Yoshihiro
田淵 義浩
Caamm Bar オーナーバーテンダー／
ウイスキープロフェッショナル※3





Tamura Makoto
田村 誠
Bar Brilliant オーナーバーテンダー／
PBO 横浜支部 支部長



Chen Xue Sheng
陳 学升
Cocktail Lounge GREAT WALL
オーナーバーテンダー



Tsuji Soyu
辻 宗友
ウイスキーレクチャラー／
テキーラ・マエストロ／
テキーラ規制委員会（CRT）
T-Award ／中国酒類鑑定士



Tominaga Kazuya
富永 一哉
食品関係研究所勤務
研究開発者・技術コンサルタント



Tomoda Akiko
友田 晶子
（一社）日本のSAKEとWINEを
愛する女性の会 代表理事／
フェミナリーズ・世界ワインコンクール
名誉会長／ TWSC実行委員



Nakai Yasuyuki
中居 靖行
ミニチュアボトルコレクター／
ウイスキーコニサー資格認定制度・審査員／
TWSC実行委員／
ウイスキー文化研究所 代表世話人



Nakazawa Takaaki
中澤 貴昭
ウイスキーレクチャラー



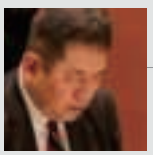
Nakatsuka Akira
中塚 明
ウイスキーレクチャラー



Nagano Makoto
永野 誠
Wandering Bartender ／
ウイスキーエキスパート／
テキーラ・マエストロ



Nishida Yoshitaka
西田 嘉孝
フリーライター・編集者
『Pen』『ウイスキーガロア』などで執
筆。ウイスキー関連書籍の編集・執
筆協力多数。



Hana Naoki
鼻 直樹
ウイスキーレクチャラー



Hayakawa Ken
早川 健
ウイスキー文化研究所 特別技術顧問／
富士御殿場蒸溜所
元ブレンド最高責任者 ／
TWSC実行委員

TWSC 2019 Judges



Hayashi Ikuma
林 生馬
日本テキーラ協会 会長／
日本メスカル協会 顧問／
ブリュッセル国際酒類コンクール審査員／
TWSC実行委員



Harada Kunihiro
原田 邦博
バー愛好家（自由業）／
ウイスキー文化研究所会員／
TWSC実行委員



Higuchi Kazuyuki
樋口 一幸
Bar Higuchi オーナーバーテンダー／
クラブバッカス実行委員会
実行委員長



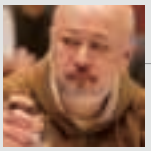
Hirata Sanae
平田 早苗
（株）ポットラックインターナショナル
代表取締役／
スイーツプランナー／
TWSC実行委員



Hosono Katsuro
細野 克郎
BARRELオーナーバーテンダー



Hori Masaaki
堀 正明
ウイスキーレクチャラー



Horigami Atsushi
堀上 敦
国産ウイスキー専門バー
shot bar ゾートロープ
オーナーバーテンダー



Honma Junya
本間 純矢
THE BOW BAR
オーナーバーマン



Maki Motochika
牧 基親
マスター・オブ・ウイスキー／
シニアソムリエ／テキーラ・マエストロ／
ラム・コンシェルジュ／
SAKE DIPLOMA



Matsuzawa Takeshi
松沢 健
BAR Pálinka
オーナーバーテンダー



Matsumoto Toru
松本 徹
BAR・BAGUS
オーナーバーテンダー／
PBO バイスチェアマン・理事



Miyauchi Makoto
宮内 誠
BAR GLORY 大倉山
オーナーバーテンダー／
PBO エクゼクティブスペシャリスト



Miyazaki Yuko
宮崎 優子
TENDERLYオーナーバーテンダー／
PBO 理事／
サントリーバーテンダースクール、
読売・NHK文化センター講師



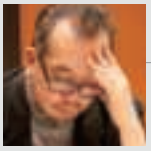
Morita Kiyoko
森田 規代子
BARピーコートを夫婦で経営／
女性初マスター・オブ・ウイスキー



Morita Makiko
森田 真希子
食品産業新聞社 酒類飲料日報部
洋酒・ワイン担当記者



Yamazaki Hideyuki
山﨑 秀幸
BAR YAMAZAKI
オーナーバーテンダー／
ウイスキーエキスパート



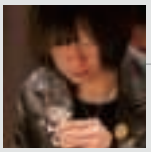
Yamashita Kazuo
山下 和男
BAR THREE MARTINI
オーナーバーテンダー



Yamazoe Naoki
山添 直樹
ジン専門バー C&D先斗町
オーナーバーテンダー



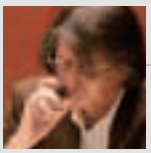
Yamamoto Kuriko
山本 久里子
ウイスキーラウンジ ワルツ／
ウイスキーレクチャラー／
竹鶴シニアアンバサダー



Yamamoto Yutaka
山本 豊
ウイスキーレクチャラー



Yuasa Fumitaka
湯朝 史崇
Whisky Bar Kirkwall
オーナーバーテンダー／
ウイスキーレクチャラー



Yoshimura Muneyuki
吉村 宗之
ウイスキーアドバイザー／
ウイスキーブレンダー／
リカーショップ M's Tasting Room
マネージャー



Wakizaka Takashi
脇坂 隆司
（株）美濃屋脇坂商店 代表取締役／
ウイスキーレクチャラー／
ソムリエ／清酒専門評価者





Akaishi Yoshinobu
赤石 好延
三陽物産（株）／
ウイスキーレクチャラー／
シニアソムリエ／
酒匠専属テイスター



Ito Rihoko
伊藤 里穂子
Largo バーテンダー／
ウイスキーレクチャラー



Iwainaka Yoichi
岩井中 陽一
高岡市民病院内科部長／
ウイスキープロフェッショナル



Ueda Noriko
上田 紀子
（一社）
日本のSAKEとWINEを愛する
女性の会



Uchida Shinya
内田 信也
BAR白馬舘
バーテンダー・白馬舘グループ代表／
NBA中日本本部幹事長



Okita Tamau
大北 賜
LITTLE BAR
オーナーバーテンダー／
ウイスキーレクチャラー



Ohki Toshifumi
大木 利史
BAR LIVET・
BAR 新宿ウヰスキーサロン・
ザ・キャピトルホテル東急バーテンダー／
ウイスキーレクチャラー



Oka Tomoyuki
岡 智行
Bar kitchenオーナーバーテンダー ／
ウイスキーエキスパート



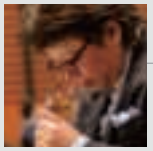
Oda Kengo
小田 健吾
TOKYO Whisky Library
バーテンダー／
ウイスキーレクチャラー



Kishi Hisashi
岸 久
（一財）カクテル文化振興会
理事長／
日本ジン協会 代表



Kitamura Kazuhide
北村 一英
ウイスキーレクチャラー



Kimijima Satoshi
君嶋 哲至
(株) 横浜君嶋屋代表取締役／
(一社) ソムリエ協会副会長



Kunai Hajime
久内 一
本坊酒造 (株)
取締役甲信事業部長 ／
ウイスキーエキスパート



Kusano Tatsuro
草野 辰朗
本坊酒造 (株)
津貫蒸溜所 主任



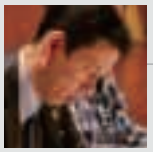
Kurata Takayo
倉田 貴代
BAR ST.ANDREWS
オーナーバーテンダー



Kuwahara Koji
桑原 光司
ウイスキーレクチャラー



Koinuma Yasuhiro
鯉沼 康泰
(有) 鯉沼商会 代表取締役／
フランスコニャック協会 (BNIC)
公認コニャックエデュケーター



Koro Mitsuhiro
興梠 光洋
ウイスキーレクチャラー／
グラン・マエストロ・デ・テキーラ



Kogure Hiroshi
木榑 博
NPO法人
チーズプロフェッショナル協会 顧問



Koshikawa Akiyuki
越川 明征
北海道自由ウヰスキー (株)
紅櫻蒸溜所 蒸溜所長／
ウイスキーエキスパート



Kobayashi Wataru
小林 渉
Bar Vision バーテンダー／
ウイスキーレクチャラー



Komasa Yoshitsugu
小正 芳嗣
小正醸造 (株) 代表取締役社長



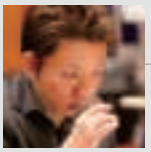
Koyamada Susumu
小山田 進
Largo オーナーバーテンダー／
ウイスキーレクチャラー



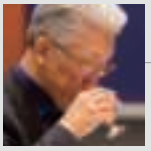
Sasaki Taichi
佐々木 太一
サントリースピリッツ (株) ／
マスター・オブ・ウイスキー／
ウイスキーアンバサダー



Sato Eiichiro
佐藤 栄市郎
バーブラジル
オーナーバーテンダー／
NBAベストバーテンダー



Sano Hidetada
佐野 秀忠
(有) タンクス代表取締役／
ウイスキーレクチャラー／ソムリエ／
ラム・コンシェルジュ／テキーラ・マエストロ／
チーズプロフェッショナル



Shinano Kiyomitsu
品野 清光
Bar AUGUSTA オーナー／
NBA 常務理事 関西統括本部長



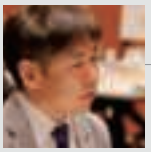
Shimono Tadaaki
下野 孔明
シングルモルト通販モルトヤマ店主／
(株) とやま健康生きがいセンター
代表取締役社長／
ウイスキーレクチャラー／ラム・コンシェルジュ



Suzuki Hiroaki
鈴木 宏明
BAR THINK
オーナーバーテンダー／
ウイスキー文化研究所浜松支部代表／
ウイスキーエキスパート



Robert Stockwell
ロバート ストックウェル
MHDモエヘネシーディアジオ (株)
シングルモルト・アンバサダー／
ウイスキーエキスパート



Tatsuzaki Katsuyuki
立崎 勝幸
堅展実業 (株) 厚岸蒸溜所 所長



Tato Chie
多東 千恵
ラムと喫茶　Tafia
オーナーバーテンダー／
日本ラム協会　理事



Tanaka Masahiro
田中 雅博
吉祥寺『Bar Woody』
オーナーバーテンダー



Tamura Shoichi
田村 荘一
BAR セレーネ 代表／
NBA 茨城支部相談役／
NBA 2015マイスターバーテンダー





Tsuji Hidekazu
辻 英和
ANNIE HALL BAR 店長／
ウイスキーレクチャラー／
ソムリエ／ラム・コンシェルジュ



Tezuka Tomoko
手塚 智子
(一社)
日本のSAKEとWINEを愛する
女性の会／ワインエキスパート／
SAKE DIPLOMA



Nakaoji Erika
中大路 えりか
(一社)
日本のSAKEとWINEを愛する
女性の会／
ワインエキスパート／唎酒師



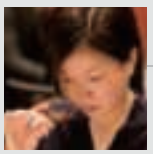
Nagatomo Shuichi
長友 修一
BAR OSCAR オーナーバーテンダー／
PBO 理事
バイアスチェアマン
国際局長兼組織局長



Nishioka Masahiko
西岡 政彦
醸造産業新聞社
日刊醸造産業速報／
酒販ニュース取締役編集委員



Nishikoori Kenji
錦織 健志
ウイスキーレクチャラー

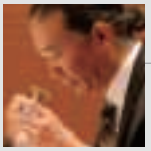


Numa Yumiko
沼 由美子
フリーライター・編集者 ／
ハンガリー パーリンカ
「ブッキ騎士団」 員

TWSC 2019 Judges



Michael Nomura
野村浩二 aka マイケル
Bar Sal's、三茶アパート オーナー



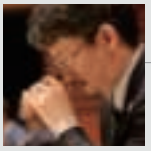
Hashiwaki Kazuhiko
橋脇 和彦
Early American
オーナーバーテンダー／
ウイスキー文化研究所
横浜支部前代表



Hayakawa Keiichi
早川 惠一
Bar Leigh オーナーバーテンダー／
(一社)日本バーテンダー協会 会長



Hayasaka Mito
早坂 美都
(一社)
日本のSAKEとWINEを愛する
女性の会／歯科医師／
日本酒学講師／酒匠



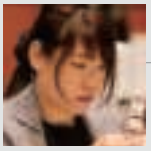
Hirai Toru
平井 杜居
(株)BARNS 代表取締役／
BAR BARNS オーナーバーテンダー



Fujii Tatsuro
藤井 達郎
Bar&Sidreria Eclipse first
オーナーバーテンダー／
ウイスキーレクチャラー



Fujita Yuki
藤田 悠希
ウイスキーレクチャラー



Matsushita Chiaki
松下 千秋
Bar 鴻 Kohno バーテンダー／
ウイスキーレクチャラー



Matsuyama Ken
松山 謙
Ken's Bar オーナーバーテンダー



Miyazaki Shunji
宮﨑 俊治
RÉMY COINTREAU JAPAN (株)
代表取締役社長



Miyashita Tomoya
宮下 知也
ウイスキーレクチャラー／
ソムリエ／テキーラ・マエストロ



Yokota Takeshi
横田 武志
BAR Te・Airigh
オーナーバーテンダー／
秩父ウイスキー祭実行委員会
実行委員長



Yoshida Junko
吉田 順子
(一社)
日本のSAKEとWINEを愛する
女性の会／ソムリエ



Watanabe Hiroyuki
渡邊 弘之
リードオフジャパン(株)
代表取締役社長／
ブルゴーニュワインの騎士団
シュヴァリエ







Iguchi Noriyuki
井口 法之
Bar GasLight シカゴから狸穴と歴史を継承し 現在、霞が関、銀座2店舗、四谷 店とバーを展開するオーナーバーテンダー



Ishimine Hisashi
伊志嶺 尚
スコッチモルト販売(株)
輸入購買部
ハードリカーMD



Itani Masamichi
井谷 匡伯
Bar NO'AGE オーナーバーテンダー／
ウイスキー文化研究所
静岡支部代表／
ウイスキーエキスパート



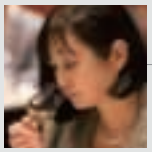
Ito Yuka
伊藤 裕香
テキーラバー Gatito オーナー／
テキーラバー エローテ オーナー／
ウイスキーエキスパート／メスカレロ／
グラン・マエストロ・デ・テキーラ



Inoue Nana
井上 奈々
ウイスキーレクチャラー



Imaizumi Shinichi
今泉 真一
化学品製造メーカー勤務 ／
ウイスキーレクチャラー



Eguchi Mayumi
江口 まゆみ
酒紀行家／
酔っぱライター／
『ビジネスパーソンのための
一目おかれる酒選び』(平凡社刊)



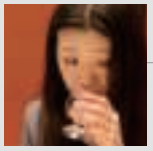
Ookawa Keita
大川 啓太
江井ヶ嶋酒造(株)
製造部醸造課／
ウイスキープロフェッショナル／
一級酒造技能士



Okubo Daisuke
大久保 大輔
サクラホテル日暮里マネージャー／
ウイスキーレクチャラー



Osawa Shusaku
大澤 周作
(有)八重洲長谷川酒食品
代表取締役社長



Osawa Tomoe
大沢 智枝
BAR AdoniS チーフバーテンダー／
ウイスキープロフェッショナル／
シニアソムリエ



Kashide Hiromasa
樫出 浩雅
(株)音元出版 取締役副社長／
『季刊 analog』編集人



kawashima Kentaro
川島 健太郎
BAR GemStone
バーテンダー



Kikuchi Takahiko
菊地 貴彦
BAR オーディン
オーナーバーテンダー／
アカデミーデュヴァン
蒸留酒部門統括講師



Kitahata Koki
北畑 晃輝
Bar Silver moon
オーナーバーテンダー／
ウイスキーレクチャラー／
ラム・コンシェルジュ



Kitayama Masaya
北山 雅哉
(株)食料醸界新聞社



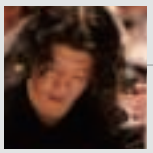
Sadamoto Manabu
定元 学
京都 Rum and Whisky
オーナーバーテンダー／
ウイスキーエキスパート



Sato Kenichi
佐藤 謙一
BAR ル・ヴェール
オーナーバーテンダー／
PBO エグゼクティブスペシャリスト



Satoh kentaro
佐藤 健太郎
D.Bespoke ゼネラルマネージャー／
Bacardi Legacy Cocktail
Competition 2017 World Top 3 受賞



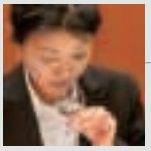
Sato Hironori
佐藤 裕紀
BAR Julepオーナーバーテンダー／
日本カシャッサ協会会長



Shinozaki Kiyoshi
篠崎 喜好
カスクストレングス、ミズナラカスク、
ウオッカトニック 代表取締役



Shinozuka Daizo
篠塚 大三
DANDYLION BAR
オーナー・ミクソロジスト／
IBA認定インターナショナル・バーテンダー／
ウイスキーエキスパート



Shibuya Tomomi
澁谷 知美
Bar Portree バーテンダー／
マスター・オブ・ウイスキー



Shindo Hiroshi
新藤 洋
ウイスキーレクチャラー／
ソムリエ



Suzuki Toru
鈴木 徹
THE MASH TUN
オーナーバーテンダー



Tateya Yoko
舘谷 葉子
(一社)
日本のSAKEとWINEを愛する
女性の会／
日本酒学講師／酒匠



Tanimoto Akira
谷本 啓
同志社大学商学部准教授／
ウイスキーレクチャラー／
シェリー・アンバサダー



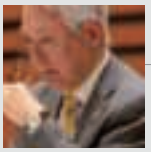
Danno Takuma
檀野拓馬
ウイスキーレクチャラー



Niimi Tsuyoshi
新美 剛志
ウイスキーレクチャラー



Nishida Minoru
西田 稔
(株)K-POINT代表取締役／
Bar K6 オーナーバーテンダー／
シャンパーニュ・オフィシエ／
グラッパ・キャバリエーレ



Nemoto Takeshi
根本 毅
ウイスキーレクチャラー



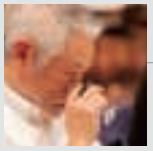
Hayashi Kenichiro
林 憲一郎
(有)長野屋 代表取締役社長



Harada Ryo
原田 陵
RUMBAR KING RUM
オーナーバーテンダー／
日本ラム協会理事



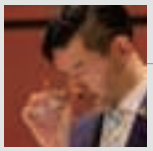
Hirai Shigeki
平井 茂樹
MHDモエヘネシーディアジオ(株)



Fukuda Shigeo
福田 恵夫
ジャパンインサイト(株)
代表取締役／
キーパーズ・オブ・クエイヒ



Fujiwara Hiroyuki
藤原 ヒロユキ
(一社)
日本ビアジャーナリスト協会代表



Honjo Shingo
本城 新吾
グラスバンク(株)代表取締役／
ウイスキーレクチャラー／
SAKE DIPLOMA



Maeda Hiroshi
前田 洋
BAR Red Tails 店長／
ウイスキーレクチャラー／
ソムリエ／テキーラ・マエストロ



Makabe Shinya
真壁 伸弥
ラグビー選手／
ウイスキーレクチャラー



Matsuki Takashi
松木 崇
頭頸部外科医／
『ウイスキーガロア』テイスター／
ウイスキープロフェッショナル



Matsuda Sho
松田 翔
BAR ROUTE58
オーナーバーテンダー／
ウイスキーレクチャラー



Mukai Setsuko
向井 畝津子
Jazz with KAZZ ソムリエ&バーテンダー／
WSET Diploma ／
マダム・ボランジェアワード受賞／
ウイスキーエキスパート



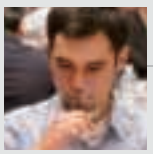
Yamaoka Hideo
山岡 秀雄
ボトラーズ／
ウイスキージャーナリスト



Yoshida Koji
吉田 耕司
総合酒類メーカー勤務／
マスター・オブ・ウイスキー／ソムリエ／
グラン・マエストロ・デ・テキーラ／
ラム・コンシェルジュ



Yoda Kyoko
依田 恭子
たる出版(株)
月刊『たる』副編集長



Yoneda Isamu
ヨネダ イサム
木内酒造(資) 額田蒸留所
蒸留責任者

土屋守　２日間に渡る審査会、お疲れ様でした。みなさんの大部分は実行委員会でありながら、ジャッジにも参加し、テーブルのチェアマンとしてもいろいろやっていただきました。初めての開催にしてはスムーズに事が運び、満足のいくコンペになったかと思います。僕は壇上で仕切りながら、ジャッジテーブルを回って、いろいろな人と会話もしました。その中でフライトの組み合わせ、ジャッジテーブルの人選、飲む順番、それ以外にも気付いた点が多々ありました。今日はコンペに対してどういう感想を持ったのか、そして今後の展望、改善点も含めて意見を聞かせていただければと思います。

林生馬　まず、サポートスタッフのオペレーションが素晴らしかった。海外でコンペの審査員を何回かやっていますが、まったくひけをとらないスムーズなオペレーションでした。また審査員の顔ぶれがすごくて、これは日本の洋酒界に大激震を与えたと言えるぐらいの大きな一歩だったと思います。改善点としては、例えばジンだったら、どこを基準におくか。ジュニパーが強いのがいい

TWSC2019を終えて

TWSC実行委員会座談会

土屋 守／中居靖行／渋谷 寛／早川 健／林 生馬／海老沢 忍／能勢 剛／原田邦博

コンペの興奮も醒めやらぬ3月18日月曜日、
TWSCの実行委員にウイスキー文化研究所に集まってもらった。
日本で初めて開かれたウイスキーとスピリッツのコンペティションの感想を聞きたかったからだ。
セッションごとに色分けされた段ボールが所狭しと置かれた事務所の中で、
実行委員として、ジャッジとして、あるいはPR担当としてどんなことを思ったのか。
TWSCの舞台裏も含めて、そこで語られた話とは――。



のか、ジュニパーがなくてもいいのか。ウイスキーだったら、ニューポットをどう判断すればいいのか。そういうオリエンテーションを各ジャンルで毎回やってもいいかなと思いました。また点数の基準、ジャッジの仕方というのを、もう少し細かく言ってもいいかもしれません。例えば、最低50点くらいまでとか。一応、「70点以上は銅賞」とジャッジペーパーには書いてあったのですが、明らかに見てない人もいました。



海老沢忍　審査員の皆さんが会場に入られた時は、少し不安そうな表情をされていたのですが、会場を出られる時は充実感溢れる表情をされていたのが大変印象的でした。スムーズな運営もあって、いい雰囲気になったことが何よりよかったと思います。ラムについて話すと、開催前から迷っていたのが、ラムはカクテルに合うものと、シングルカスクというか、そのままで飲んで美味しいものとで完全に方向性が違うので、どちらを基準に点数をつけたらいいんだろうという、迷いがありました。スピリッツ全体においても、個性があるものがいいのか、無個性がいいのか、という点で各テーブルでも意見が割れたのではないでしょうか。次回までには、このあたりの基準を審査員で揃えていきたいですね。

土屋　今回、ウイスキーとテキーラ、ジンとウイスキー、ウイスキーとラムなど、オリエンテーションを各セッションの前に２アイテムずつやりました。ただウオッカはオリエンテーションをしなかったので、何を基準に点数をつけたらいいのかということを指摘されたし、ジンもワンショット、マルチショット、ロンドンジンか、そうでないか、ヴァリエーションが多すぎて、採点するのが難しいということですよね。

林　好き嫌いと良し悪しは、違うんですよね。自分は好きじゃないけれども、これはいいスピリッツだというのもありますから。審査員としてどういうスタンスで判断するかというのが難しかったように思います。

早川健　評価の仕方については、立場が違うと評価方法を合わせるのが難しいのかなと感じました。例えばバーテンダーの方はカクテルに合わせることを考えるのでしょうが、私などは作り手なので、本来あってはいけないような香りがあるかどうかを見ます。作り手はカクテルに合うかどうかというところまではわからないので、評価を合わせるのは難しいのかなと。



土屋　「カクテル向き」という評価であっても、やっぱり用途を超えた絶対値というか、良いものは良い、悪いものは悪いという評価の基準は、どこかにあるべきだろうと思います。ウイスキーの場合はストレート、ロック、ハイボール、そんなことに関係なく良いものは良いという基準がわりと明確なんですが、ジン、ウオッカというスピリッツは難しかった。立場によって基準がずれてしまっていることも、今後それが改善できるのかできないのかという点も含めて、これからの課題になったと思います。

早川　そういった点についても、いろいろな人と話し合うという経験ができたので、そういう面では非常によい機会だったし、楽しかった。

土屋　ジャッジの人選とテーブルの配置、フライトの組み合わせ、もちろんどのフライトをどのテーブル（審査員）にやってもらうのかということは、ほぼ僕が決めさせてもらったんだけど、１つのテーブルにメーカーの人を集めながらも、バーテンダーも加わってもらうとか、バーテンダーのテーブルの中に、業界の記者を入れるとか、必ずしも同カテゴリーの人たちだけで、テーブルメンバーを組んでいるわけではない。もちろん基本的にはキャリアや鑑定能力を、僕なりに評価をさせていただいた結果です。

海老沢　僕のテーブルは、ラムを熟知された方や、ラムバーの方で主に構成されていたんですが、一人だけバーテンダーの方がいらっしゃって、その方が「カクテルだったらこうだな」と言ってくれたんです。シングルカスクを愛するタイプ（笑）の中にそういう方が入ってくれて、僕らにとってはすごく刺激になって、いいジャッジにつながったと思います。

林　基本的には、ストレートで飲んだ時の印象を評価するというのが一番だと思います。バーテンダーはカクテルだけを作っているわけではなく、蒸留酒のキュレーターでもあるわけです。当然バーテンダーもストレートで飲んでいいかどうかを判断するべきだと思います。

土屋　ラムとテキーラだけならまだしも、ジンやウオッカが曲者なんですよね（笑）。

海老沢　初日の１番最初のフライトにウオッカがきたんですよ。あれは難しかったですね（笑）。



どこまで銘柄やカテゴリーを明かして審査すべきか

土屋　原田さんはどうですか。

原田邦博　私は昨年の夏ぐらいに、土屋さんから実行委員会をやらないかと誘われました。それで自分にできることを考えたときに、北から南まで全国のバーに行っているので、バーをリストアップしたんですよ。その中から実際に審査員を務める方も出てきて、日本全国からいろいろな方がいらっしゃった。お酒の団体も、枠を超えて集まりました。こういうことは珍しい。それがよかったなと思います。自分自身の問題で言うと、私のテーブルは、あるフライトでカテゴリーとして「台湾」というのが明かされたのですが、台湾ってほぼ１～２銘柄でしょ、となってしまって。それが果たしてよかったのだろうかと。むしろ「ジャパニーズ等」というカテゴリーにして、日本のボトルと混ぜて入れたら純粋に点数をつけられるんじゃないかと思いました。その辺りにカテゴリー分けの難しさ、そして事前にどこまでカテゴリーを明かすかという問題があると感じました。



土屋　その通りですね。カテゴリーを事前に発表するかどうかについては、最後まで悩みました。しかし発表なしでやったときに、ウオッカとジンを間違える人はいないにしても、そもそものお酒の種類を間違える人がいたとしたら、それは主催者側として意図することじゃない。せめてそのお酒のジャンルくらいは言ってもいいのかなと思いました。もちろん126カテゴリーすべて明かすわけではありません。大まかにスコッチだとか、アメリカンだとか、ジン、ウオッカ、テキーラ、ラム、ブランデーといった具合に。ただ、台湾といったら銘柄が２つしかない。エントリーが少ないものは、「スコッチ等」と

か「ジャパニーズ等」、あるいは「ワールド」とするなど、次回は工夫したいと思います。渋谷さんはどうですか。

渋谷寛　審査テーブルと準備テーブルを１対１で対応したことが、配膳ミスを防いで非常に良かったと思いますし、準備室がつい立てで仕切られていて、審査員からは直接見えないので、情報は隠せたのかなと思います。

土屋　ボトルは完全にジャッジの目から外して、しかも黒のラップで覆っている。キャップもそれと分からないようにマスキングテープで覆いました。その他にもいろいろな工夫があるんですよ。それらのシステムを作るのに、ほぼ半年かかりました。スタッフ全員でほぼ毎日のようにミーティングを重ね、何度もシミュレーションを繰り返しました。それについてはほぼ完璧だったと思います。

渋谷　本当に完璧でしたね。

土屋　審査の話に戻りますが、実は今回、あるテーブルのチェアマンから１本のボトルに対して、「あれはブショネです。チェックしてください」と言われました。そこで審査が終わった翌日に、キャップを開けて匂いをかいでみたら、ものすごいブショネの香りがした。キャップだけでなく、グラスに入れて飲んでみても、見事にブショネ。いわゆるコルクのキャップにカビが生えて特有の不快な香気を発するアレですね。事前準備を完璧にやったつもりでしたが、すべてのボトルを開栓チェックしたわけではない。長熟のものなどは今後気をつけないといけないですね。

渋谷　チェアマンがブショネと気づいたら、ボトルを変えるかどうかも考えていかないといけませんね。

土屋　それをすべて準備段階でやるのは不可能なので、やはり本番で抜いた瞬間の判断ですね。本来は一瞬でも嗅いだら異常に気付けたはず。そこが反省点です。まあ、今回は527本の中で１本だけだったので助かりました。

渋谷　ストレートで評価するか、カクテルで評価するかという話題もありましたが、純粋に味だけでやってくださいということを、最初に表記すべきだったのではないかとも思います。

土屋　審査項目の30点、40点、30点の基準やその配分がわからない、という感想もありました。今後はそういった点も検討していくべきなのか、あるいはそういう指標をやめるのか、考えていくべきかもしれません。

林　どうしても総合点を先に書いてしまって、個々の点数は後づけになっちゃいますもんね。

土屋　それにしても私たちが期待していた以上に、ジャッジペーパーにアロマやフレーバーの点数、そのコメントを書いてくれている。しかもそれを控えにも書き写したりしていました。



ジャンルは違っても良い酒の基準は同じ

渋谷　僕が気になったのは、絶対評価と相対評価という点です。審査員もとても真剣にやっているのですが、自分がこれまで飲んできたものの中で、これは何点か、絶対評価にこだわっている気がしました。だからみんな点数が低いんです。真剣にやるほど、低い点数になってしまっている。そうすると90点以上の金賞なんて、ほとんど出ないので、もう少し具体的に、「例えばこれはスコッチのシングルモルトの12年です」という感じに教えてあげた方がいいのではないでしょうか。

土屋　それは少し違う気もしますけどね。もともとそうした基準を出さずにやろうって考えていたくらいですから。いろんな意見があると思います。まったくなしでやるという意見もあるだろうし、もっと出した方がいいという意見もあるだろうし。

原田　その評価の基準って、ウイスキーとジンとラム、全てのスピリッツで違うわけですよね。

土屋　スピリッツとして総合的にみたときに、ウイスキーの基準とラムの基準は少し違う部分はあるにしても、これにはこのくらいの点数だろうっていう感覚はあるんですよ。ラムとテキーラを僕と海老沢さんと林さんの3人で事前にサンプルを決めてやった時に、その点数がわずか1～2点しか違わなかった。それはスゴいと思いましたね。ジャンルは違っても良い酒の基準は同じなんだって。それをもっと理解してもらうにはどうすればいいのか。

原田　ウイスキーの金賞と、スピリッツの金賞の点数が違っていても問題ないですよね。

早川　私はやってみると、絶対評価というのは難しくて、相対評価になったものもあります。ウイスキーだとニューポットは単純にやると悪くなるんだけど、たぶんニューポットでグルーピングされて出てきて、その中でいいものと悪いもの、として見ました。そういう状況だから、



どうしてもウイスキーの基準とラムの基準は厳密には違ってきてしまって、同じではない。

渋谷　初日のオリエンテーションで、グレンモーレンジィ10年を85点と言ったのが、絶対評価と取られてしまったのではないでしょうか。これは過去に銅賞でした、とか、そういう評価にした方が点数をつけやすいのでは。

原田　チェアマンとしても、どこまで会話をしていいかという問題も非常に難しかった。採点はその人の価値観でやってもらわなくては困るわけですから、あまり影響を与えるようなことは喋れない。終わった後に話すのは自由だと思うんですけれども。

早川　話すのはいいと思うのですが、それで点数を変えたりすると困ってしまいます。

林　海外のコンペだと結構話しますよね。海外だと自分は自分だから。

渋谷　僕のテーブルでは前半は一切私語を禁止、感想も禁止にして、全員点数が付け終わったと確認したら、話していいですよとしていました。

原田　その辺りのマニュアルがあってもよかったかなと思います。チェアマン同士はそんなに意思疎通ができていないから、そのあたりのやり方はバラバラだったと思います。

土屋　中には審査時間が足りないというテーブルもあったりしました。そういった感想も来年に生きてくると思います。では中居さん、お願いします。

中居靖行　まず会場の雰囲気が本当に素晴らしく、ホスピタリティがあってとてもいい雰囲気だったと思います。一点だけ気になったのは、ジャッジペーパーについてです。ウイスキーベースでジャッジペーパーを作っていますが、スピリッツベースで若干ジャッジペーパーを変えてもいいかもしれませんね。ウオッカなど、アロマを取りにくいのもあるわけで。

土屋　ウオッカ用の点数にする必要があるかもしれないですね。

林　来年、焼酎もやるという話がありますが、そうなったらその評価基準も大きな問題になるんでしょうね。

土屋　来年は微妙だと思いますが、いつかは当然やりたいと思っています。そうなれば焼酎用の基準を作らなければならないですね。我々はウイスキーやラム、テキーラの専門家だけれども、その基準を一度捨てなければならないかもしれない。その上で焼酎の基準をどう作るのか。米焼酎、芋焼酎、麦焼酎、そして黒糖焼酎、泡盛を同じ基準でやるのかどうか。

林　私たちがやるなら、極端に言うと海外の人が飲んだらこう思う的な、そういう評価になりそうですよね。

土屋　そういう評価を聞きたいんだと思いますね。ウイスキーとスピリッツの専門家がグローバルな視点から見た時に、日本の焼酎をどう思うのか。そういうことを、業界的にも知りたいのだと思います。日本人の我々が日本でウイスキーやスピリッツの品評会をやるなら、当然ジャパニーズスピリッツである焼酎についてもやるべきでしょう。

審査中に起こるドラマを目に見える形で見せていく

土屋　では最後に能勢さん、お願いします。能勢さんにはマスコミ対応というか、コンペ全体のPRという面でも見てもらいました。

能勢剛　私はジャッジに参加せず、情報発信を中心に活動していたのですが、反省としては情報発信が全然足りなかったと思います。また、中で固まってないがゆえにできないこともあって。例えば、個々の要素の点数が30点、40点、30点という話は聞いたのですが、「どんな味が30点なんですか」と聞かれたときに答えられない。それを単純化して言うのはリスクがあるので言いたくはないけれど、ある程度、取材に来た人が納得してくれるようなものを理論武装しておくことが必要だと思いました。また180名の審査員というところを強調したので、全員が同時に１本の酒を審査すると思っていたようです。そうではなく、１本を６人で評価することを伝えるとともに、６人できちんとした評価ができるということを説得しないといけない。また、審査員について私たちは顔ぶ





れがわかるけれど、外から取材に来る人にとっては顔ぶれがわからないので、きちんと伝える必要があると思います。加えて審査の過程が、意外と退屈に見えます。目に見えるような形でドラマをつくる仕組みを考えた方がいいような気がします。というのは、取材に来たみなさんが口を揃えて「記事にする取っ掛かりが見えない」と言うんですよ。先ほど私語の話がありましたが、最後の10分間はディスカッションをするなどすれば、外から見てわかりやすいし、喋っている人が誰かということも名前のプレートを立てておけば、テレビカメラが入った時にわかりやすい。テレビ的なドラマが必要なんです。解答をもらったところで、思わぬドラマチックな展開があるじゃないですか。そういうものが、もっとあればいいのではないでしょうか。

土屋　最初の構想ではそうだったんですよね。解答を渡した後にもう一回ディスカッションして検討してもらおうと。チェアマンが主導してやって「これはどう考えたっておかしいよね」という議論になるか、「じゃあもう一度、テイスティングし直そう」みたいな流れになるとか。

能勢　最初の点数はブラインドで付けて、ディスカッション後の点数を別の欄に書くとか。ブショネの話などは誰かがそう言えば、その場で解決できたはずです。

土屋　それから１日１セッションがいいね（笑）。今回のように全部終わった時に解答を渡して、それぞれのジャッジテーブルで議論してもらう。それで修正があれば、そうする、そうすれば、もっとすごいものができる。

能勢　偏差値みたいな点数の取り方はできないんですか？

土屋　テーブルごとの偏差値をあらかじめ出しておく……。そういう偏差値制もありえなくはないと思うけど、ただそうすると、後の処理がとても難しくなるし、そもそもテーブルごとの偏差値をどう決めるかが、別の問題として出てくる。今後経験を積み重ねていく中で、ジャッジの質が上がっていき、ジャッジの質が上がってくると、より正確な判断が下せるかもしれません。今回の反省点でいうと、６人のジャッジというのは再考すべきだと思いました。また１つのフライトを２つのテーブルで審査する、12人の審査というのもあまり機能しないかもしれない。一発勝負の８人くらいでやるべきだと思いましたね。点数の上を切るというのはあまり意味がないのですが、下は切らないといけないとも感じました。

来年のTWSCに向けて 新たなカテゴリー、審査員を

林　やはり無差別級なので、価格が高いものが有利になるんですよね。そうすると、どうしても高いものが受賞してしまうので、ビブグルマンみたいな、値段の割にはいい点数みたいなところを評価したいですよね。

土屋　そうなんです。そのため、今回コストパフォーマンス賞というのも用意しました。さらに将来に向けての期待値、応援ということで「ニューボーン・オブ・ザ・イヤー」みたいな賞も必要になってくるのかなと。



林　それから審査中の絵面が問題ですよね。審査員一人ひとりに名前と肩書きの書いてあるプレートを渡した方がいいと思う。あと審査中のジャンルをテーブルの中央に掲げるのも絵的には面白いかもしれませんね。

原田　表彰式ではテレビ取材してもらえるような華がほしいね。

能勢　ストーリーも大切です。ディスカッションをするシーンなどが欲しい。

土屋　さらに今後はTWSCの活用方法も考えなければいけない。積極的にセミナーを開いて、来年に向けて「ジャッジになるためには、やっぱりセミナーを受けておかなきゃならないな」と思ってもらうとか。

原田　審査員も、来年に向けて入れ替えていった方がいいかもしれませんね。

早川　地方ごとにばらした方がいいのかもしれません。その土地ごとのローカルなニュースになるきっかけにもなると思いますし。地方もジンやクラフト蒸留所を応援しているので。

土屋　今後は実行委員会も増やそうと思っています。焼酎の人たちも入れなきゃいけない。これを２年、３年と積み重ねていったら、全世界が注目するコンペになると思います。それを目指して、やっていきたいですね。本日はありがとうございました。

（収録はコンペ終了直後の３月18日に行われました）

TWSC 2019 Executive Committee

実行委員紹介

後援

一般社団法人　日本のSAKEとWINEを愛する女性の会（SAKE女の会）／日本テキーラ協会／日本ラム協会／日本ジン協会／日本コニャック協会／日本ウォッカ協会／スコットランド国際開発庁・日本事務所／アメリカ合衆国大使館 農産物貿易事務所（ATO）／アイルランド大使館／英国 ウェールズ政府 欧州外務局 日本代表事務所／カナダ大使館／台北駐日経済文化代表処／ JWSIA　日本洋酒輸入協会／日本洋酒酒造組合

実行委員長

Tsuchiya Mamoru

土屋　守

ウイスキー評論家／ウイスキー文化研究所代表／「ウイスキーガロア」編集長



1954年新潟県佐渡生まれ。学習院大学文学部卒。大学卒業後、フォトジャーナリストとしてインド、チベットに通う。1982～87年新潮社「フォーカス」編集部勤務。1987年渡英。1988年から４年間、日本語雑誌「ジャーニー」編集長を務める。1993年帰国後は５年間の英国生活、英国取材の経験を生かし、ライフスタイルを紹介した著書、エッセイ等を多数発表。1998年ハイランド・ディスティラーズ社より「世界のウイスキーライター５人」の一人として選ばれる。「ウイスキーガロア」の編集長を務めるほか、2014年９月～2015年３月に放送されたNHK朝の連続テレビ小説「マッサン」ではウイスキー考証として監修を務めた。主な著書に「イギリス・カントリー四季物語」「スコットランド旅の物語」「竹鶴政孝とウイスキー」（東京書籍）、「シングルモルトウィスキー大全」「ブレンデッドウィスキー大全」（小学館）、「ウイスキー 通」（新潮選書）、「伝説と呼ばれる　至高のウイスキー 101」（WAVE出版）、「ウイスキー完全バイブル」（ナツメ社）、「ウイスキー検定公式テキスト」（小学館）などがある。

Nakai Yasuyuki

中居靖行

ミニチュアボトルコレクター／ウイスキー文化研究所代表世話人／ウイスキーコニサー資格認定制度・審査員



1963年東京生まれ。世界中を回りウイスキーをはじめとするお酒のミニチュアボトルを集め、コレクションは１万本以上にのぼる。初めてミニチュアボトルの魅力に開眼したのは小学校５年生の頃。一時収集活動から遠ざかっていたが、30 歳で初めてスコットランドを訪れた時に改めてミニチュアボトルの世界に魅了され、シングルモルトを中心にコレクションを続けてきた。国内をはじめ世界中のコレクター仲間とも交流をもつ。ウイスキー文化研究所の代表世話人として、試験やイベントなどのサポートを行っている。

Shibuya Hiroshi

渋谷　寛

弁護士・司法書士／ウイスキー文化研究所代表世話人／NPO 日本スコットランド協会 監事／英国市場協議会 会員



1997年渋谷総合法律事務所創設。ベット法学会会員・常任理事を務め、英国（ロンドン・スコットランド）・ドイツ・フランス・ベトナム・カンボジア・ラオス・中国（北京）・モンゴル・ウズベキスタン・インドネシア・シンガポール等の海外の司法制度を視察。法律関係の著書を多数監修・執筆するかたわら、「ウイスキーガロア」、「シングルモルトウィスキー大全」、「ブレンデッドウィスキー大全」（土屋守著）、「日本ウイスキー世界一への道」（嶋谷幸雄・輿水精一著／集英社新書）など多数のウイスキー関連書籍に写真提供を行う。

Maki Takako

牧　貴子

株式会社BAISOKU代表取締役／ウイスキー文化研究所代表世話人



福岡県生まれ。1993年土屋守が、東京・赤坂のバーで主宰していたシングルモルトのテイスティング会に参加。その縁で「モルトウィスキー大全」の入稿作業に全面的に協力。刊行掲載時の全113銘柄テイスティングボードの一員でもある。代表取締役を務める株式会社BAISOKUは、「速さで勝負」をコンセプトに『IT武器メーカー』として、中小企業のIT導入、およびIT活用推進を支援している。ウイスキー文化研究所代表世話人として東京フェスなどの司会・進行を務める。

Hayakawa Ken

早川　健

ウイスキー文化研究所 特別技術顧問／富士御殿場蒸溜所元ブレンド最高責任者



1959年広島県福山市生まれ。大阪大学工学部醗酵工学科、大学院で醸造・醗酵を学び、1983年にキリン・シーグラム株式会社に入社。2000年に富士御殿場蒸溜所のブレンド最高責任者（チーフブレンダー）となり、「富士山麓樽熟50°」「富士山麓シングルモルト 18年」等の開発を手がける。また御殿場工場におけるジン製品（「バーネットジン」やウオッカ製品（「ニコライウオッカ」等）の製造にも携わる。2015年麒麟麦酒を退職し、ウイスキー文化研究所の特別技術顧問に就任。

Hayashi Ikuma

林　生馬

日本テキーラ協会会長／日本メスカル協会顧問／ブリュッセル国際酒類コンクール審査員



1968年東京生まれ。カリフォルニア州立大学映画学部にて映画製作を学び、20世紀フォックス社にて製作スタッフとして活躍。ショーン・コネリーやジョージ・クルーニー、北野武監督らとテキーラを酌み交わす経験を得て、テキーラの最先端の飲み方およびテキーラブームの到来を目の当たりにする。訪れたテキーラ蒸留所は100以上。蒸留所スタッフやテキーラ・アンバサダーとの親交も深く、2008年7月に「日本テキーラ協会」を創立。テキーラ・マエストロ講座を全国にて行う。日本メスカル協会顧問。著書に日本初のテキーラ専門書「テキーラ大鑑（廣済堂出版）」がある。

Ebisawa Shinobu

海老沢　忍

株式会社SCREW代表取締役社長／日本ラム協会 会長／吉祥寺SCREW DRIVER・渋谷ARIAPITA RUM&PUNCHオーナーバーテンダー



1970年東京都出身。日本におけるラム酒のパイオニアとして知られ、1997年開いた自らのバー、「SCREW DRIVER」は常時500種類以上のラムを取り揃え、国内随一のラインナップ数を誇る。まだ見ぬラムに出合いたいと各国の蒸留所を視察。また、個人で所有するビンテージラムは5000本を超え世界有数である。2008年には日本でのラムの普及に取り組むべく、「日本ラム協会」を設立。一方で、外で飲むお酒の美味しさを伝えるために、フェスやビーチ、キャンプイベント等での「OUTSIDE BAR」を展開し、第一人者としても知られている。

Tomoda Akiko

友田晶子

一般社団法人 SAKEとWINEを愛する女性の会代表理事／シニアソムリエ／日本酒・焼酎きき酒師／フェミナリーズ世界ワインコンクール名誉会長・日本広報大使



12,000名のお酒と文化を愛する女性たち（SAKE女）のリーダー。ソムリエとして酒類業界に携わり、業界30年のキャリアと女性らしい感性を活かし、セミナー、飲食関連のイベント企画開催、宿泊施設・飲食店向けの「酒類売り上げ向上支援」コンサルティング、観光PR支援等を行う。エッセイストとして著書も多数。人気ポータルサイト「All About」の日本酒・焼酎・ワインガイド。田崎真也氏オーナー、「ワインバー・アルファ」（銀座）代表。「シュヴァリエ・ド・タスト・フロマージュ」（フランスチーズ鑑定騎士団）。「ウイスキーガロア」のコラム担当。

Umenai Rintaro

梅内林太郎

葉巻愛好家／株式会社トラベルデータ代表取締役／Travelfusion Japan株式会社代表取締役／「ウイスキーガロア」コラム担当



1956年東京都出まれ。元六本木キューバレストラン&バー店主。JTB、VISA International日本支社等勤務を経て2009年より現職。キューバ産葉巻を吸い続けて30年。ラムとソンをこよなく愛し、フィデル・カストロとガルシア・マルケスを尊崇。キューバを含む中南米カリブ及び中東の歴史・文化に大きな関心を抱く閑人。 障がい者自立支援活動と、乱読とサッカー観戦も人生の糧。

Shirane Zen

白根　全

カーニバル評論家／ラテン系写真家／「ウイスキーガロア」コラム担当



日本で唯一、世界中でも２人しかいないカーニバル評論家、ラテン系写真家。ラテンアメリカを中心に、30年以上世界の辺境６大陸150ヵ国超を訪ね歩いてきた。探検・冒険から登山、旅、さらには民族調査やボランティア活動まで世界を舞台に活動を続けている行動者たちのネットワーク「地平線会議」同人。探検家・関野吉晴氏が成し遂げたグレートジャーニーのコーディネート、サポートを務めた。国際カーニバル評議会ボードメンバー。「ウイスキーガロア」のコラム担当。著書に『カーニバルの誘惑ーラテンアメリカ祝祭紀行』（毎日新聞社）など。

Nose Takeshi

能勢　剛

編集者／株式会社 コンセプトブルー代表



日本経済新聞社のシンクタンク、日本消費経済研究所（当時）のマーケティング理論誌「消費と流通」編集部を経て、1988年より日経ホーム出版社（後に日経ＢＰ社）で、一貫してライフスタイル誌の編集を担当。『日経トレンディ』編集長、『日経おとなのOFF』編集長などを経て、2016年に独立。メディアプランニング・コンテンツ制作の株式会社コンセプトブルーを主宰。日経トレンディ時代の特集「ヨーロッパのホテルランキング」では、土屋守とともに、ヨーロッパの主要ホテル55軒のバーを覆面取材した。

Harada Kunihiro

原田邦博

バー愛好家（自由業）／ウイスキー文化研究所会員



1951年東京生まれ。42年間のマスコミ勤務を卒業して自由人に。ウイスキーの魅力に取りつかれ約30年。いわゆる「特級ウイスキー探し」にも参戦し全国の酒店を巡る。購入数はモルト、ブレンデッド合わせて500本まではカウントしたが、以降は未集計。これと並行して各地の著名なバーを訪れ47都道府県を制覇、日本列島の北から南まで馴染みの店がある。旧スコ文研発足当初からの会員で、今回はいわば「一般代表」として実行委員会に加わる。日常の愛飲酒は某ゲーリックウイスキー。その消費量は20年で700本を超えた。

Hirata Sanae

平田早苗

株式会社ボットラックインターナショナル代表取締役／ショコラコンシェルジュ® ／フードコーディネーター1級／「ウイスキーガロア」テイスター



1998年、洋菓子製造販売企業に入社。退職後、焼菓子のショップと製造卸販売、お菓子教室を５年間運営。2004年にショコラ講座を開講、翌年に起業、スイーツを中心としたコンサルティング業務をスタートする。以来、製造・販売・企画の経験を生かして、リサーチから商品化、店舗指導など幅広く飲食とスイーツに関するプランニング業務やマネジメントに携わる。現在、十文字学園女子大学　健康栄養学科で「フードマネジメント論」を担当。ウイスキーとショコラのマリアージュ講座なども多数開講し、2017年より「ウイスキーガロア」のテイスターを務める。



ついに決定！
2019年、TWSCの ベスト・オブ・ザ・ベストとは？

金・銀・銅・最高金賞と特別賞、カテゴリーウィナーなどが決まった４月中旬、かねてより実行委員会でやりたいと言っていた“ベスト・オブ・ザ・ベスト”、いわゆる無差別級の１位を決める試みが始まった。コンペで得点の高かったものから順番に10のアイテムを選び、それを特別に編成したテイスティングチームに、ブラインドで採点してもらおうというものだ。今回は第１回目ということもあり、シングルモルトのみでそれをやることにした。

スコッチ以下、シングルモルトカテゴリーで出品されたものは全161アイテム。そこから得点トップ10を選ぶと、最高金賞を取ったグレンモーレンジィ シグネット、タリスカー 25年などスコッチは５本、ジャパニーズが３本、そしてカバランが２本となる。スコッチは上記以外にグレンファークラス1989ブラック・ジョージラベル、グレンファークラス21年、グレンフィディック21年の３本。ジャパニーズがシングルカスクの駒ヶ岳1990年と2012年の２本、そして山崎12年。カバランがソリスト・オロロソシェリーと同じくソリスト・ヴィーニョバリックである。

それら10本のシングルモルトをサンプル小瓶に詰め、私を含めた実行委員会８名と『ウイスキーガロア』テイスターの６名、計14名に中身が分からないように送付した。個々人が自宅で、ブラインドでやってもらうためだ。それについては100点満点の採点ではなく、１位から10位まで、順位をつけてもらうということにした。その結果が下の表である。

その結果を受け、５月16日（木）に今度は実行委員会だけに集まってもらい、上位５銘柄について全員で再びテイスティングを行い（コンペ当日の審査を入れると、これが３回目のテイスティングとなる）、最終的に今年の「ベスト・オブ・ザ・ベスト」、シングルモルト・オブ・ザ・イヤー 2019が正式に決定した。

はたして、その栄えある今年の第１位とは？　６月８日（土）の授賞式本番、すべての賞の授与の後にそれが発表される…。

土屋 守

Best of the Best 投票結果（中間発表）

ランク順	銘柄名	得点
1	グレンファークラス シングルカスク 1989 “ブラック・ジョージ・ラベル”	103
2	駒ヶ岳 1990 27年 シングルカスク No.1040	97
3	タリスカー 25年	90
4	カバラン ソリスト ヴィーニョバリック	88
5	駒ヶ岳 2012 6年 シングルカスク No.1493	76
6	グレンフィディック21年	74
7	山崎12年	67
8	カバラン ソリスト オロロソシェリー	65
9	グレンモーレンジィ シグネット	58
10	グレンファークラス 21年	52

（注：得点は１位を10点、10位を１点とし、14人の結果を合計した）



TOKYO WHISKY & SPIRITS COMPETITION

最高金賞受賞

「TWSC2019」において「最高金賞」をダブルで受賞しました。



特別賞受賞

TWSC2019オブ・ザ・イヤー

シングルカスク駒ヶ岳
2012 No.1493
AGED 6 YEARS

標高798メートルに佇むマルス信州蒸溜所。その冷涼な環境の下で熟成されたモルトウイスキーの中から、バーボンバレルで6年以上熟成されたヘビーピートの原酒を1樽厳選した稀少なシングルカスクウイスキーです。

度数 60%・内容量 700ml
化粧箱入・数量限定

※「シングルカスク駒ヶ岳 2012 No.1493 AGED 6 YEARS」は、最高金賞に加え、TWSC2019特別賞として「ベストジャパニーズシングルモルト(シングルカスク部門)」を受賞しました。

シングルカスク駒ヶ岳
1990 No.1040
AGED 27 YEARS

長期熟成されていたモルト原酒の中から円熟を迎えた1樽を厳選したシングルカスクウイスキーです。アメリカンホワイトオーク樽で27年以上、長い年月の熟成を経て生まれた、濃密で複雑味のある逸品となっています。

度数 58%・内容量 700ml
化粧箱入・数量限定

飲酒は20歳を過ぎてから。飲酒運転は絶対にやめましょう。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。お酒は楽しく適量を。

本坊酒造株式会社 http://www.hombo.co.jp/

KOVAL

BEST AMERICAN CRAFT GIN



Tokyo Whisky & Spirits Competition

KOVAL BARRELED GIN

Citrus-floral botanicals with a hint of oak, this crowd-pleasing spirit delights gin and whisky lovers alike.

KOVALDISTILLERY.COM @ KOVALDISTILLERY

WOLFBURN
SINGLE MALT SCOTCH WHISKY

THE BEST SCOTCH CRAFT DISTILLERY OF THE YEAR 2019



Silver Medal
LANGSKIP

Bronze Medal
AURORA

THE OPEN
OFFICIAL SPIRIT

全英オープンゴルフ公式ウイスキー

LOCH LOMOND
HIGHLAND SCOTCH WHISKY
ESTABLISHED 1814

ロッホローモンド







ソレラシステムで産み出される
全てがプレミアムなコロンビアンラム

DICTADOR

ディクタドール



LINEUP





ロッホローモンド/ディクタドール 国内正規輸入代理店

株式会社 都光
TOKO TRADING CO.,LTD

〒110-0005　東京都台東区上野 6-16-17 朝日生命上野昭和通りビル 1 階
TEL：03-3833-3541　FAX：03-3832-6930　https://www.toko-t.co.jp

お酒は 20 歳になってから。未成年の飲酒は法律で禁止されています。


KANOSUKE
NEW BORN
嘉之助蒸溜所
KANOSUKE
DISTILLERY
TOKYO
WHISKY & SPIRITS
COMPETITION
2019
嘉之助 ニュー・ボーン
ベストニューカマー賞 受賞
TOKYO
WHISKY & SPIRITS
COMPETITION
2019
ベストジャパニーズクラフトディスティラリー オブ・ザ・イヤー 受賞
嘉之助蒸溜所
KANOSUKE DISTILLERY
http://kanosuke.com
小正醸造株式会社 嘉之助蒸溜所
鹿児島県日置市日吉町神之川 845-3
099-201-7700


感動は三年目に旅立つ。
2019年12月
リリース始まる。
ASAKA
DISTILLERY
SASANOKAWA
SHUZO
安積蒸溜所
笹の川酒造株式会社
福島県郡山市笹川1丁目178
SASANOKAWA SHUZO CO.,LTD.
Koriyama City Japan
main@sasanokawa.co.jp

［金賞］
［特別賞］
TWSC2019オブ・ザ・イヤー

Fuyu Japanese CRAFT GIN
赤屋根クラフトジン ジンハート 冬



今回、このような蒸留酒のコンペティションを初めて日本で開催していただいた皆様には、多大な労力をかけていただき誠にありがとうございます。
私どものような蒸留酒を造っている者にとっては新しい目標になるものだと思っております。
これを機に世界から注目されるような蒸留酒を造れればと身の引き締まる思いで決意を固めているところです。
また、今回いくつかの賞をいただく事ができ蔵人全員、更なる努力を重ねていく所存でございます。
今後とも佐多宗二商店「赤屋根製造所」を応援くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役 蒸留クリエーター　佐多 宗公

［銀賞］
AKAYANE Craft Gin
赤屋根クラフトジン ジュニパーベリー



［銅賞］
AKAYANE Craft Gin
赤屋根クラフトジン 緑茶



AKAYANE
Single Distillery Japanese Craft Gin
赤屋根製造所 Since 1908
佐多宗二商店

963 WHISKY
Produced by Fukushima-KenNan-Syuhan



福島にウイスキーあります。

KURASU_alpha project

FOLLOW US!!

福島県南酒販株式会社
〒963-8863 福島県郡山市字菜根屋敷20番地1
TEL:024-932-3250　FAX:024-922-8859
E-mail:963@kennan-syuhan.co.jp

◎お酒は20歳になってから楽しく適量を
◎妊娠中、授乳中の飲酒はお控え下さい
◎飲酒運転は法律で禁止されております

Produced by Fukushima-KenNan-Syuhan
manufactured and stockpiled by Sasanokawa Shuzo


EST. OLD 1826
PULTENEY
SINGLE MALT SCOTCH WHISKY
BRONZE
SILVER
OLD PULTENEY
12
15
18
お酒は 20 歳になってから。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は
胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。お酒は楽しく適量で。
輸入販売元
三陽物産株式会社


LANGATUN
THE SWISS WHISKY DISTILLERY
TRADITION AND PASSION
SINCE 1857
96
WHISKY BIBLE


jinjinGIN
Crafted Dry GIN
700ml
Japanese Dry Gin
jinjinGIN
高田酒造場


TEQUILA
Cascahuín
日本人初のテキレロが届ける
古き良き伝統のプレミアムテキーラ
[テキーラ カスカウィン]
KARMA
tequila
ボトル・製法・伝統… 全てに
こだわりぬいたプレミアムテキーラ
[カルマ テキーラ]
カスカウィン エクストラアネホが銀賞に選ばれました!
カルマ レポサドが銅賞に選ばれました!
FIDEA Inc.
今回、東京ウイスキー&スピリッツコンペティションにエントリーした3商品(カスカウィン2商品、
カルマ1商品)の中で、2商品が受賞しました。今回未エントリーの商品を含め、魅力的なテキーラ・
メスカルを取り扱っております。皆様のお問い合わせをお待ち申し上げております。
株式会社フィデア TEL:03-6435-0931 Mail:info@fidea.in
https://fidea.in

AUSTRALIAN GINS

オーストラリア特有のナチュラルなボタニカルが生み出すクラフトジン



〒546-0023 大阪市東住吉区矢田 4-8-10 TEL/FAX 06-6698-6414 LIQUOR SHOP http://youshuchiga.shop-pro.jp

飲酒は 20 歳になってから。飲酒運転は法律で禁じられています。また、妊娠中・授乳期の飲酒は胎児および乳児に悪影響を与えるおそれがあります。お酒は適量を楽しみましょう。

TWSC 金賞・特別賞 ダブル受賞

特別賞 ベストジャパニーズクラフトジン

油津吟YUZUGIN



使用したボタニカルは、ジュニパーベリー、柚子、山椒、生姜、きゅうり、ヘベス、日向夏、コリアンダー、クロープの９種類。

ヨーロッパのジンに想いを馳せ、漆黒のボトルにゆずをイメージさせる「ゆずイエロー」のワックスシールで封をし、京屋酒造の看板商品でもある、「雫雪」と「空と風と大地と」を使い、厳選の９種類のボタニカルを融合させました。

商品名：油津吟（YUZUGIN）
容　量：750ml
　　ミニボトル 90ml
分　類：ジン
アルコール度数：47 度



TWSC 銀賞

HINATA（ひなた）

使用したボタニカルは、ジュニパーベリー・日向夏（宮崎産）・ヘベス（宮崎産）・キンカン（宮崎産）・シナモン・カルダモン・コリアンダーシード・カモミール・レモンバーム・クローブ・スペアミント・山椒・ピーマン（宮崎産）・八角・ローズマリー・フェンネルシード・生姜（宮崎産）・黒ごま　全 18 種類

商品名：HINATA（ひなた）
容　量：750ml
　　ミニボトル 90ml
分　類：ジン
アルコール度数：47 度



京屋酒造有限会社　宮崎県日南市油津二丁目３番２号　TEL 0987-22-2002　FAX 0987-23-2314　URL：http://www.kyo-ya.com　E-mail：info@kyo-ya.com

清里 Whisky Festival 2019 in MOEGINOMURA

6.22(土) 昼の部 12:00-19:00 / 夜の部 19:00-21:30
23(日) 昼の部 10:00-17:00 ※23日は夜の部は開催しません

[会場] 山梨県北杜市高根町清里 3545 萌木の村広場
[主催] 清里ウイスキーフェスティバル実行委員会
[運営] 萌木の村株式会社 / ウイスキー文化研究所

開放感あふれる高原で美酒、美食を堪能

世界のウイスキーとスピリッツ、山梨の食を楽しむ野外フェスティバル。稀少ボトルが飲めるセミナーやトークショー、音楽ライブ、オリジナルカクテルなど、盛りだくさんなコンテンツをお楽しみください。






特別価格で先行発売!

開催記念 オリジナルウイスキー

オークニー　シングルモルト
ORKNEY SINGLE MALT 1999 18YO
蒸留 1999.11 / 瓶詰 2018.3 / BUTT / 700ml / 52.5%
特価 **¥18,000** (通常 ¥21,600)

ウォードヘッド
WARDHEAD 1997 19YO
蒸留 1997.2 / 瓶詰 2016.3 / HOGSHEAD / 700ml / 50.5%
特価 **¥12,000** (通常 ¥14,040)

前売券
1日券(昼の部) ¥2,500
2日通し券(昼の部) ¥4,000

チケットのご購入は e+(イープラス) / ウイスキー文化研究所オンラインショップ / 萌木の村内 など
最新情報は公式サイト・SNS で随時更新中！ https://whiskyfestival.jp/moegi2019/
※当日 1 日券 (昼の部) ¥3,000　※夜の部は完売しました

[問合せ] 萌木の村 ☎0551-48-3522(平日10:00-17:00) / ウイスキー文化研究所 ☎03-6277-4103(平日10:00-18:00) ✉whisky-fes@scotchclub.org



萌木の村のクラシックホテル「ハットウォールデン」の中にある Bar Perch では、300 種類以上のウイスキーを取り揃えています。TWSC2019 で受賞したイチローズモルト&グレーン 清里フィールドバレエ 29 回記念ボトルや、ポールラッシュ生誕 120 周年記念ボトルなど、萌木の村オリジナルボトルをお楽しみいただけます。

山梨県北杜市高根町清里 3545 萌木の村　ホテルハットウォールデン 2F
- 営業時間：17:00～25:00(Lo 24:00)
- 定休日：無し
- TEL：0551-48-2131
- チャージ：¥600
- URL：https://barperch.com/

ウイスキー&スピリッツの専門家による

スペシャルセミナー開催！

東京ウイスキー&スピリッツコンペティションの実行委員会のメンバーであり、ウイスキーやスピリッツの専門家によるスペシャルセミナーが開催されることが決定しました。お酒の定義、分類、製造方法のほか、近年の業界の動向などをレクチャーし、5～7種類ほどのテイスティングを通して、さらにテーマとなるお酒についての理解を深めることができます。しっかりとしたテイスティングをするには、正しいお酒の知識は必要不可欠。TWSC審査員の方、酒類業界に携わる方に、ぜひおすすめのスペシャルセミナーです。

【東京ウイスキー&スピリッツコンペティション定期セミナー】
～TWSCが誇るテイスター陣が語る世界のスピリッツ～

第1回

オール・アバウト・ジン（全3回）
オール・アバウト・テキーラ（全2回）

日時／6月29日（土）

第1部 13:00～15:00　オール・アバウト・ジン：ジンの知られざる世界　Part1 ロンドンジン編
講師：土屋 守（ウイスキー文化研究所 代表）

第2部 15:30～17:30　オール・アバウト・テキーラ：Part1 アネホ編
講師：林 生馬 氏（日本テキーラ協会会長）

会場／飯田橋レインボービル（東京都新宿区市谷船河原町11番地）

受講料／1講座 4,500円 / 両部受講の場合は8,000円　※全て税込

定員／各回 54名

オール・アバウト・ジン
Part1 ロンドンジン編

ロンドンジンとは何か、その歴史、製法、違いとは。メジャーなジンからシップスミスなどのクラフトジンまでテイスティングします。

テイスティングアイテム

ビーフィーター /ビーフィーター 24/ボンベイサファイア/ザ・レイクスジン　エクスプローラー /シップスミス ロンドンドライジン/シップスミス VJOP



オール・アバウト・テキーラ
Part1 アネホ編

TWSCでメダル受賞のレポサド、アネホ、エクストラアネホ6アイテムを試飲し、その樽と魅力を解説。

テイスティングアイテム

ドン・フリオ 1942/パトロン レポサド/カーサ・デ・ルナ エクストラ アネホ テキーラ/カスカウィン エクストラアネホ/カルマ レポサド/ドン・フリオ レアル



今後の開催予定

第2回TWSC定期セミナー　8月3日（土）13時～17時30分

第1部 **オール・アバウト・ジン　Part２　スコティッシュジン編**
（アイル・オブ・ハリス ジン / トンプソンブラザーズ オーガニック ハイランド ジン / カーキューヴァ・アークエンジェル・ストームストレングス・ジン / カーキューヴァ・オークニー・ジン / ヘンドリックス ジン / ザ・ボタニスト）

第2部 **オール・アバウト・テキーラ　Part２**
（アラクラン ブランコ / ドン・フリオ ブランコ / ドン・フラノ ストロング・シルバー / パトロン シルバー / テキーラ サウザ ブルー）

第3回TWSC定期セミナー　9月7日（土）13時～17時30分

第1部 **オール・アバウト・ジン　Part３**
第2部 **オール・アバウト・ラム（講師：海老沢忍氏）**

※予定は予告なく変更になる場合があります。

以降毎月開催予定!!

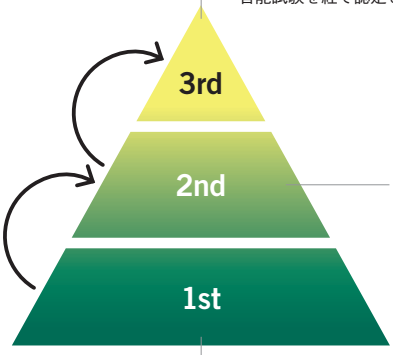
お申し込み

WEB：ウイスキー文化研究所オンラインショップ　http://www.scotchclub-shop.org/
TEL：ウイスキー文化研究所　03-6277-4103（平日10:00-18:00）

<お問合わせ先>
ウイスキー文化研究所 〒150-0012 東京都渋谷区広尾5-23-6 -2F ☎ 03-6277-4103（平日10:00-18:00）
swrc_whiskyschool@scotchclub.org

ウイスキーコニサー資格認定試験





マスター・オブ・ウイスキー（MW）
プロフェッショナル資格保有者を対象にしたウイスキーコニサー資格認定試験の最終段階にあたり、最高レベルの難易度を誇ります。試験は一次試験のオリジナル論文（未発表のものに限る）審査と、二次試験の筆記試験、口頭試問、官能試験を経て認定されます。

ウイスキープロフェッショナル（WP）
エキスパート資格保有者を対象にしたより深い知識を問う試験で、記述を含む筆記試験と官能試験を実施します。難関試験ですが、プロのバーテンダーや酒類取扱業、酒類販売業の皆様が本資格を生かし多岐にわたり活躍されています。

ウイスキーエキスパート（WE）
ウイスキーエキスパート試験は、ウイスキーコニサー資格認定試験の第一段階にあたります。20歳以上で、ウイスキーに興味があり、専門知識を身につけたい方のための、基礎知識を問う筆記試験です。

ウイスキー文化研究所はウイスキーの正しい知識を伝えるため「教育の大切さ」を重視しています。その一環として、2004年から「ウイスキーコニサー資格認定制度」をスタートさせました。ウイスキーに関心のある、あるいはウイスキーに関わるすべての人を対象にした認定制度で、職業を問わず誰でも受験することができます※。

本試験は、ウイスキーに関するあらゆる基礎・専門知識を問う資格制度です。資格には３段階あり、第一段階の「ウイスキーエキスパート」から始まり、「ウイスキープロフェッショナル」、そして最上位資格の「マスター・オブ・ウイスキー」と段階を踏んで取得していきます。上位資格に進むにつれ、試験の難易度も上がります。試験の合格者には、認定証と認定バッジを授与します。

※本試験を受けるには、ウイスキー文化研究所の会員登録が必要となります。
いずれの資格も試験日において年齢20歳以上の方を対象としています。

2019年度試験日程
ウイスキーエキスパート（WE）認定試験

試験日程	**2019年10月27日（日）**
試験会場	東京／大阪
試験時間	14：30 ～ 16：00
受験料	16,000円（税別）
認定料	8,000円（税別）※合格者には資格認定料を申し受けます。
受験概要	https://scotchclub.org/whiskyconnoisseur/

● 集中対策講座

東京	2019年7月28日（日）、9月8日（日）
大阪	2019年8月4日（日）
会場	東京：人事労務会館（品川区） 大阪：CIVI新大阪研修センター（大阪市淀川区）
講師	土屋 守（予定）
時間	9：30 ～ 16：50
受講料	ウイスキー文化研究所会員　16,000円（税別） 一般　18,000円（税別） ウイスキーコニサー資格保有者　9,000円（税別）
申込み	ウイスキーコニサーオフィシャルホームページよりお申込みください。 https://scotchclub.org/whiskyconnoisseur/

ウイスキーレクチャラー（WL）



2017年より、ウイスキー文化研究所ではウイスキープロフェッショナル有資格者以上を対象に、講師養成講座を受講して、試験に合格された方を「ウイスキーレクチャラー」として公式に認定しています。認定講師は、現在、全国各地のカルチャースクールなどで活躍しています。

試験対策として

ウイスキーコニサー資格認定試験の受験者のために、各種教本や過去問題集が発売されています。ウイスキー文化研究所のオンラインショップより購入することができます。（http://www.scotchclub-shop.org/）
また、受験に向けての１日集中対策講座も開催されています。

■ウイスキーコニサー資格認定試験教本
ウイスキーに関するあらゆる事柄を章ごとに分類し、年表や地図、図表を交えて詳しく解説。上巻では、酒類・ウイスキーの定義から製造、テイスティング、単位について。下巻では、スコッチ、アイリッシュ、アメリカン、カナディアン、ジャパニーズ、その他の国々の蒸留所について掲載されています。

■過去問題集
過去３～４年分の試験問題と解答をまとめて１冊に収録しています。

■集中対策講座（WE.WP）
受験に向けて東京と大阪で１日集中対策講座が行われます。試験問題の傾向や、勉強のポイントをテキストに沿って解説するとともに、ウイスキーの最新情報も聞くことができます。また、すでにコニサー資格を保有されている方のスキルアップとしても受講することができます。





ミリオン商事株式会社
〒135-0016 東京都江東区東陽5-26-7 TEL : 03-3615-0411 FAX : 03-3615-0414 Email: tsukatsu@milliontd.co.jp URL: http://www.milliontd.co.jp



WILD TURKEY®
RARE BREED

ワイルドターキー　レアブリード

ワイルドターキー レアブリードは6、8、12年の原酒をブレンド後、
一切加水をしないカスクストレングスバーボンウイスキー。スパイシーさと甘さの
絶妙な味わいをたのしめる逸品。



TOKYO
WHISKY & SPIRITS
COMPETITION
銀賞受賞



ストップ! 20歳未満飲酒・飲酒運転。
妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。

株式会社 明治屋

Aberfeldy 12 YO / Arran 10 YO / Benromach Single Cask 2008 Whisky Festival 2016 in Tokyo / Blair Athol 2009 8 YO A.D. Rattray Whisky Galore 1st Year Anniversary / Bowmore 15 YO / Bruichladdich The Classic Laddie / Caol Ila 12 YO / Cragganmore 12 YO / Glen Grant 10 YO / Glen Grant 12 YO / Glen Scotia Campbeltown Harbour / Glenallachie 12 YO / Glenfarclas 105 Cask Strength / Glenfiddich 18 YO Small Batch Reserve / Glenmorangie The Original 10 YO / Glenmorangie Lasanta 12 YO / Glenmorangie Nectar d'Or 12 YO / Lagavulin 16 YO / Oban 14 YO / Octomore 09.1 Scottish Barley / Old Pulteney Huddart / Port Charlotte 10 YO / Pulteney 2007 A.D. Rattray Whisky Festival 10th Anniversary / Royal Lochnagar 12 YO / Talisker 18 YO / The Deveron 12 YO / Tomatin Cask Strength / Tomatin Legacy / Tomatin 12 YO / Wolfburn Langskip / The Founders Reserve 10 YO / Ballantine's Master's / Ballantine's 30 YO / Dewar's 18 YO / Islay Mist 8 YO Amontillado Napoleon Cask Finish / John Walker & Sons King George V / Johnnie Walker Black Label 12 YO / Johnnie Walker 18 YO / The Tweeddale 28 YO The Evolution / White Horse 12 YO / Akashi 10 YO Old Sherry Butt / Hakushu 18 YO / Ichiro's Malt Chichibu The Peated 2018 / Komagatake Double Cellars 2019 / Komagatake Tsunuki Aging Single Cask Hojo Selection 2018 / Miyagikyo / Paul Rusch 120th Anniversary of Birth / Yoichi / Fuji-Sanroku Signature Blend / Hibiki Japanese Harmony / Bushmills 16 YO / Bushmills 21 YO / Egan's Legacy Reserve 15 YO / Fercullen 14 YO Single Malt / Glendalough 7 YO Porter Barrel Finish / Pearse Cooper's Select / The Whistler Oloroso Sherry Cask Finish / Ala Wai Kiawe / Bulleit Bourbon / Four Roses Platinum / Four Roses Single Barrel / Kentucky Tavern / Koval Bourbon / Old Ezra 7 YO Barrel Strength / Rittenhouse Rye Bottled In Bond / Wild Turkey Rare Breed / 963 Amber Double Matured / 963 Black Double Matured / Ichiro's Malt & Grain World Blended Whisky / Kavalan Concertmaster / Kavalan Distillery Reserve Peaty Cask / Kavalan Distillery Reserve Rum Cask / Kavalan Podium / Omar Bourbon Cask Cask Strength / Omar 8 YO Bourbon Cask Cask Strength / Omar Plum Liqueur Barrel Cask Strength / Paul John Classic / Paul John Edited / Penderyn Sherrywood / Yamazakura 18 YO Pure Malt / Yamazakura 6 YO Cabernet Sauvignon Wine Cask Finish / Yamazakura 6 YO Chardonnay Wine Cask Finish / Yamazakura 6 YO Pinot Noir Wine Cask Finish / Hennessy X.O / Jean Fillioux Christophe Fillioux CF 50 / Pierre Lecat VSOP Experience / Chateau Garreau Folle Blanche 2001 / Dartigalongue 1989 / Domaine de Pouteou Folle Blanche 1994 / Lafontan 1989 / Emilio Lustau Brandy de Jerez Solera Gran Reserva / Sapporo Brandy Koshu 20 YO / Barbancourt Reserve du Domaine 15 YO / Compagnie des Indes Caraibes / Compagnie des Indes West Indies 8 YO / Dictador XO Insolent / Diplomatico Planas / Ie Rum Santa Maria Distillery Limited 1 / Ie Rum Santa Maria Premium T25 "Furusato Nozei" Return Gift / Laodi Brown / Lazy Dodo / Pusser’s British Navy Rum / Rum Nation Jamaica 7 YO Cask Strength / Akayane Craft Gin Juniper Berry / Craft Gin Okayama / Hinata / Kumamoto Jin Jin Gin / Masahiro Okinawa Gin Recipe 01 / Nikka Coffey Gin / Sakurao Gin Hamagou / Sipsmith VJOP / Tanqueray No.Ten / Kyro Napue Finland Gin / No.3 London Dry Gin / No.3 London Dry Gin Kingsman Edition / Adelaide Hills 78° Dry Gin / Giniversity Botanical Gin / Patient Wolf Summer Thyme Gin / Koval Barreled Gin / Koval Dry Gin / KWV Cruxland Dry Gin / Hernö Old Tom Gin / Alacrán Blanco / Casa de Luna Extra Anejo / Casa Maestri Tequila Flask Bottle / Cascahuin Extra Anejo / Don Julio Blanco / Don Julio Anejo / Patrón Reposado / Tatsumi Distillery Green Absinthe / Kanosuke New Born 2018 Mellowed For 8 Mos. In White Oak Casks

Ardbeg 10 YO / Ardbeg Corryvreckan / Ardmore Legacy / Cardhu 12 YO / Clynelish 14 YO / Dalwhinnie 15 YO / Glen Elgin 12 YO / Glen Grant 18 YO / Glenfiddich 12 YO / Glenfiddich 15 YO Solera Reserve / Glenmorangie Quinta Ruban 12 YO / Lagavulin 8 YO / Old Pulteney 12 YO / Port Charlotte Islay Barley 2011 / Talisker 10 YO / The Singleton Dufftown 12 YO / Tomatin Cù Bòcan / Wilson & Morgan House Malt Born On Islay / Wolfburn Aurora / Imperial Tribute / Johnnie Walker Green Label 15 YO / Monkey Shoulder / Selkie Batch 2 / Wilson & Morgan Sherry Cask Malt Highland Heart / Loch Lomond Single Grain / Ballantine's 12 YO / Ballantine's 17 YO / Ballantine's 17 YO Tribute Release Limited Edition / Ballantine's 21 YO / Dimple 12 YO / Islay Mist 8 YO Manzanilla La Gitana Cask Finish / Johnnie Walker Blue Label / Johnnie Walker Gold Label Reserve / Teacher's Highland Cream / Hakushu / Okayama / Yamazaki / Fuji-Gotemba Distiller's Select Single Grain / Fercullen 10 YO Single Grain / The Whistler 7 YO / The Whistler 10 YO / I.W.Harper 12 YO / Koval Four Grain / Maker's Mark / Town Branch Bourbon / 963 Red Double Matured / Kavalan Classic / Kavalan Solist Ex-Bourbon / Omar Orange Brandy Barrel Cask Strength / Paul John Peated / Bache Gabrielsen Fins Bois 1992 / Camus VSOP Elegance / Roger Groult Age 12 Ans / Bottega Alexander Grappa / Emilio Lustau Brandy de Jerez Solera Gran Reserva Finest Selection / Grappa Barili di Sassicaia / Grappa Monte Oeste / Iizuna Apple Brandy 2018 Blanche / Appleton Estate Rare Blend 12 YO / Bacardí Superior / Helios Teeda 5 YO / Ie Rum Santa Maria Gold / Ie Rum Santa Maria Premium T17 / Mount Gay Black Barrel / Nusa Caña Tropical Island Rum / Pusser’s Rum Gunpowder Proof / Villa Rica 23 YO Single Barrel / Akayane Craft Gin Green Tea / Awa Gin Clear Bottle / Jin Jin Gin / Kanomori / Kanoshizuku / Ki No Bi Kyoto Dry Gin / Ki No Bi Sei / Komasa Gin -Sakurajima Komikan- / Ori-Gin 1848 -Tropical & Rich- / Sakurao Gin Original / Wa Gin / Kirkjuvagr Arkh-Angell Storm Strength Orkney Gin / Silentpool Gin / Star of Bombay / Tanqueray London Dry Gin / Ferdinand's Saar Dry Gin / Applewood Gin / Patient Wolf Premium Dry Gin / Dictador Aged Gin Treasure / Alacrán Extra Añejo / Cuervo Tradicional Reposado / Don Fulano Strong Silver / Don Julio Real / Fortaleza Anejo / Karma Reposado / Patrón Silver / Sauza Blue / Cîroc / Pastis Av Skånska Spritfabriken / Suntory Casked Umeshu / Tumugi Buntan

9784909432117

1920077010001

ISBN978-4-909432-11-7
C0077 ¥1000E

発行：ウイスキー文化研究所
定価：本体1,000円 +税